

平成29年度(2017年)東邦音楽短期大学 シラバス

— 目 次 —

基礎教育科目(外国の言語と文化を含む)

東邦スタンダード I A	1
東邦スタンダード I B	3
東邦スタンダード II A	5
東邦スタンダード II B	7
キャリアデザイン	9
社会福祉概論〔老人・児童福祉を含む〕A	11
社会福祉概論〔老人・児童福祉を含む〕B	13
法と経済〔日本国憲法を含む〕A	15
法と経済〔日本国憲法を含む〕B	17
現代の心理学〔発達心理を含む〕A	19
現代の心理学〔発達心理を含む〕B	21
ひとを読み解く科学A	23
ひとを読み解く科学B	25
健康と音楽A	27
健康と音楽B	29
ドイツ語圏異文化コミュニケーション1	31
ドイツ語圏異文化コミュニケーション2	33
英語圏異文化コミュニケーション1	35
英語圏異文化コミュニケーション2	37
イタリア語圏異文化コミュニケーション1	39
イタリア語圏異文化コミュニケーション2	41

音楽専門教育科目 《学科》

和声学1	43
和声学2	45
和声学3	47
和声学4	49
ピアノ指導者教材研究A	51
ピアノ指導者教材研究B	53
レッスンマネジメントA	55
レッスンマネジメントB	57
シンギングポップスA	59
シンギングポップスB	61
サウンドクリエーションA	63
サウンドクリエーションB	65
THEプロフェッショナルA	67
THEプロフェッショナルB	69
音楽の基礎理論A	71
音楽の基礎理論B	73
音楽史A	75
音楽史B	77
楽器の特性と機能A	79
楽器の特性と機能B	81

音楽教養基礎講座【楽典】ⅠA	83
音楽教養基礎講座【楽典】ⅠB	85
音楽教養基礎講座【楽典】ⅡA	87
音楽教養基礎講座【楽典】ⅡB	89
音楽教養基礎講座【ソルフェージュ】ⅠA	91
音楽教養基礎講座【ソルフェージュ】ⅠB	93
音楽教養基礎講座【ソルフェージュ】ⅡA	95
音楽教養基礎講座【ソルフェージュ】ⅡB	97
楽曲の楽しみ方Ⅰ	99
作曲家の人生と作品Ⅰ	101
オーケストラⅠ・ⅡA	103
オーケストラⅠ・ⅡB	105
ウインドオーケストラⅠ・ⅡA	107
ウインドオーケストラⅠ・ⅡB	109
伴奏法	111
ピアノ指導法1	113
ピアノ指導法2	115
ピアノ指導法3	117
ピアノ指導法4	119
スタジオワークエクスペリメンション	121
アンサンブル〔ピアノ〕ⅠA	123
アンサンブル〔ピアノ〕ⅠB	125
アンサンブル〔ピアノ〕ⅡA	127
アンサンブル〔ピアノ〕ⅡB	129
アンサンブル〔電子オルガン〕Ⅰ・ⅡA	131
アンサンブル〔電子オルガン〕Ⅰ・ⅡB	133
アンサンブル〔管弦打〕Ⅰ・ⅡA	135
アンサンブル〔管弦打〕Ⅰ・ⅡB	137
即興演奏	139
電子オルガン即興演奏Ⅰ・ⅡA	141
電子オルガン即興演奏Ⅰ・ⅡB	143
合唱Ⅰ・ⅡA	145
合唱Ⅰ・ⅡB	147
演奏演習	149
ソルフェージュ1-a	151
ソルフェージュ1-b	153
ソルフェージュ1-c	155
ソルフェージュ2-a	157
ソルフェージュ2-b	159
ソルフェージュ2-c	161
ソルフェージュ3-a	163
ソルフェージュ3-b	165
ソルフェージュ4-a	167
ソルフェージュ4-b	169
リトミックⅠA	171
リトミックⅠB	173
リトミックⅡA	175
リトミックⅡB	177

音楽専門教育科目 《実技》

専攻実技1・2【声楽】	179
専攻実技3・4【声楽】	180
専攻実技1・2【器楽専攻 ピアノコース】	181
専攻実技3・4【器楽専攻 ピアノコース】	182
専攻実技1・2【器楽専攻 ピアノ指導者コース】	183
専攻実技3・4【器楽専攻 ピアノ指導者コース】	184
専攻実技1・2【器楽専攻 管弦打楽器コース】(弦楽器)	185
専攻実技3・4【器楽専攻 管弦打楽器コース】(弦楽器)	186
専攻実技1・2【器楽専攻 管弦打楽器コース】(木管楽器)	187
専攻実技3・4【器楽専攻 管弦打楽器コース】(木管楽器)	188
専攻実技1・2【器楽専攻 管弦打楽器コース】(金管楽器)	189
専攻実技3・4【器楽専攻 管弦打楽器コース】(金管楽器)	190
専攻実技1・2【器楽専攻 管弦打楽器コース】(打楽器)	191
専攻実技3・4【器楽専攻 管弦打楽器コース】(打楽器)	192
専攻実技1・2【器楽専攻 電子オルガンコース】	193
専攻実技3・4【器楽専攻 電子オルガンコース】	194
専攻実技1・2【コンポーザングアーティスト】	195
専攻実技3・4【コンポーザングアーティスト】	196
専攻実技1・2【音楽教養】	197
専攻実技3・4【音楽教養】	198
副科実技(ピアノ)ⅠA/B	199
副科実技(ピアノ)ⅡA/B	200
副科実技Ⅰ(声楽)A/B	201
副科実技Ⅱ(声楽)A/B	202
副科実技ⅠA/B(管弦打)(弦楽器)	203
副科実技ⅡA/B(管弦打)(弦楽器)	204
副科実技ⅠA/B(管弦打)(木管楽器)	205
副科実技ⅡA/B(管弦打)(木管楽器)	206
副科実技Ⅰ・ⅡA/B(管弦打)(金管楽器)	207

総合教育科目

ウィーンアカデミー	209
ヒューマンコミュニケーション1・2	210
インターンシップ	211
地域創造A・B	213

文化教養科目

PMEⅠA	215
PMEⅠB	217
PMEⅡA	219
PMEⅡB	221

外国人留学生に関する科目

日本事情ⅠA	223
日本事情ⅠB	225
日本事情ⅡA	227
日本事情ⅡB	229
日本語1	231
日本語2	233
日本語3	235
日本語4	237

科目名(クラス)	東邦スタンダード I A	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	小林 律子	履修対象・条件	全専攻必修(社会人を除く)				
【授業の概要】							
短大での学生生活を充実させるために必要な知識や方法を学ぶとともに、社会人になるために必要な基礎力を養います。マナーやコミュニケーション能力、図書館やインターネットの活用法、レポートの書き方、防犯や危機管理など、様々な視点から幅広く学びます。							
【授業の到達目標】							
学問の楽しさ、奥深さを理解し、東邦音楽短期大学で学ぶことを誇りに感じながら、能動的な学び方を実践することができる。防犯や危機管理についての意識を高め、安全に学生生活を送ることができる。							
【授業の「方法」と「形式】							
講義・演習形式。各テーマとも学生のワーク(個人またはグループでの作業)によって進められます。							
【履修時の「留意点」と「心得】							
学生自らが主体的に考えることが重視されます。発表や討議なども多いので、受け身ではなく積極的な態度で授業に臨んでください。毎回テキストを持参すること。正当な理由のない遅刻・欠席は認められません。							
【成績評価の「方法」と「基準】							
ポートフォリオ(30%)、レポート(40%)、授業内の評価(30%)をふまえて総合的に評価する。							
教科書	東邦スタンダード I A	著者等	東邦音楽短期大学	出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	学生生活における危機管理 非常時に対する備え・防災心得			予習:学生サポートブックの関連項目に目を通しておく。 復習:避難経路を確認する。日頃から防災意識を高める。			
第2回	東邦スタンダードとは 前期目標設定(ポートフォリオ記入)			予習:本授業のシラバスに目を通しておく。 復習:前期の目標をもとに、学生生活の計画をたてる。			
第3回	防犯講話(大塚警察署)			予習:最近の事件などについて知っておく。 復習:配布資料に詳しく目を通す。			

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	高校生から短大生へ ～短大での学び方～	予習:入学後の学び方を振り返ってみる。 復習:学んだことを実践に生かす。
第5回	学生生活とマナー・コミュニケーション	予習:入学後の学び方を振り返ってみる。 復習:学んだことを実践に生かす。
第6回	消費生活講話	予習:最近の事件などについて知っておく。 復習:学んだことを実践に生かす。
第7回	図書館の活用法	予習:図書館を探索してみる。 復習:図書館利用を習慣づける。
第8回	情報リテラシー	予習:普段のインターネット等の使い方を振り返ってみる。 復習:学んだことを実践に生かす。
第9回	労働法制について知る	予習:新聞等で、労働問題について知識を得る。 復習:学んだことを実践に生かす。
第10回	読書のすすめ	予習:読書の時間を持っているかどうか振り返る。 復習:授業で紹介された本を読んでみる。
第11回	レポートの書き方	予習:文章を書くときの様式や構成について考えておく。 復習:授業で学んだことをレポート作成に生かす。
第12回	OB・OG講演会	予習:質問事項を整理しておく。 復習:参考になったことを整理する。
第13回	将来をイメージする	予習:自分の将来像を描いてみる。 復習:授業で考えたことを実践する。
第14回	夏期休業中の目標設定	予習:夏期休業中の目標をあらかじめ考えておく。 復習:設定した目標を実践に移す。
第15回	振り返り(ポートフォリオ作成・レポート提出)	予習:前期の学生生活を振り返る。 復習:学んだ内容を実践に生かす。

科目名(クラス)	東邦スタンダード I B	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	小林 律子	履修対象・条件	全専攻必修(社会人を除く)				
【授業の概要】		短大での学生生活を充実させるために必要な知識や方法を学ぶとともに、社会人になるために必要な基礎力を養います。話の聴き方や質問の仕方、などを幅広く学びます。それと同時に、音楽業界や一般社会で活躍する方々の講演から将来へのヒントを得ます。					
【授業の到達目標】		勉強法、グループ討議と発表など、基本が理解できているだけでなく、チーム内での役割と責任を果たすことができる。					
【授業の「方法」と「形式】		講義・演習形式。各テーマとも学生のワーク(個人またはグループでの作業)によって進められます。					
【履修時の「留意点」と「心得】		学生自らが主体的に考えることが重視されます。発表や討議なども多いので、受け身ではなく積極的な態度で授業に臨んでください。毎回テキストを持参すること。正当な理由のない遅刻・欠席は認められません。					
【成績評価の「方法」と「基準】		ポートフォリオ(30%)、レポート(40%)、授業内の評価(30%)をふまえて総合的に評価する。					
教科書	東邦スタンダード I B	著者等	東邦音楽短期大学	出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)					
第1回	夏期休業期間の振り返り・後期目標設定	予習:夏期休業中の成果を振り返る。 復習:後期の目標を踏まえて学習計画を立てる。					
第2回	キャリア支援センターの活用法	予習:学生サポートハンドブックの関連項目に目を通す。 復習:キャリア支援センターを実際に訪れてみる。卒業後の進路に向けて活用する。					
第3回	コミュニケーションの基本①	予習:日頃のさまざまな場面でのコミュニケーションについて考える。 復習:学んだ内容を実践に生かす。					

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	コミュニケーションの基本②	予習:日頃のさまざまな場面でのコミュニケーションについて考える。 復習:学んだ内容を実践に生かす。
第5回	新聞・雑誌の活用法	予習:様々な新聞・雑誌に目を通す。 復習:学んだことを実践に生かす。
第6回	聴く力「音楽人・社会人の話を聴く」に向けて	予習:ふだんの質問の仕方を振り返る 復習:学んだことを実践に取り入れる。
第7回	音楽人・社会人の話を聴く①	予習:質問したいことを整理する。 復習:参考になった点を整理する。
第8回	音楽人・社会人の話を聴く②	予習:質問したいことを整理する。 復習:参考になった点を整理する。
第9回	音楽人・社会人の話を聴く③	予習:質問したいことを整理する。 復習:参考になった点を整理する。
第10回	音楽人・社会人の話を聴く(まとめ)	予習:講演の内容を振り返る。 復習:レポートの書き方を振り返る。
第11回	グループ討議①	予習:普段の話し合いの仕方を振り返る。 復習:学んだことを実践に生かす。
第12回	グループ討議②	予習:普段の話し合いの仕方を振り返る。 復習:学んだことを実践に生かす。
第13回	短大2年生の発表を聴く(聴き方の実践)	予習:質問したい事項や、関心のある事項について考えておく。 復習:次年度に活用すべき点を整理する。
第14回	振り返り①(ポートフォリオ作成・レポート提出)	予習:後期の学生生活を振り返る。 復習:学んだ内容を実践に生かす。
第15回	振り返り②(ポートフォリオ作成・レポート提出)	予習:後期の学生生活を振り返る。 復習:学んだ内容を実践に生かす。

科目名(クラス)	東邦スタンダードⅡA	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	伊藤 和広	履修対象・条件	全専攻必修(社会人を除く)				
【授業の概要】							
社会で働くことの意味、社会の中で各自が果たしうる役割について考えるとともに、コミュニケーション力など社会人に必要な基礎力(社会人基礎力)を身につけます。							
【授業の到達目標】							
効果的な本の読み方、調べ方など、学びの方法論をつかむことができる。社会の中での様々な考え方や視点を理解し、自分の考えを適切な言葉や文章で表現することができる。							
【授業の「方法」と「形式】							
講義・演習形式。各テーマとも学生のワーク(個人またはグループでの作業)によって進められます。							
【履修時の「留意点」と「心得】							
学生自らが主体的に考えることが重視されます。発表や討議なども多いので、受け身ではなく積極的な態度で授業に臨んでください。毎回テキストを持参すること。正当な理由のない遅刻・欠席は認められません。							
【成績評価の「方法」と「基準】							
ポートフォリオ(30%)、レポート(40%)、授業内の評価(30%)をふまえて総合的に評価する。							
教科書	東邦スタンダードⅡA	著者等	東邦音楽短期大学	出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	学生生活における危機管理 非常時に対する備え・防災心得			予習:学生サポートブックの関連項目に目を通しておく。 復習:避難経路を確認する。日頃から防災意識を高める。			
第2回	東邦スタンダードとは 前期目標設定(ポートフォリオ記入)			予習:本授業のシラバスに目を通しておく。 復習:前期の目標をもとに、学生生活の計画をたてる。			
第3回	社会が求める人物像①			予習:テキストに目を通しておく。 復習:学んだ内容を実践に生かす。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	社会が求める人間像②	予習:テキストに目を通しておく。 復習:学んだ内容を実践に生かす。
第5回	社会で働くことの意味	予習:働くことについて、自分なりに考えを深めておく。 復習:学んだことを職業選択の参考とする。
第6回	伝わる話し方	予習:自分の話し方を振り返る。 復習:学んだことを実践に生かす。
第7回	図書館の活用法	予習:図書館を探索してみる。 復習:図書館利用を習慣づける。
第8回	情報リテラシー	予習:普段のインターネット等の使い方を振り返ってみる。 復習:学んだことを実践に生かす。
第9回	労働法制について知る	予習:新聞等で、労働問題について知識を得る。 復習:学んだことを実践に生かす。
第10回	伝える書き方 -正確な文章表現- ①	予習:自分の文章表現を振り返る。 復習:学んだことを実践に生かす。
第11回	伝える書き方 -正確な文章表現- ②	予習:自分の文章表現を振り返る。 復習:学んだことを実践に生かす。
第12回	OB・OG講演会	予習:質問事項を整理しておく。 復習:参考になったことを整理する。
第13回	伝わる発表の仕方①(発表準備)	予習:普段の話し合いや発表の仕方を振り返る。 復習:学んだことを実践に生かす。
第14回	伝わる発表の仕方②(発表の実践)	予習:普段の話し合いや発表の仕方を振り返る。 復習:学んだことを実践に生かす。
第15回	振り返り(ポートフォリオ作成・レポート提出)	予習:前期の学生生活を振り返る。 復習:学んだ内容を実践に生かす。

科目名(クラス)	東邦スタンダードⅡB	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	伊藤 和広	履修対象・条件	全専攻必修(社会人を除く)				
【授業の概要】		社会で働くことの意味、社会の中で各自が果たしうる役割について考えるとともに、コミュニケーション力など社会人に必要な基礎力(社会人基礎力)を身につけます。					
【授業の到達目標】		優れたバランス感覚、自分なりの価値観、思考力をもとに的確な判断ができ、それを言葉や文章で表現することができる。主体性を持ちながら周囲と協業する力を身につけ、その成果を発表することができる。					
【授業の「方法」と「形式」】		講義・演習形式。各テーマとも学生のワーク(個人またはグループでの作業)によって進められます。					
【履修時の「留意点」と「心得」】		学生自らが主体的に考えることが重視されます。発表や討議なども多いので、受け身ではなく積極的な態度で授業に臨んでください。毎回テキストを持参すること。正当な理由のない遅刻・欠席は認められません。					
【成績評価の「方法」と「基準」】		ポートフォリオ(30%)、レポート(40%)、授業内の評価(30%)をふまえて総合的に評価する。					
教科書	東邦スタンダードⅡB	著者等	東邦音楽短期大学	出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)					
第1回	夏期休業期間の振り返り・後期目標設定	予習:夏期休業中の成果を振り返る。 復習:後期の目標を踏まえて学習計画を立てる。					
第2回	卒業演奏旅行に向けて	予習:卒業演奏旅行の準備状況を確認する。 復習:卒業演奏旅行の準備を進める。					
第3回	卒業演奏旅行	予習:卒業演奏旅行の準備を進める。 復習:卒業演奏旅行の成果を振り返る。					

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	ロジカル・シンキング①	予習: 普段の自分の考え方を振り返ってみる。 復習: 学んだことを実践に生かす。
第5回	ロジカル・シンキング②	予習: 普段の自分の考え方を振り返ってみる。 復習: 学んだことを実践に生かす。
第6回	聴く力「音楽人・社会人の話を聴く」に向けて	予習: 普段の聴き方について振り返る。 復習: 学んだことを実践に生かす。
第7回	音楽人・社会人の話を聴く①	予習: 質問したいことを整理する。 復習: 参考になった点を整理する。
第8回	音楽人・社会人の話を聴く②	予習: 質問したいことを整理する。 復習: 参考になった点を整理する。
第9回	音楽人・社会人の話を聴く③	予習: 質問したいことを整理する。 復習: 参考になった点を整理する。
第10回	音楽人・社会人の話を聴く(まとめ)	予習: 講演の内容を振り返る。 復習: レポートの書き方を振り返る。
第11回	短大2年間の学びを振り返って 一後輩たちへのメッセージ ①	予習: 短大2年間の成果、反省点などを整理しておく。 復習: グループ討議の内容をまとめておく。
第12回	短大2年間の学びを振り返って 一後輩たちへのメッセージ ②	予習: 短大2年間の成果、反省点などを整理しておく。 復習: グループ討議の内容をまとめ、次回の発表の準備をすすめる。
第13回	短大2年間の学びを振り返って 一後輩たちへのメッセージ ③	予習: 発表の準備を整えておく。 復習: 発表の成果を振り返る。
第14回	振り返り①(ポートフォリオ作成・レポート提出)	予習: 短大での学生生活を振り返る。 復習: 学んだ内容を実践に生かす。
第15回	振り返り②(ポートフォリオ作成・レポート提出)	予習: 短大での学生生活を振り返る。 復習: 学んだ内容を実践に生かす。

科目名(クラス)	キャリアデザイン		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	キャリア支援センター	履修対象・条件	全専攻必修。社会人は選択					
【授業の概要】								
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽大学での学びと就職をうまく結び付けられないと感じる人のための講座です。 ・本講座では音大生としての自分を客観視し、その強み弱みを整理したうえで、自らの目標や夢を実現するための就職活動スキル向上の具体的方法を学びます。 								
【授業の到達目標】								
<ol style="list-style-type: none"> ①ワークショップ形式の講義を行うことにより、コミュニケーション力を身に付ける。 ②音楽大学で学ぶことがどのような強みを持っているのかの自覚を促す。 ③大学生活の充実と就職活動のつながりについて理解する。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
ワークショップを採り入れた講義で1回90分、全15回の授業。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
自分自身の将来を考える良い機会となります。就職活動のためだけでなく、自分自身のスキルアップを目指して積極的な参加を望みます。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
・授業での積極性(グループワークでの発言や課題への取組み)及び毎回の授業毎の感想文と複数回のレポート(60%) 学期末テストの成績(40%)で総合的に判断する。								
教科書	各回ごと必要に応じ、プリント配布。		著者等		出版社			
教科書			著者等		出版社			
参考文献			著者等		出版社			
参考文献			著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	オリエンテーション ～自分にあった仕事さがし～ ・社会にはどんな仕事があるのかを知り、自分にとっての適職は何かを考える。				予習: 自分のやりたい仕事は何かを考えておく。 復習: 適職診断テストを受ける。			
第2回	就職活動の流れを理解する ～社会とは?仕事とは?～ ・社会に必要な力とは何かを知る。 ・学生を取り巻く環境を伝え、今後の進路をしっかりと考えるよう促す。				予習: 自分に必要な力とは何かを考えておく。 復習: 自分の就活スケジュールを作成する。			
第3回	キャリアプランニング ～学生生活を振り返り、今後の進路について考える～ ・キャリアプランシートを作成する。 ・音大生としての自分を客観視する。				予習: 学生生活での活動を整理しておく。 復習: 「キャリアプランシート」を完成させる。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	社会で必要な力 ～コミュニケーション力①～ ・理論で学ぶコミュニケーション術 ・価値観の違いを理解する。	予習:コミュニケーションとは何かを考えておく。 復習:自分にとって大事なもの(こと)は何かをまとめる。
第5回	社会で必要な力 ～コミュニケーション②～ ・相手の話を傾聴し、信頼を得る。 ・アサーティブなコミュニケーションの方法を身につける。	予習:「アサーティブ」とは何かを調べておく 復習:「アサーティブコミュニケーション」を意識した会話を試してみる。
第6回	社会で必要な力 ～文章力～ ・文章力を向上させる ・短所を長所に書換える方法を知る	予習:自分の長所・短所を整理しておく。 復習:自分のことを文章で表現してみる。
第7回	自分を知る ～就活基礎①～ 自己分析 ・自分自身の嗜好と強みを知る ・「自己分析シート」を作成する	予習:自分の趣味・嗜好を書きだしておく。 復習:自分の強みを整理し、自己分析シートを完成させる。
第8回	やりたいことを見つけよう ～就活基礎②～ 仕事研究・業界研究 ・仕事研究、業界研究の仕方を身につける。 ・就活基礎①自己分析を踏まえ、自分のやりたいことを見つける。	予習:自分のやりたい業界・仕事について考えておく。 復習:希望する業界仕事について知識を深める。
第9回	自己PRを作ってみよう ～就活実践①～ 自己PRの作成 ・就活基礎①②を基に自己PRを作成する。 ・作成した自己PRを発表する。	予習:前回までに作成した自分の強み、趣味嗜好、キャリアプランシートを準備する。 復習:作成した自己PRに対し他人からの評価を仰ぐ。
第10回	社会で必要な力 ～基礎学力①～ ・基礎学力(国語)の強化 ※ゲーム感覚で基礎学力強化	予習:「SPIテスト」について調べる。 復習:SPI言語問題集に取り組む。
第11回	魅力的な応募書類の作成方法 ～就活実践②～ 履歴書・エントリーシートの作成 ・応募書類の基礎、マナーを身につける。 ・自分の魅力を伝える書き方のポイントを身につける。	予習:前回までに作成した自分の強み、趣味嗜好、キャリアプランシートを準備する。 復習:読みやすい文字・文章・余白を意識して何度も書いてみる。
第12回	社会で必要な力 ～基礎学力②～ ・基礎学力(社会)の強化 ※ゲーム感覚で基礎学力強化	予習:日頃から新聞を読む。 復習:中学・高校時の教科書を読む。 一般常識問題集に取り組む。
第13回	面接シミュレーション ～就活実践③～ 面接対策 ・面接の種類、心構え、企業人事は何を見ているのかを理解する。 ・グループディスカッション、個人面接の体験をする。	予習:面接に必要な要素を自分なりに考えておく。 復習:何度もリハーサルを重ね、他人の意見を聴く。
第14回	社会で必要な力 ～基礎学力③～ ・基礎学力(数学)の強化 ※ゲーム感覚で基礎学力強化	予習:SPIテスト(非言語)について調べる。 復習:SPI非言語問題集に取り組む。
第15回	まとめ/卒業後の進路と今後の学生生活を考える ・PDCのまわし方と重要性を知る。 ・本講義を通じて、卒業後どうするか、そのためにどのような学生生活を送るのかを考え、目標設定する。 ・確認小テストの実施	予習:今までのテキストを読み返しておく。 復習:今後の学生生活の目標を設定する。

科目名(クラス)	社会福祉概論 〔老人・児童福祉を含む〕A		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	佐々木 和佳	履修対象・条件						
【授業の概要】								
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉はすべての人がより人間らしく生きるために不可欠なものです。この授業では、社会福祉に関する基本的な知識を身につけるとともに、我が国や諸外国の現状を通して、身近な出来事として考えていきます。 ・社会福祉概論Aでは、社会福祉についての基本的なことと、様々な障害について理解を深めます。 								
【授業の到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> ・自らの生活の身近にあること等を通して、社会福祉や障害について深く理解することができる。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式 ・より理解を深めるためにDVD等の視聴覚教材を使用します。 								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・身近なこと等を通して、自らが考えることに重点を置いています。発言等、積極的な授業参加を望みます。 ・遅刻、途中退席は原則として認めません。欠席をした場合は、出席した人に資料やノートを見せてもらい、休んだ回の内容を把握した上で講義へ望んでください。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への積極性(発言、課題レポートへの取り組みなど) 50% ・筆記試験 50% 								
教科書	新 社会福祉とは何か 第2版	著者等	大久保秀子	出版社	中央法規			
教科書		著者等		出版社				
参考文献	障害科学	著者等	徳田克己	出版社	文化書房博文社			
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	社会福祉概論で何を学ぶのか			予習:シラバスを読んで各回の視点(テーマ)を押さえておく。 復習:興味を持った視点(テーマ)について調べる。				
第2回	社会福祉とは何か①(意義、概念、原理)			予習:教科書第1章①～③を読む。 復習:社会福祉の意義、概念、原理について教科書や配布資料を読みさらに理解を深める。				
第3回	社会福祉とは何か②(社会保障、社会福祉を支える人)			予習:教科書第1章④～⑥を読む。 復習:社会保障、社会福祉を支える人について教科書や配布資料を読みさらに理解を深める。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	社会福祉の歴史①(日本)	予習:教科書第2章①を読む。 復習:日本における社会福祉の歴史について、教科書や配布資料を読みさらに理解を深める。
第5回	社会福祉の歴史②(諸外国)	予習:教科書第2章②を読む。 復習:諸外国の社会福祉の歴史について、教科書や配布資料を読みさらに理解を深める。
第6回	社会福祉の法と行財政①(社会福祉法制)	予習:教科書第3章①を読む。 復習:社会福祉法制について、教科書や配布資料を読みさらに理解を深める。
第7回	社会福祉の法と行財政②(行政機関、財政)	予習:教科書第3章②③を読む。 復習:行政機関、財政について、教科書や配布資料を読みさらに理解を深める。
第8回	視覚障害	予習:前回の授業で出された課題に取り組む。 復習:授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第9回	聴覚障害、言語障害	予習:前回の授業で出された課題に取り組む。 復習:授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第10回	肢体不自由	予習:前回の授業で出された課題に取り組む。 復習:授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第11回	知的障害、広汎性発達障害	予習:前回の授業で出された課題に取り組む。 復習:授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第12回	精神障害	予習:前回の授業で出された課題に取り組む。 復習:授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第13回	認知症	予習:前回の授業で出された課題に取り組む。 復習:授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第14回	高次脳機能障害	予習:前回の授業で出された課題に取り組む。 復習:授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第15回	本科目の総括(振り返り)	予習:各回のテーマを振り返る。 復習:授業で学んだことから、身近な問題へ関心を持ち続ける。

科目名(クラス)	社会福祉概論 〔老人・児童福祉を含む〕B		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	佐々木 和佳	履修対象・条件						
【授業の概要】								
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉はすべての人がより人間らしく生きるために不可欠なものです。この授業では、社会福祉に関する基本的な知識を身につけるとともに、我が国や諸外国の現状を通して、身近な出来事として考えていきます。 ・社会福祉概論Bでは、様々な分野における施策や社会福祉に携わる人たちの仕事内容等を通して社会福祉に対する理解を深めます。 								
【授業の到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> ・自らの生活の身近にあること等を通して、様々な分野における施策や社会福祉について深く理解することができる。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式 ・より理解を深めるためにDVD等の視聴覚教材を使用します。 								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・身近なこと等を通して、自らが考えることに重点を置いています。発言等、積極的な授業参加を望みます。 ・遅刻、途中退席は原則として認めません。欠席をした場合は、出席した人に資料やノートを見せてもらい、休んだ回の内容を把握した上で講義へ望んでください。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への積極性(発言、課題レポートへの取り組みなど) 50% ・筆記試験 50% 								
教科書	新 社会福祉とは何か 第2版	著者等	大久保秀子	出版社	中央法規			
教科書		著者等		出版社				
参考文献	社会福祉の動向 2017	著者等	社会福祉の動向 編集委員会 編集	出版社	中央法規			
参考文献	社会福祉の手引き	著者等	東京都福祉保健局	出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	社会福祉ニーズと把握方法			予習:シラバスを読んで各回の視点(テーマ)を押さえておく。 復習:授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。				
第2回	ソーシャルワークの理解			予習:教科書第4章を読む。 復習:ソーシャルワークについて、教科書や配布資料を読みさらに理解を深める。				
第3回	社会福祉を担う人々①			予習:前回の授業で出された課題に取り組む。 復習:視聴覚教材を見た感想を書く。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	社会福祉を担う人々②	予習:前回の授業で出された課題に取り組む。 復習:視聴覚教材を見た感想を書く。
第5回	最低生活保障と生活保護制度	予習:教科書第5章を読む。 復習:生活保護制度について、教科書や配布資料を読みさらに理解を深める。
第6回	児童福祉①(少子化問題、児童虐待)	予習:教科書第6章①～③を読む。 復習:少子化問題、児童虐待について、教科書や配布資料を読みさらに理解を深める。
第7回	児童福祉②(相談機関と施設)	予習:教科書第6章④～⑥を読む。 復習:教科書や配布資料を読みさらに理解を深める。
第8回	障害者福祉①(概念と定義、障害者の概況)	予習:教科書第7章①②を読む。 復習:教科書や配布資料を読みさらに理解を深める。
第9回	障害者福祉②(生活保障の理念、動向)	予習:教科書第7章③～⑤を読む。 復習:教科書や配布資料を読みさらに理解を深める。
第10回	高齢者福祉①(高齢化問題、社会的孤立)	予習:教科書第8章①②を読む。 復習:教科書や配布資料を読みさらに理解を深める。
第11回	高齢者福祉②(介護保険制度)	予習:教科書第8章③～⑤を読む。 復習:教科書や配布資料を読みさらに理解を深める。
第12回	地域福祉	予習:教科書第9章を読む。 復習:教科書や配布資料を読みさらに理解を深める。
第13回	ノーマライゼーションの考え方、バリアフリーとユニバーサルデザイン	予習:前回の授業で出された課題に取り組む。 復習:身近にある、バリアフリーやユニバーサルデザインに意識を向ける。
第14回	近年の社会福祉施策の動向	予習:教科書第10章を読む。 復習:教科書や配布資料を読みさらに理解を深めるとともに、関心を持ったことについて調べる。
第15回	本科目の総括(振り返り)	予習:各回のテーマを振り返る。 復習:授業で学んだことから、身近な問題へ関心を持ち続ける。

科目名(クラス)	法と経済〔日本国憲法を含む〕A	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	川端 敏朗	履修対象・条件					
【授業の概要】							
私たちの日常生活では、法的な判断をしなければならない数多くの場面に出会います。そこで、この講義では、日本国憲法(国家の統治および組織に関する基本法)をはじめとする法、特に経済と関連する法律である民法、会社法、消費者法やその仕組みなどが実際の社会生活でどのような働きをしているかについて、裁判例や具体的な事例などを通して理解することができるようになります。							
【授業の到達目標】							
法の果たす機能や法の必要性を考察し、法的なものの見方・考え方＝リーガル・マインドを身につけることができるようにし、法的な事象について具体的な考察ができるようになります。							
【授業の「方法」と「形式」】							
・講義形式ですが、身近な例をあげ、学生自ら考察できるようにします。また資料などを用いて具体例も明示します。							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
・履修にあたり、テキストの該当項目をよく確認してください。受講中にはノートをしっかりとるように心がけてください。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
・定期試験およびレポート(60%)、受講中の熱意や積極性(40%)を踏まえ総合的に評価します。							
教科書	プライマリー法学	著者等	茂野隆晴編著	出版社	芦書房		
教科書		著者等		出版社			
参考文献	エッセンシャル実定法学	著者等	佐藤・茂野編著	出版社	芦書房		
参考文献	ポケット六法 平成29年版	著者等		出版社	有斐閣		
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	私たちの生活のなかで法が果たす役割			予習:教科書の法の意義の項目をよく確認しておく。 復習:講義で扱った法のさまざまな内容について整理し、理解しておく。			
第2回	法概念(現代社会での法の役割)			予習:教科書の法の概念の項目をよく確認しておく。 復習:講義で扱った法のさまざまな働きについて整理し、理解しておく。			
第3回	法と道徳、法の存在形式、法の分類			予習:教科書で法と道徳、法の存在形式、法の分類の項目をよくみしておく。 復習:講義で扱った事項について整理、理解しておく。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	法の実質的効力および形式的効力—法の妥当性と実効性, 法の効力の根拠, 悪法もまた法である, 法の時・場所・事項に関する効力など	予習:教科書の法の効力に関する項目をよく確認しておく。 復習:講義で扱った法の効力について整理し, 理解しておく。
第5回	日本国憲法の基本原理—日本国憲法の柱は何か—国民主権主義, 永久平和主義, 基本的人権尊重主義について	予習:教科書の日本国憲法の基本原理の項目をよく確認しておく。 復習:講義で扱った日本国憲法の基本原理を整理しておく。
第6回	基本的人権とは—人権保障のカタログ	予習:教科書の第2部第1章2を読んでおく。 復習:講義で扱った基本的人権の概念を整理しておく。
第7回	基本的人権と公共の福祉	予習:教科書の第2部第1章2を読んでおく。 復習:講義で扱った基本的人権と公共の福祉について整理しておく。
第8回	平等権, 自由権, 社会権—法の下での平等など	予習:教科書の第2部第1章の2を読んでおく。 復習:講義で扱った平等権, 自由権, 社会権について整理しておく。
第9回	国会, 内閣, 裁判所	予習:教科書の第2部第1章の3を読んでおく。 復習:講義で扱った国会, 内閣, 裁判所のはたらきについて整理しておく。
第10回	民法(財産法)—制限行為能力者, 契約や所有権	予習:教科書で日常生活に関する法である民法について考えてみる。 復習:講義で扱った制限行為能力者, 契約や所有権について整理, 理解しておく。
第11回	民法(家族法)—親族や相続, 遺留分, 遺言	予習:教科書の親族や相続に関する事項をよく読んでおく。 復習:講義で扱った親族や相続, 遺留分, 遺言について整理しておく。
第12回	消費者保護のための法律	予習:私たちの生活のなかでの消費者契約について考えてみる。 復習:講義で扱った消費者契約法や特定商取引法について整理しておく。
第13回	商法—会社法, 有価証券法	予習:生活のなかの会社や手形, 小切手について考えてみる。 復習:講義で扱った会社や手形, 小切手を整理しておく。
第14回	経済法—私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律(独占禁止法など)	予習:独占禁止法とは何かを考えてみる。 復習:講義で扱った独占禁止法が規定している事項を理解する。
第15回	この講義で扱った事項のまとめ(振り返り)	予習:この講義で扱った事項を再度確認しておく。 復習:講義内容の全体を整理しておく。

科目名(クラス)	法と経済〔日本国憲法を含む〕B	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	川端 敏朗	履修対象・条件					
【授業の概要】							
<p>私たちの日常生活では、法的な判断をしなければならない数多くの場面に出会います。そこで、この講義では、日本国憲法(国家の統治および組織に関する基本法)をはじめとする法、特に経済と関連する法である民法、会社法、消費者法やその仕組みなどが実際の社会生活でどのような働きをしているかについて、裁判例や具体的な事例などを通して理解することができるようになります。</p>							
【授業の到達目標】							
<p>法の果たす機能や法の必要性を考察し、法的なものの見方、考え方＝リーガル・マインドを身につけることができるようにし、法的な事象について具体的な考察ができるようになります。</p>							
【授業の「方法」と「形式」】							
<p>・講義形式ですが、身近な例をあげ、学生自らが考察できるようにします。また、資料などを用いて具体例も明示します。</p>							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
<p>・履修にあたり、テキストの該当項目をよく確認してください。受講中にはノートをしっかりとるようにこころがけてください。</p>							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
<p>・定期試験およびレポート(60%)、受講中の熱意や積極性(40%)を踏まえ総合的に評価します。</p>							
教科書	プライマリー法学	著者等	茂野隆晴編著	出版社	芦書房		
教科書		著者等		出版社			
参考文献	エッセンシャル実定法学	著者等	佐藤・茂野編著	出版社	芦書房		
参考文献	ポケット六法 平成29年版	著者等		出版社	有斐閣		
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	法の基本的な機能			<p>予習:法の必要性について考察してみる。 復習:法の機能や必要性について整理しておく。</p>			
第2回	国家と法(国家の三要素など)			<p>予習:教科書の第1部第4章をよく確認しておく。 復習:国家の三要素について整理しておく。</p>			
第3回	日本国憲法の全体像			<p>予習:教科書の第2部第1編第1章をよく読んでおく。 復習:日本国憲法の全体の構成を整理しておく。</p>			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	基本的人権①(人権確保のための権利など)	予習:教科書の第2部第1編第1章2を読んでおく。 復習:日本国憲法の人権の概念を整理しておく。
第5回	基本的人権②(新しい人など)	予習:新しい人権にはどのようなものがあるか考えてみる。 復習:新しい人権について整理しておく。
第6回	国会, 内閣, 裁判所の地位・権能	予習:教科書の第2部第1編第1章3を読んでおく。 復習:国会, 内閣, 裁判所の働きを整理しておく。
第7回	地方自治の仕組みや憲法改正	予習:教科書の地方自治の仕組みや憲法改正の事項を読んでおく。 復習:地方自治の仕組みや憲法改正について整理しておく。
第8回	民法上の問題①(成年後見ならびに介護保険制度に関する法)	予習:教科書の成年後見と介護保険制度に関する事項をよく読んでおく。 復習:成年後見と介護保険制度に関する事項をまとめておく。
第9回	民法上の問題②(意思表示と詐欺, 強迫)	予習:意思表示について考えてみる。 復習:意思表示ならびに詐欺, 強迫による意思表示について整理しておく。
第10回	民法上の問題③(契約や不法行為)	予習:契約や不法行為について考えてみる。 復習:債権発生原因について整理しておく。
第11回	著作権法上の問題	予習:著作権法とは何かを考えてみる。 復習:著作権の基本問題について整理しておく。
第12回	刑法(犯罪や刑罰に関する法)上の問題	予習:刑法はどのような法律であるかについて考えてみる。 復習:刑法の基本問題について整理しておく。
第13回	消費者保護のための法律—特定商取引法	予習:特定商取引法はどのような法律であるかについて考えてみる。 復習:特定商取引法の内容について整理しておく。
第14回	情報化社会と法, 電子商取引	予習:情報化社会にはどのような法律が必要かについて考えてみる。 復習:情報化社会のなかでの法の役割や電子商取引について整理しておく。
第15回	この講義で扱った事項のまとめ(振り返り)	予習:この講義で扱った事項を再度確認しておく。 復習:講義内容の全体を整理しておく。

科目名(クラス)	現代の心理学[発達心理を含む]A	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	徳富 政樹	履修対象・条件					
【授業の概要】							
<p>これまで「心理学」という言葉を聞いたこともないという方もいると思います。高等学校までの授業では心理学という科目がないのでそれも当然のことでしょう。しかし人間の心に関しては日々考えることがあり、素朴ながらも人間の心理について皆さんが考えているのも事実です。そこで、この授業では人間の心と行動について入門的なお話をしていこうと思います。身の周りにある事象を取り上げ、それをわかりやすく心理学的に解説していきます。前期では学習心理学、認知心理学、社会心理学といった心理学の基礎的分野についてお話をします。</p>							
【授業の到達目標】							
<p>心理学とはどのような研究をしている学問分野なのかを理解する。自分の身の回りの事象が一体どのような心理的メカニズムで生じているものなのか考察できるようになること。</p>							
【授業の「方法」と「形式」】							
基本的に講義形式です。							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
<p>この授業では板書をたくさんするのできちんとノートをとる必要があります。ただ書き写すだけではなく自分なりの説明を加えてわかりやすいノートを作成するようにしてください。当たり前のことですが、遅刻、無断早退、私語は厳禁です。</p>							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
レポート(70%)+授業への取り組み方(授業終了後の小レポート、授業時の積極性)(30%)で成績評価を行います。							
教科書		著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献	やさしい教育心理学 第3版	著者等	鎌原雅彦	出版社	有斐閣		
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	心理学入門			予習:心理学に対するイメージをまとめておく 復習:心理学の研究分野にはどのようなものがあるのか			
第2回	学習心理学 その1			予習:「学習」という言葉から受けるイメージをまとめておく 復習:古典的条件付けについてまとめてみる			
第3回	学習心理学 その2			予習:報酬の効果について自分なりのイメージをまとめておく 復習:道具的条件付けについてまとめてみる			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	学習心理学 その3	予習:人に対して道具的条件付けをどのようにすればいいか予め考えておく 復習:人に対する道具的条件付けの効果についてまとめてみる
第5回	学習心理学 その4	予習:人間と動物の学習の違いについて考えておく 復習:観察学習と自己強化についてまとめてみる
第6回	認知心理学 その1	予習:記憶についてのイメージをまとめておく 復習:記憶のプロセスについてまとめてみる
第7回	認知心理学 その2	予習:記憶の失敗体験をまとめておく 復習:なぜ記憶の失敗が生じるのかそのメカニズムをまとめてみる
第8回	認知心理学 その3	予習:目の錯覚が生じた経験をまとめておく 復習:目の錯覚を利用した広告事例を探してみる
第9回	認知心理学 その4	予習:脳の働きについての自分なりのイメージをまとめておく 復習:視覚と脳の関係についてまとめてみる
第10回	心理テスト実習 その1	予習:自分の性格特徴を列挙しておく 復習:内向・外向のそれぞれの概念についてまとめてみる
第11回	心理テスト実習 その2	予習:他者から聞いた自分の性格についてまとめておく 復習:心理テストの結果と自分で考える自分の性格のイメージとの相違点について考察する
第12回	社会心理学 その1	予習:集団が個人に対して影響を与えている事例を集めてみる 復習:他者や集団から影響される過程についてまとめてみる
第13回	社会心理学 その2	予習:「マインドコントロール」という言葉について調べておく 復習:マインドコントロールの過程についてまとめてみる
第14回	社会心理学 その3	予習:身の回りの見聞きしたことのある都市伝説についてまとめておく 復習:噂の伝搬過程についてまとめてみる
第15回	社会心理学 その4	予習:血液型と性格との関連についてのイメージをまとめておく 復習:心理学における血液型研究についてまとめてみる

科目名(クラス)	現代の心理学[発達心理を含む]B	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	徳富 政樹	履修対象・条件					
【授業の概要】							
<p>これまで「心理学」という言葉を聞いたこともないという方もいると思います。高等学校までの授業では心理学という科目がないのでそれも当然のことでしょう。しかし人間の心に関しては日々考えることがあり、素朴ながらも人間の心理について皆さんが考えているのも事実です。そこで、この授業では人間の心と行動について入門的なお話をしていこうと思います。身の周りにある事象を取り上げ、それをわかりやすく心理学的に解説していきます。後期授業では臨床心理学、発達心理学などの応用的分野についてのお話となります。</p>							
【授業の到達目標】							
心理学には様々な考え方があることを把握して、それぞれ違いを自分なりにまとめることができるようになること。							
【授業の「方法」と「形式】							
基本的に講義形式です。							
【履修時の「留意点」と「心得】							
この授業では板書をたくさんするのできちんとノートをとる必要があります。ただ書き写すだけではなく自分なりの説明を加えてわかりやすいノートを作成するようにしてください。当たり前のことですが、遅刻、無断早退、私語は厳禁です。							
【成績評価の「方法」と「基準】							
テスト(70%)+授業への取り組み方(授業終了後の小レポート、授業時の積極性)(30%)で成績評価を行います。							
教科書		著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献	やさしい教育心理学 第3版	著者等	鎌原雅彦	出版社	有斐閣		
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	感情心理学 その1			予習:感情について自分なりのイメージを予めまとめておく 復習:感情が生じるメカニズムについてまとめてみる			
第2回	感情心理学 その2			予習:悪徳商法について事例を調べておく 復習:人の感情の変化を利用したテクニックについてまとめてみる			
第3回	臨床心理学 その1			予習:カウンセリングという言葉のイメージを予めリストアップしておく 復習:様々なカウンセリングの考えかたを簡単にまとめてみる			

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	臨床心理学 その2	予習:フロイトとユングという人名を予め調べてみる 復習:フロイトの考えかたについてまとめてみる
第5回	臨床心理学 その3	予習:自分が見た夢をいくつかまとめてみる 復習:ユングの考えかたについてまとめてみる
第6回	臨床心理学 その4	予習:行動療法という言葉について予め調べておく 復習:行動療法についてまとめてみる
第7回	臨床心理学 その5	予習:認知療法という言葉について予め調べておく 復習:認知療法についてまとめてみる
第8回	心理テスト実習 その1	予習:自分自身の無意識にあるものをイメージしてまとめておく 復習:質問紙法と投影法の違いについてまとめてみる
第9回	心理テスト実習 その2	予習:前回の心理テストで作成したものを完成させる 復習:心理テストから見た自分の正確について自分なりの考えかたをまとめてみる
第10回	発達心理学 その1	予習:自分の生まれ育った歴史を振り返ってみる 復習:「発達」という言葉の意味をまとめてみる
第11回	発達心理学 その2	予習:発達に必要なものをイメージしてみる 復習:発達の過程についてまとめてみる
第12回	発達心理学 その3	予習:頭がいいとはどういうことが予めまとめておく 復習:知能指数の概念についてまとめてみる
第13回	発達心理学 その4	予習:知能が発達する過程について自分なりのイメージをまとめてみる 復習:ピアジェの発達段階の考え方をまとめてみる
第14回	発達心理学 その5	予習:自分が将来何になりたいのかのイメージをまとめてみる 復習:エリクソンの自我同一性の考えかたについてまとめてみる
第15回	まとめ	予習:これまで授業内容について振り返ってみる 復習:心理学とは何かについて自分なりの考えかたをまとめてみる

科目名(クラス)	ひとを読み解く科学A		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1・2
担当教員	三室戸 元光	履修対象・条件						
【授業の概要】								
<p>人の内面を読み解く方法をアセスメントといい、言葉や文章、数値や量的データを用いる方法と、制作物・作品又は教示物への反応等によって行う方法などが代表的です。アセスメントを、日常生活でどのようにマネジメントして活かしていくかを考えます。前期前半には、ひとの「(悪い)ストレス」を減らし、「(適度な)ストレス」に変えていくマネジメントの練習を、段階的に個人内・ペア学習・グループ学習で学びます。また、前期後半には、質問紙を使ったアセスメントで自分自身や他者の理解を進め、簡単なカウンセリングのトレーニングができるようにしていきます。</p>								
【授業の到達目標】								
<p>ひとの内面を読み解く方法を使って、自分自身や同じ仲間をサポートできるようにするのが、この科目の目的です。自分自身や他者の内面に触れ理解を深めることによって、自分自身や仲間がどんなパーソナリティなのか、どんな心理的課題があるのか、について、カウンセリングでアセスメントを活用できるようにしていきます。最終的には、皆さんが仲間(=ピア)同士の簡単なカウンセリングならばできる(=ピア・カウンセラー)ようになることを目標とします。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】								
<p>授業は全体講義が基本ですが、後半にはペアまたはグループ学習でカウンセリングのトレーニングも取り入れます。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<p>心理学についての全体解説はしないで、すぐ各論(ストレス・マネジメント他)に入ります。このため、別科目「現代の心理学A・B」を受講したあとで、この科目を受講することを、学生の皆さんにおすすめします。配布物などは専用の「緑ファイル」に入れて各自のロッカーで保管して下さい。また、教員が当日指定した配布物は、授業終了時に提出して下さい。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<p>授業時間内で「①中間試験(知的な理解がどの程度進んだかどうかを計る 30%)」と「②期末試験(自分自身やひとを読み解く練習をして、「ひと」の事例を読み解く能力がどの程度身についたかを確かめる 40%)」を行います。さらに③毎回の授業で提出してもらう課題のワークシートによる授業の習得状況(30%)をもとに、総合的な評価をします。②③については1つの正解を求めているのではなく、「獲得した知識や学び得たマネジメント能力をもとに、(感想文ではなく)自分の言葉で、ひとの内面の理解を、その根拠や理由とともに【科学的に】説明できているか」を基準に評価します。</p> <p>授業時の態度目標は「考えたことを伝える・仲間に質問する・分かるように説明する」「自分から動く・チームで協働する・チームに役に立つ」です。</p>								
教科書	なし	著者等		出版社				
教科書	なし	著者等		出版社				
参考文献	人間関係スキルアップワークシート	著者等	嶋田洋徳・菅野純他	出版社	学事出版			
参考文献	心理テスト法入門 第4版	著者等	松原達哉	出版社	日本文化科学社			
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	授業インフォメーション 知的理解 ストレス・マネジメント(認知行動療法)とは 認知0 自分を知らう			予習:なし 復習:課題「ポジティブ日記 学校生活版」にとりくむ				
第2回	知的理解 ストレス・マネジメント(認知行動療法)とは 認知1 気持ちはどこから来るの?			予習:課題を提出する。気持ちや感情に関する言葉を下調べする。課題を提出する。 復習:課題「ある女子高生の話～正確に聴く～」にとりくむ				
第3回	知的理解 ストレス・マネジメント(認知行動療法)とは 認知2 ABCこころの法則			予習:課題を提出する 復習:課題「ABCこころの法則を見つけよう」を日常生活で実践りレポートをする				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	知的理解 ストレスマネジメント(認知行動療法)とは 認知3 いろいろな考え方をしてみよう1	予習:課題を提出する 復習:課題「こころの冒険ゲーム」にとりくむ
第5回	知的理解 ストレス・マネジメント(認知行動療法)とは 認知4 いろいろな考え方をしてみよう2	予習:課題を提出する 復習:課題「週間演習 見つめ直し日記」にとりくむ
第6回	知的理解 ストレス・マネジメント(認知行動療法)とは 認知5 認知を変えてストレスを小さくしよう	予習:課題を提出する 復習:課題「認知を変えるトレーニング」にとりくむ
第7回	知的理解 ストレス・マネジメント(認知行動療法)とは 認知6 いろいろな可能性を考えよう	予習:課題を提出する 復習:前期前半の知的理解で学んだ内容を改めて復習して、次回の中間まとめの準備をする
第8回	★★★中間まとめ(認知行動療法についての知的理解)	予習:前期前半の知的理解で学んだ内容を改めて復習する 復習:なし
第9回	知的理解 カウンセリングにおけるアセスメント法 質問紙法1・2 自他の交流分析・精神的立ち直り法	予習:心理検査を実施するので、予備知識なしが望ましい。あとでその内容を学びます。 復習:なし
第10回	知的理解 カウンセリングにおけるアセスメント法【入門編】 質問紙法3 その「不安」はどこからくるのか	予習:心理検査を実施するので、予備知識なしが望ましい。あとでその内容を学びます。 復習:なし
第11回	知的理解 カウンセリングにおけるアセスメント法 質問紙法3-2 日本版STAIの解説と分析(予定)	予習:なし 復習:自分自身の結果について、気づいたこと・考えたことをまとめる(課題あり)
第12回	知的理解 カウンセリングにおけるアセスメント法 質問紙法1-2 I-YOUエゴグラム(予定)の解説と分析(予定)	予習:課題にとりくんで提出できるようにする 復習:自分自身の結果について、気づいたこと・考えたことをまとめる(課題あり)
第13回	知的理解 カウンセリングにおけるアセスメント法 質問紙法2-2 S-H式レジリエンス検査の解説と分析(予定)	予習:課題にとりくんで提出できるようにする 復習:自分自身の結果について、気づいたこと・考えたことをまとめる(課題あり)
第14回	★★★前期後半まとめ(アセスメントの知的理解)	予習:課題にとりくんで提出できるようにする。前期後半の授業内容について総復習を行う 復習:カウンセリング・トレーニングの方法を日常的に意識的に練習しておく
第15回	★★★前期後半まとめ(アセスメントを使ったカウンセリングの実践)	予習:アセスメントを使ったカウンセリングの場面で、他者理解の方法を学ぶ

科目名(クラス)	ひとを読み解く科学B		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1・2
担当教員	三室戸 元光	履修対象・条件						
【授業の概要】								
<p>ひとの内面を読み解く方法をアセスメントといい、言葉や文章、数値や量的データを用いる方法と、制作物・作品又は教示物への反応等によって行う方法などが代表的です。</p> <p>後期前半には、制作物や作品を通してアセスメントを行う描画法をもとに、描画作者(子ども～学生)の心象世界に触れつつ、後半でひとの内面を深く読み解くための分析方法とその人への援助の立案について、個人内検討、グループ討議・グループによる発表で総合的に身につけます。</p>								
【授業の到達目標】								
<p>ひとの内面を読み解く方法を使って、自分自身や同じ仲間をサポートできるようにするのが、この科目の目的です。自分自身や他者の内面に触れ理解を深めることによって、自分自身や仲間がどんなパーソナリティなのか、どんな心理的課題があるのか、どんな援助の方針が考えられるかについて、「制作物・作品によって行う方法」を軸に、カウンセリングでアセスメントを活用できるようにしていきます。最終的には、皆さんが仲間(=ピア)同士の簡単なカウンセリングならばできる(=ピア・カウンセラー)ようになることを目標とします。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】								
<p>授業は、前半に解説、後半に事例検討+グループ演習、を行います。描画は宿題として描いてくるように指示します。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<p>心理学についての全体解説はしないで、すぐ各論(描画法)に入ります。このため、別科目「現代の心理学A・B」を受講したあとで、この科目を受講することを、学生の皆さんにおすすめます。配布物などは専用の「黄色ファイル」に入れて各自のロッカーで保管して下さい。また、教員が当日指定した配布物は、授業終了時に提出して下さい。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<p>授業時間内で「①中間試験(知的な理解がどの程度進んだかどうかを計る 30%)」と「②期末試験(自分自身やひとを読み解く練習をして、「ひと」の事例を読み解く能力がどの程度身についたかを確かめる 40%)」を行います。さらに③毎回の授業で提出してもらった課題(描画やワークシート)での授業の習得状況(30%)をもとに、総合的な評価をします。</p> <p>②③については1つの正解を求めているのではなく、「獲得した知識や学び得たアセスメント能力をもとに、(感想文ではなく)自分の言葉で、ひとの内面の理解を、その理由とともに【科学的に】説明できているか」を基準に評価します。</p> <p>授業時の態度目標は、「考えたことを伝える・仲間に質問する・分かるように説明する」「自分から動く・チームで協働する・チームに役に立つ」です。</p>								
教科書	なし	著者等		出版社				
教科書	なし	著者等		出版社				
参考文献	スクールカウンセリングに活かす描画法	著者等	高橋依子	出版社	金子書房			
参考文献	描画テスト	著者等	高橋依子	出版社	北大路書房			
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	授業インフォメーション 知的理解 質問紙法と投映法の「アセスメント手法」の違い			予習:なし 復習:課題「樹木画」を描いてくる				
第2回	知的理解 樹木画による理解のしかた			予習:課題を提出する 復習:自分の描画を分析する。課題「人物画」を描いてくる。				
第3回	知的理解 人物画による理解のしかた			予習:課題を提出する 復習:自分の描画を分析する。「HTTP画」を描いてくる				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	知的理解 HTTP法による理解のしかた	予習:課題を提出する 復習:自分の描画を分析する。「家族画」を描いてくる
第5回	知的理解 家族画・動的家族画による理解のしかた	予習:課題を提出する 復習:自分の描画を分析する。「学校画」を描いてくる
第6回	知的理解 学校画・動的学校画による理解のしかた	予習:課題を提出する 復習:自分の描画を分析する。前期前半に学んだ描画法の総復習を行う
第7回	★★★中間まとめ(描画法についての知的理解)	予習:描画のアセスメント法や描画事例の総復習を行う 復習:描画事例の見立て方の総復習を行う
第8回	アセスメント事例検討1 描画を用いたアセスメント・トレーニング	予習:描画事例の総復習を行う 復習:援助の方針を複数立案するための情報収集を行う
第9回	アセスメント事例検討1 描画を用いた「援助の方針」の立案トレーニング	予習:援助の方針を複数立案するための情報収集を行う 復習:描画事例の見立て方の総復習を行う
第10回	アセスメント事例検討2 描画を用いたアセスメント・トレーニング	予習:描画事例の見立て方の総復習を行う 復習:援助の方針を複数立案するための情報収集を行う
第11回	アセスメント事例検討2 描画を用いた「援助の方針」の立案トレーニング	予習:援助の方針を複数立案するための情報収集を行う 復習:描画事例の見立て方の総復習を行う
第12回	アセスメント事例検討3 描画を用いたアセスメント・トレーニング	予習:描画事例の総復習を行う 復習:援助の方針を複数立案するための情報収集を行う
第13回	アセスメント事例検討3 描画を用いた「援助の方針」の立案トレーニング	予習:援助の方針を複数立案するための情報収集を行う 復習:描画事例の総復習を行う
第14回	★★★後期後半まとめ(人物理解の総合力を計る)その1	予習:描画事例の見立て方の総復習を行う 復習:援助の方針を複数立案するための情報収集を行う
第15回	★★★後期後半まとめ(人物理解の総合力を計る)その2	予習:援助の方針を複数立案するための情報収集を行う

科目名(クラス)	健康と音楽A		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	佐々木 和佳	履修対象・条件						
【授業の概要】								
<ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活の中にある「音」や「音楽」について考えるとともに、音楽が人の健康に与える様々な影響について紹介します。 ・健康と音楽Aでは、「音楽が人に与える影響」について理解を深めます。 								
【授業の到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の専門家として、「音」や「音楽」が人の健康に与える影響について、幅広い知識を身につけることができる。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式 ・より理解を深めるためにDVD等の視聴覚教材を使用します。 								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・自らが考えることに重点を置いています。発言等、積極的な授業参加を望みます。 ・遅刻、途中退席は原則として認めません。欠席した場合は、出席した人に資料やノートを見せてもらい、休んだ回の内容を把握した上で講義へ望んでください。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への積極性(発言、課題レポートへの取り組みなど) 50% ・定期試験:レポート 50% 								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献	健康モーツァルト療法 免疫音楽医療入門	著者等	和合治久	出版社	春秋社			
参考文献	こころに効く音楽	著者等	村井靖児	出版社	保健同人社			
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	健康とは			予習:シラバスを読んで各回の視点(テーマ)を押さえておく。 復習:授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。				
第2回	生活の中の音・音楽			予習:前回の授業で出された課題に取り組む。 復習:授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。				
第3回	人はなぜ音楽を聴くのか、音楽の起源			予習:前回の授業で出された課題に取り組む。 復習:授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	音楽の記憶、歌の記憶①	予習: 前回の授業で出された課題に取り組む。 復習: 授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第5回	音楽の記憶、歌の記憶②	予習: 前回の授業で出された課題に取り組む。 復習: 授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第6回	周波数と自律神経	予習: 前回の授業で出された課題に取り組む。 復習: 授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第7回	バックグラウンドミュージック	予習: 前回の授業で出された課題に取り組む。 復習: 授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第8回	1/fゆらぎ	予習: 前回の授業で出された課題に取り組む。 復習: 授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第9回	生体刺激としての音楽要素	予習: 前回の授業で出された課題に取り組む。 復習: 授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第10回	同質の原理	予習: 前回の授業で出された課題に取り組む。 復習: 授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第11回	音楽の生理反応、ストレス解放と音楽	予習: 前回の授業で出された課題に取り組む。 復習: 授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第12回	免疫と音楽①(健康と免疫系)	予習: 前回の授業で出された課題に取り組む。 復習: 授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第13回	免疫と音楽②(免疫音楽医療)	予習: 前回の授業で出された課題に取り組む。 復習: 授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第14回	生活に活かす音楽(音楽活用例)	予習: 前回の授業で出された課題に取り組む。 復習: 授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第15回	本科目の総括(振り返り)	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: 授業で学んだことを活用し、広い視野を持って音や音楽への探求を続ける。

科目名(クラス)	健康と音楽B		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	佐々木 和佳	履修対象・条件						
【授業の概要】								
<ul style="list-style-type: none"> ・医療・福祉・教育の場で取り入れられている音楽療法について、様々な障害・疾患への理解を深めるとともに、音楽の用いられ方や音楽が果たす役割について紹介します。 ・健康と音楽Bでは、「音楽療法」について理解を深めます。 								
【授業の到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な障害・疾患の方への音楽療法や音楽で関わる際の目的・音楽の使い方について、深く理解することができる。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式 ・より理解を深めるためにDVD等の視聴覚教材を使用します。 								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・自らが考えることに重点を置いています。発言等、積極的な授業参加を望みます。 ・遅刻、途中退席は原則として認めません。欠席をした場合は、出席した人に資料やノートを見せてもらい、休んだ回の内容を把握した上で講義へ望んでください。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への積極性(発言、課題レポートへの取り組みなど) 50% ・定期試験:レポート 50% 								
教科書	音楽療法の基礎	著者等	村井靖児	出版社	音楽之友社			
教科書		著者等		出版社				
参考文献	音楽療法を知るーその理論と技法ー	著者等	宮本啓子 等	出版社	杏林書院			
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	音楽療法とは			予習:シラバスを読んで各回の視点(テーマ)を押さえておく。 復習:授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。				
第2回	音楽療法の歴史①(諸外国)			予習:前回の授業で出された課題に取り組む。 復習:授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。				
第3回	音楽療法の歴史②(日本)			予習:前回の授業で出された課題に取り組む。 復習:授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	音楽の作用(生理的・心理的・社会的)	予習: 前回の授業で出された課題に取り組む。 復習: 授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第5回	高齢者領域の音楽療法①(認知症についての基礎知識)	予習: 前回の授業で出された課題に取り組む。 復習: 授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第6回	高齢者領域の音楽療法②(認知症予防・介護予防)	予習: 前回の授業で出された課題に取り組む。 復習: 授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第7回	高齢者領域の音楽療法③(認知症ケア)	予習: 前回の授業で出された課題に取り組む。 復習: 授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第8回	ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法①	予習: 前回の授業で出された課題に取り組む。 復習: 授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第9回	ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法②	予習: 前回の授業で出された課題に取り組む。 復習: 授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第10回	精神科領域の音楽療法	予習: 前回の授業で出された課題に取り組む。 復習: 授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第11回	障害児・者を対象とした音楽療法①(対象者と活動の目的)	予習: 前回の授業で出された課題に取り組む。 復習: 授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第12回	障害児・者を対象とした音楽療法②(理論的背景、活動紹介)	予習: 前回の授業で出された課題に取り組む。 復習: 授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第13回	調整的音楽療法、音楽イメージ誘導法	予習: 前回の授業で出された課題に取り組む。 復習: 授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第14回	その他の音楽療法の紹介	予習: 前回の授業で出された課題に取り組む。 復習: 授業で配布された資料を読み、関心を持ったことについて調べる。
第15回	本科目の総括(振り返り)	予習: 各回のテーマを振り返る。 復習: 授業で学んだことを活用し、広い視野を持って音や音楽への探求を続ける。

科目名(クラス)	ドイツ語圏異文化コミュニケーション1	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1・2
担当教員	高橋 幸雄	履修対象・条件					
【授業の概要】							
ドイツ語の基本的なコミュニケーションの要素を習得し、これを実際の場面を想定して実践することが目標です。簡単なダイアログを積み重ねながらドイツ、オーストリア文化の中にあるさまざまな表現の可能性を身につけていきます。							
【授業の到達目標】							
簡単なドイツ語を用いて日常会話の場面、場面で自分を表現できる。ドイツ文化圏の知識を習得し、日本文化との差異を説明できる。							
【授業の「方法」と「形式」】							
演習形式で行い、練習をくり返し表現の型を身につけます。							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
「聞く」「話す」の両方の要素を徹底的に練習します。積極的に参加することが必要です。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
小テスト(40%)、ヒアリングテスト(20%)、定期試験及びプレゼンテーション(40%)							
教科書	ドイツ語の時間(恋するベルリン)	著者等	清野智昭	出版社	朝日出版		
教科書		著者等		出版社			
参考文献	アクセス独和辞典	いずれか	著者等	出版社	三修社		
参考文献	新アポロン独和辞典				同学社		
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	オリエンテーション、ドイツ語圏を知る。 ドイツの歴史、ドイツ語の特徴をつかむ。			予習: 英語との違いを考えてみる。 復習: 発音をくり返す。			
第2回	簡単な自己紹介をしてみる。 実際に動詞を使ってみる。			予習: 人称変化を練習する。 復習: 変化語尾を次回までに口頭で言えるようにする。			
第3回	オーストリアの歴史を知る。 動詞で分を作る。			予習: いろいろな人称で文を作る練習を繰り返す。 復習: 自分の一日をドイツ文にする。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	duとSieの使い分けを知る。 疑問文を作ってみる。	予習: DuとSieの文を作る。 復習: ドイツ文の特徴、動詞の位置について英語と比較し、文構造を確実なものにする。
第5回	基本動詞seinとhabenの使い方を身につける。	予習: 規則動詞をノートにまとめる。 復習: 規則動詞の変化の復習をする。
第6回	ドイツの都市について知る。 ベルリンとミュンヘン。	予習: 格変化をまとめる。 復習: 自己紹介文のドイツ語を再度復習してみる。
第7回	人称代名詞を使ってみる。格の概念を確認する。	予習: 冠詞の変化をノートにまとめる。 復習: 1格と4格の変化の復習をする。
第8回	不規則動詞の使い方を練習する。	予習: 規則・不規則を教科書の文で見つける。 復習: 規則変化の復習と不規則変化の違いを練習し、定着させる。
第9回	オーストリアの都市について知る。 ウィーンとザルツブルク。	予習: ザルツブルク生れのモーツァルトについて調べてみる。 復習: ドイツ語でモーツァルトに関する文を作ってみる。
第10回	名詞の性について考える。 男性、女性、中性の見分け方。	予習: 日本語になったドイツ語について調べ、発音を試みる。 復習: 性別に単語をまとめてみる。
第11回	名詞の性と数について英語との比較を試みる。	予習: 性別に特徴をまとめる。 復習: 名詞の文法的な性について整理する。
第12回	スイスの都市について知る。 ベルリンとチューリッヒ。	予習: 「ハイジ」について知っていることを調べる。 復習: 「ハイジ」のダイジェストを読んでみる。
第13回	数詞の使い方と時刻について学ぶ。	予習: 前置詞について調べてみる。 格の使い方に注意してみる。 復習: 時刻の言い方の際に使われる前置詞を練習する。
第14回	前置詞の使い方について学ぶ。 格の考え方を冠詞とともに学ぶ。	予習: 前置詞の格を調べてみる。 復習: 前置詞句をくり返し練習する。
第15回	学んだことをまとめてみる。そして練習問題を使って変化を身につけ、実際の文を組み立てる。	次のステップのため、英語と比較しながら、助動詞の種類、時称について復習してみる。

科目名(クラス)	ドイツ語圏異文化コミュニケーション2	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1・2
担当教員	高橋 幸雄	履修対象・条件					
【授業の概要】							
異文化コミュニケーションをベースにしなが、表現の組み立てをさらにレベルアップできるように文法力の積み上げとさらに映像を使ってドイツ語圏の文化を学ぶことを目標にします。							
【授業の到達目標】							
簡単なドイツ語を用いて日常会話の場面、場面で自分を表現できる。 ドイツ文化圏の知識を習得し、日本文化との差異を説明できる。							
【授業の「方法」と「形式」】							
演習形式と対話形式を合わせながら行います。							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
「聞く」「話す」の両方の要素を徹底的に練習します。積極的に参加することが必要です。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
小テスト(40%)、課題(20%)、定期試験(40%)							
教科書	ドイツ語の時間(恋するベルリン)	著者等	清野智昭	出版社	朝日出版		
教科書		著者等		出版社			
参考文献	アクセス独和辞典	いずれか	著者等		出版社	三修社	
参考文献	新アポロン独和辞典		著者等		出版社	同学社	
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	1の内容の復習(1)。 特に動詞を中心に人称変化を定着する。			予習:前期学んだ項目をまとめる。 復習:人称変化の確認、規則、不規則動詞の使い方を再度確実なものにする。。			
第2回	復習(2)名詞を中心として。 性と格の特徴の確認と練習。			予習:三つの性を実際に文章の中で使ってみる。 復習:性の特徴をまとめる。			
第3回	助動詞を使えるようにする。(1) 感情表現の仕方について。			予習:助動詞の変化を練習する。 復習:一般動詞との違いを認識し、変化を復習する。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	助動詞を学ぶ(2) 実際の会話の中で用いてみる。	予習: 助動詞文を作ってみる。 復習: 助動詞の変化の定着をはかる。
第5回	ドイツの映画について。 現代のドイツの文化事情を知る。	予習: ドイツ、オーストリアの映画について自分で調べてみる。 復習: 自分の調べた事実との違いをまとめる。
第6回	時制について学ぶ(1) 過去についての表現。	予習: 三基本形の確認をする。 復習: 過去の人称変化を現在形との違いを意識して練習する。
第7回	時制について学ぶ(2) 現在完了形について。	予習: seinとhabenの変化の定着。 復習: 現在完了形の形式を練習する。
第8回	ドイツの大学について。 ドイツの学校制度。	予習: 自分の専門をドイツ語で言ったり、他の専門のドイツ語を調べる。 復習: 学校制度の違いをまとめる。
第9回	分離動詞を学ぶ(1)	予習: 今まで学んだ動詞の位置を整理する。 復習: 規則、不規則動詞の変化の確認と動詞の人称変化の練習をする。
第10回	分離動詞を学ぶ(2)	予習: 既習の動詞の位置についてまとめてみる。 復習: 分離動詞を使って文を作ってみる。
第11回	ドイツの食文化について。	予習: 食品の名詞の性を分類してみる。 復習: それぞれの性の特徴をまとめる。
第12回	プレゼンテーション(1) 自己紹介と大学について。	予習: 自己紹介の文例を考える。 復習: 人称を変えて他者を紹介できるようにする。
第13回	プレゼンテーション(2) ドイツと日本の違い。	予習: 日本文化の特徴を自分なりにまとめる。 復習: 動詞の構造をまとめ定着させる。
第14回	プレゼンテーション(3) ドイツの環境問題	予習: ドイツの環境問題のまとめ 復習: 単語の増強をはかるため既出のドイツ語をまとめる。
第15回	全体のまとめ。 文法の総確認と次へのステップのための素材を読む。	次へのステップのために未習の項目について学んでみる。

科目名(クラス)	英語圏異文化コミュニケーション1	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	全
担当教員	I.K.Lenz	履修対象・条件					
【授業の概要】							
この授業の目的は英語の表現力を高めることです。さまざまな場面を題材とする会話訓練のためのテキストを使用し、一つの章を二週にわたって扱います。実践的な会話の訓練を行っていきます。							
【授業の到達目標】							
英語のコミュニケーション力を習得し、ディスカッションができるようにする。							
【授業の「方法」と「形式」】							
演習形式で行います。会話演習中心の授業です。							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
演習が中心の授業ですから、一人一人の能動的取り組みが不可欠です。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
小テスト(40%)、会話試験(20%)、修了テスト(40%)							
教科書	Talk Time, Student Book 2	著者等	Oxford	書籍&CDコード	ISBN978-0-19-439291-4		
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	ガイダンス及び文型練習			予習:基本文型を表現できるようにする。 復習:いろいろな単語を用いて表現する。			
第2回	Get to know each other better①			予習:文に慣れる。例文を使えるようにする。 復習:単語を調べる。スキットを实际使ってみる。			
第3回	Get to know each other better②			同上			

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	My name is Michael Johnson.①	予習:文に慣れる。例文を使えるようにする。 復習:単語を調べて覚える。スキットを实际使ってみる。
第5回	My name is Michael Johnson.②	同上
第6回	I get to travel a eat①	同上
第7回	I get to travel a eat②	同上
第8回	Where's the Chinese restaurant? ①	同上
第9回	Where's the Chinese restaurant? ②	同上
第10回	What time does this store close? ①	同上
第11回	What time does this store close? ②	同上
第12回	Can I reserve a table for two? ①	同上
第13回	Can I reserve a table for two? ②	同上
第14回	I'd prefer a window seat? ①	同上
第15回	I'd prefer a window seat? ②	同上

科目名(クラス)	英語圏異文化コミュニケーション2	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	全
担当教員	I.K.Lenz	履修対象・条件					
【授業の概要】							
スピーキングやライティングの練習を中心に据えて行われるこの授業は、表現能力の向上を第一義の目標としてとらえています。グループで特定場面の中で会話します。							
【授業の到達目標】							
英語のコミュニケーション力を習得し、ディスカッションができるようにする。							
【授業の「方法」と「形式」】							
演習形式で、場面設定を数多くし練習をくり返します。							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
演習中心の授業ですから積極的な参加を必要とします。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
小テスト(40%)、会話試験(20%)、修了テスト(40%)							
教科書	Talk Time, Student Book 2	著者等	Oxford	書籍&CDコード	ISBN978-0-19-439291-4		
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	ガイダンス			予習:基本文型を確認し、使えるようにする。 復習:使用する単語を覚え、文の中で使えるようにする。			
第2回	Get ready to start !			予習:場面設定を理解し、例文を使えるようにする。 復習:使用する単語を覚え、文の中で使えるようにする。			
第3回	I'd like to checkin please①			予習:文に慣れる。例文を使えるようにする。 復習:単語を調べる。スキットを实际使ってみる。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	I'd like to checkin please②	同上
第5回	I'd like a wake up call please①	同上
第6回	I'd like a wake up call please②	同上
第7回	Where are we going tomorrow? ①	同上
第8回	Where are we going tomorrow? ②	同上
第9回	I'd like a sandwich please? ①	同上
第10回	I'd like a sandwich please? ②	同上
第11回	Skit training①	同上
第12回	〃 ②	同上
第13回	〃 ③	同上
第14回	〃 ④	同上
第15回	Final exam.	

科目名(クラス)	イタリア語圏異文化コミュニケーション1	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1・2
担当教員	Flavia Baldari	履修対象・条件	全専攻				
【授業の概要】							
イタリア語の初心者向けのクラスであり、録音を聞いて、耳を慣らしながら、声を出して、正しい発音を身につけます。具体的なシナリオに基づいて、日常会話を学び、コミュニケーション能力を高める。授業中では文法を覚えるために練習問題をしたり、ボキャブラリーや表現を身につけるため、グループワークやロールプレイを行ったり、スピーチの練習もする。毎週文法の練習問題や短い作文などの宿題を提出する。							
【授業の到達目標】							
イタリア語の日常会話でよく使われる表現を学びながら、基礎的な文法や会話を身につける授業である。初めてイタリア語を学ぶ皆さんが、「聞く」、「話す」、「書く」ことにより、「自己紹介」、「店での注文」、「暇な時間の過ごし方」というような具体的な日常生活の側面を理解できるようになることを目指す。							
【授業の「方法」と「形式」】							
各回の授業ではテキスト、CD、先生のオリジナル教材等を使用します。							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
必ず毎回予習や復習が必要であり、授業が終わる前に予習／復習の内容をお伝える。 宿題はきちんとやってください。 遅刻、途中退席は原則として認めません。 積極的な授業参加を望みます。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
授業科目の成績評価は、100点を満点として評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 授業への参加態度、定期試験及び授業で学んだ事項の知識定着を確認する期末試験の素点に基づいて判断する。 Exam: 60% 期末試験。授業の内容全般についての理解度を評価する。 Class participation: 40% ・受講者の授業への積極的な参加 ・グループワークの準備や参加 ・宿題や課題などの提出を評価する。							
教科書	講師配布資料	著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容					準備学習(予習・復習)	
第1回	挨拶、名前を聞く、アルファベット、C/Gの発音 イタリア出身の知らない人に会う時に完璧に自己紹介する					授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします)	
第2回	授業中に使える表現、自己紹介① イタリア出身の知らない人に会う時に完璧に自己紹介する						
第3回	自己紹介②国籍を聞く、調子を言う・尋ねる(STARE動詞)相手の国を聞く						

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	年齢を聞く、AVERE動詞の使い方。友達を紹介する (PARLARE, ABITARE動詞) 数字を聞き取る。 自己紹介/紹介する	
第5回	職業、専門① (FARE動詞) 自分の仕事/専門について話す	
第6回	職業/専門② 紹介する時名詞や形容詞の変化	
第7回	丁寧に聞くこと①バーや店で注文する、Vorreiの使い方 ERE動詞。 注文や簡単な買い物する。	
第8回	丁寧に聞くこと②劇場でチケット買う。 C' è/Ci sono動詞	
第9回	まとめ	
第10回	自由時間① IRE動詞	
第11回	自由時間②、質問の仕方 不規則動詞の活用	
第12回	自由時間③習慣について話す 月の言い方、順番を表す形容詞	
第13回	好みについて話す 好きな食べ物やスポーツなどについて話す	
第14回	問題集/まとめ	
第15回	定期試験	

科目名(クラス)	イタリア語圏異文化コミュニケーション2	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1・2
担当教員	Flavia Baldari	履修対象・条件	全専攻				
【授業の概要】							
イタリア語の初心者向けのクラスであり、録音を聞いて、耳を慣らしながら、声を出して、正しい発音を身につけます。具体的なシナリオに基づいて、日常会話を学び、コミュニケーション能力を高める。授業中では文法を覚えるために練習問題をしたり、ボキャブラリーや表現を身につけるため、グループワークやロールプレイを行ったり、スピーチの練習もする。毎週文法の練習問題や短い作文などの宿題を提出する。							
【授業の到達目標】							
イタリア語の日常会話でよく使われる表現を学びながら、基礎的な文法や会話を身につける授業である。初めてイタリア語を学ぶ皆さんが、「聞く」、「話す」、「書く」ことにより、「自己紹介」、「店での注文」、「暇な時間の過ごし方」というような具体的な日常生活の側面を理解できるようになることを目指す。							
【授業の「方法」と「形式」】							
各回の授業ではテキスト、CD、先生のオリジナル教材等を使用します。							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
必ず毎回予習や復習が必要であり、授業が終わる前に予習／復習の内容をお伝える。 宿題はきちんとやってください。 遅刻、途中退席は原則として認めません。 積極的な授業参加を望みます。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
授業科目の成績評価は、100点を満点として評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 授業への参加態度、定期試験及び授業で学んだ事項の知識定着を確認する期末試験の素点に基づいて判断する。 Exam: 60% 期末試験。授業の内容全般についての理解度を評価する。 Class participation: 40% ・受講者の授業への積極的な参加 ・グループワークの準備や参加 ・宿題や課題などの提出を評価する。							
教科書	講師配布資料	著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	前期の復習			授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします)			
第2回	自分の町について① 冠詞＋前置詞、c'è/ci sonoの復習						
第3回	自分の町について② 道を聞く						

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	誘う① 時間を言い、招待を受け入れる/断る	
第5回	誘う② 直接目的語 代名詞	
第6回	旅行について① 動詞の過去形	
第7回	旅行について② スキルアップ。ポストカードを書く	
第8回	まとめ	
第9回	日常生活について話す 再帰動詞	
第10回	習慣について話す 再帰動詞	
第11回	次回のスピーチの準備する。これまでのまとめと復習	
第12回	興味を持っているトピックについて短いスピーチする。 学んだ文法、表現、言葉を使ってみましょう。	
第13回	イタリアのクリスマス	
第14回	問題集／まとめ	
第15回	定期試験	

科目名(クラス)	和声学1		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	荻久保 和明	履修対象・条件	全専攻必修。社会人は選択					
【授業の概要】								
<ul style="list-style-type: none"> ・ルネッサンスから古典派、ロマン派までのクラシックの根底を成すハーモニーの基本的な法則をわかり易く解説します。 ・それらは、この時代に属する作曲家の共通言語であり、作品を理解する上で必要不可欠な要素だからです。尚、理解を容易にするためにC dur限定で講義を進める。 								
【授業の到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> ・機能和声と言われる通り、和音の仕組みと働きを理解する。 ・トニック、サブドミナント、ドミナントの役割と連絡の法則、連続5度と8度のタブー感覚、第1転回形と第2転回形の使い方及び属7の和音の第3転回形までを理解の目標とする。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式及び演習形式、大体1:2の割合、演習は基本的に個人レッスン 								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・完成した和声を合唱してみたり、管弦打楽器で合奏することもあります ・遅刻、途中退出は原則として認めません ・積極的な授業参加を望みます 								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・学期末定期試験(80%) ・演習時の理解到達度(20%) 								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	用語解説、和声の基本的な考え方、機能和声という仕組み							
第2回	I、II、IV、V、VIという四声体和声の解説、配置(密集と開離)分類方法、カデンツの種類			ローマ数字で表された和声を実際に密集、開離で書いてみる				
第3回	共通音のある連結 I→VI、I→IV、I→V、IV→I、V→I、VI→IV、VI→II、IV→II、II→V			それぞれの連結をピアノで弾いてみる				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	共通音のある連結の演習	
第5回	共通音のない連結(Ⅰ→Ⅱ、Ⅳ→Ⅴ、Ⅴ→Ⅵ)と連続5度、連続8度の解説	それぞれの連結をピアノで弾いてみること
第6回	共通音のない連結の演習	
第7回	ソプラノとバスの美しい関係及び定型パターンの解説と演習(Ⅳ→Ⅱ→Ⅴ→Ⅵ)	
第8回	第1転回形の解説 Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴの諸和音の第1転回形の使用方法と定型の解説	それぞれの連結をピアノで弾いてみること
第9回	第1転回形の演習	
第10回	第2転回形の解説 Ⅰ→Ⅳ2→Ⅰ、Ⅰ→Ⅴ2→Ⅰ1、Ⅱ1→Ⅰ2→Ⅴの定型使用方法の理解、説明	それぞれの連結をピアノで弾いてみること
第11回	第2転回形の演習	
第12回	Ⅴ度の7thの和音(属7)の理解と使用方法 第3転回形の解説	それぞれの連結をピアノで弾いてみること
第13回	属7の和音の諸形態の演習	過去問を使用して最終チェック
第14回	総合問題演習	過去問を使用して最終チェック
第15回	まとめ	

科目名(クラス)	和声学2		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	荻久保 和明	履修対象・条件	全専攻必修。社会人は選択					
【授業の概要】								
<p>・コードネームというものの仕組みを理解し、学習する。和声学との相違点を比較検討し、相方の歴史的意義を解説する。また、実施の楽曲(クラシック、ポップス共に)を両方の手法で分析することにより、ハーモニーというものがその作品にどのような力(推進力)を与えているかを考察し、旋律とハーモニーの関係を明らかにするものである。</p>								
【授業の到達目標】								
<p>・コードネームという考え方とその仕組みを理解する。様々な名称とその意味、及びポップスでの具体的使用例でわかりやすく解説。 ・c molllにおける和声、属7と属9の根音省略形態、簡単な楽曲分析を通して機能和声の理解を深める。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】								
<p>・講義とディスカッションを中心にする。後半は楽曲分析の演習も行う。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<p>・与えられたテキストを合唱、合奏したりして、講義内容を耳で確認する。 ・遅刻、早退は原則として認めません。 ・ディスカッションへの積極的な参加を望みます。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<p>・学期末定期試験(80%) ・演習時の理解到達度(20%)</p>								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	コードネームの仕組み、用語解説、メジャーコードとマイナーコード			長3和音と短3和音が聴覚的に聞き分けられるようにピアノで弾くこと				
第2回	ルート(根音)が黒鍵のメジャーコードとマイナーコード			"				
第3回	7thコードの仕組み、分類及び用語解説 長7、短7、属7、減7、諸和音の表し方			4種類の7の和音が聴覚的に聞き分けられるようにピアノで弾くこと				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	ルート(根音)が黒鍵の7thコードについて	〃
第5回	減3和音のコードネーム及び減3和音の7thコードの音楽的意味	その響きを耳でよく理解すること特に減7との違いについて
第6回	ルート(根音)が黒鍵の減3和音7thコードについて	〃
第7回	分数コードの解説と理解	コードネームを音に変換、逆に和音からコードネームを言えるようによく練習する
第8回	その他の和音(増3和音)やsus4(サスフォー)コード、付加6、9、コードの解説	〃
第9回	c mollにおける和声学の理論と実習 I	和声学 I をもう1度よく復習しよう
第10回	c mollにおける和声学の理論と実習 II	〃
第11回	ブルグミュラーの小品及びコンコーネをテキストに和声分析とコードネーム演習	テキストをピアノで弾いて耳で再確認すること
第12回	〃	〃
第13回	ソナチネ(1楽章のみ)やポップスの名曲をテキストにして和声分析とコードネーム演習	〃
第14回	〃	〃
第15回	まとめと過去問演習	

科目名(クラス)	和声学3		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	新井雅之	履修対象・条件						
【授業の概要】								
ルネッサンスから古典派、ロマン派、印象派までのクラシックの根底を成すハーモニーの基本的な法則をわかり易く解説する。それらはこの時代に属する作曲家の共通言語であり、作品を理解する上で必要不可欠な要素だからである。尚、理解を容易にするためにc moll限定で講義を進める。								
【授業の到達目標】								
基本的な和声進行の法則を踏まえながら、常套句的な音の動きに習熟し、四声の集合体を形として捉えられるようにする。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義形式及び演習形式、大体1:2の割合、演習は基本的に個人レッスン								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・完成した和声を合唱、合奏などの方法により耳で実感する ・遅刻、早退は原則として認めない ・講義への積極的な参加を望む 								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
学期末定期試験(80%)・演習時の理解到達度及び授業への参加度・積極的貢献度(20%)								
教科書	なし	著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献	和声Ⅱ	著者等	島岡讓 他	出版社	音楽之友社			
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	ソプラノとバスの美しい関係及び定型パターンの解説と演習(c mollヴァージョン) 和声という学問の中での音楽性(芸術性)の理解。(正解は無数にあるが、本当に美しいものはひとつである)			完成したものを良くピアノで弾いてみる。所要時間1時間程度(しっかりピアノで弾いて復習することがすなわち次回への予習につながる)				
第2回	I、II、IV、V度の第1転回形の解説と演習(c mollヴァージョン)			完成したものを良くピアノで弾いてみる。所要時間1時間程度(しっかりピアノで弾いて復習することがすなわち次回への予習につながる)				
第3回	I、IV、V度の第2転回形の解説と演習(c mollヴァージョン)			完成したものを良くピアノで弾いてみる。所要時間1時間程度(しっかりピアノで弾いて復習することがすなわち次回への予習につながる)				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	V度の7thの和音(属7)及び第3転回形の解説と 演習(c mollヴァージョン) ドミナント7thの第1、第2、第3転 回形の定型ヴァージョンを理解	完成したものを良くピアノで弾いてみること。所要時間1時間程度(しっかりピアノで弾いて復習することがすなわち次回への予習につながる)
第5回	V度の9thの和音(属9)及び7thの根音省略第2 転回形、9thの根音省略第1、第2、第3転回形の解説と演習(c mollヴァージョン)ドミナント7th、9thの根音省略の各種定型ヴァージョンを正しく理解	完成したものを良くピアノで弾いてみること。所要時間1時間程度(しっかりピアノで弾いて復習することがすなわち次回への予習につながる)
第6回	II度の7thの和音の使用法の理解と解説I(基本位置と第1転回形) II度の7thの和音の持つ美しさ 及び定型ヴァージョンを理解	完成したものを良くピアノで弾いてみること。所要時間1時間程度(しっかりピアノで弾いて復習することがすなわち次回への予習につながる)
第7回	II度の7thの和音の使用法の理解と解説II(第2転回形と第3転回形)	完成したものを良くピアノで弾いてみること。所要時間1時間程度(しっかりピアノで弾いて復習することがすなわち次回への予習につながる)
第8回	II度の7thの和音の総合演習	完成したものを良くピアノで弾いてみること。所要時間1時間程度(しっかりピアノで弾いて復習することがすなわち次回への予習につながる)
第9回	IV度の7thの和音の解説と演習(基本位置のみ) IV度の7thの和音の持つ美しさ 及び定型ヴァージョンを理解	完成したものを良くピアノで弾いてみること。所要時間1時間程度(しっかりピアノで弾いて復習することがすなわち次回への予習につながる)
第10回	ドッペルドミナント(V度V度)の和音の理解と解説I(基本位置と第1転回形)	完成したものを良くピアノで弾いてみること。所要時間1時間程度(しっかりピアノで弾いて復習することがすなわち次回への予習につながる)
第11回	ドッペルドミナント(V度V度)の和音の理解と解説II(第2転回形と第3転回形)	完成したものを良くピアノで弾いてみること。所要時間1時間程度(しっかりピアノで弾いて復習することがすなわち次回への予習につながる)
第12回	ドッペルドミナント(V度V度)の和音9th、及び 7th根音省略、9th根音省略の解説。それぞれの形態の定型ヴァー ジョンを正しく理解	完成したものを良くピアノで弾いてみること。所要時間1時間程度(しっかりピアノで弾いて復習することがすなわち次回への予習につながる)
第13回	ドッペルドミナント(V度V度)の和音の総合演習。個人レッスンにより理解を深める	完成したものを良くピアノで弾いてみること。所要時間1時間程度(しっかりピアノで弾いて復習することがすなわち次回への予習につながる)
第14回	総合問題演習。模範解答により個々に最終 チェックを行い、到達レベルを確認すること	完成したものを良くピアノで弾いてみること。所要時間1時間程度(しっかりピアノで弾いて復習することがすなわち次回への予習につながる)
第15回	まとめ(到達レベルを確認)	完成したものを良くピアノで弾いてみること。所要時間1時間程度)

科目名(クラス)	和声学4		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	新井雅之	履修対象・条件						
【授業の概要】								
和声3で学んだことをもとに、実際の楽曲においてそれがどう生かされているかを実証、検証する。又それぞれの作品に和声による楽曲分析を試みる。それによりハーモニーというものがその作品にどのような力(表現力)を与えているかを考察し、旋律とハーモニーの関係を明らかにするものである。尚、理解を容易にするためにc moll限定で講義を進める。								
【授業の到達目標】								
基本的な和声進行の法則を踏まえながら、常套句的な音の動きに習熟し、四声の集合体を形として捉えられるようにする。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義形式及び演習形式、大体1:2の割合、演習は基本的に個人レッスン								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・与えられたテキストを合唱、合奏したりして、講義内容を耳で確認する ・遅刻、早退は原則として認めない ・ディスカッションへの積極的な参加を望む 								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
学期末定期試験(80%)・演習時の理解到達度及び授業への参加度・積極的貢献度(20%)								
教科書	なし	著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献	なし	著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	ドリアの和音の諸形態の機能と解説(+IV度の7th及び9thの和音)			完成したものを良くピアノで弾いてみる。所要時間1時間程度(しっかりピアノで弾いて復習することがすなわち次回への予習につながる)				
第2回	ドリアの和音の演習			完成したものを良くピアノで弾いてみる。所要時間1時間程度(しっかりピアノで弾いて復習することがすなわち次回への予習につながる)				
第3回	VIの7thとドッペルドミナント 下方変位の使い方、機能と解説			完成したものを良くピアノで弾いてみる。所要時間1時間程度(しっかりピアノで弾いて復習することがすなわち次回への予習につながる)				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	VIの7th、V度V度下方変位和音の演習	完成したものを良くピアノで弾いてみる。所要時間1時間程度(しっかりピアノで弾いて復習することがすなわち次回への予習につながる)
第5回	ナポリの和音とIV度付加6度和音の使い方、機能と解説(-IIの第1転回形とIV+6の和音)	完成したものを良くピアノで弾いてみる。所要時間1時間程度(しっかりピアノで弾いて復習することがすなわち次回への予習につながる)
第6回	ドリア、VIの7th、ドッペルドミナント下方変位、ナポリ、IV度付加6の諸和音の演習	完成したものを良くピアノで弾いてみる。所要時間1時間程度(しっかりピアノで弾いて復習することがすなわち次回への予習につながる)
第7回	コンコーネによる和音分析 (和声分析により、旋律とハーモニーの関係を理解し、楽曲の構成を考察する)	和音分析の下準備、及び復習としてテキストを歌い、またピアノで弾いて音楽的な音の動きを聴覚と視覚と触覚で感じる。所要時間30分程度。
第8回	バッハ平均律 プレリュードによる和音分析 (和声分析により、旋律とハーモニーの関係を理解し、楽曲の構成を考察する)	和音分析の下準備、及び復習としてテキストを歌い、またピアノで弾いて音楽的な音の動きを聴覚と視覚と触覚で感じる。所要時間30分程度。
第9回	モーツァルトのピアノソナタによる和音分析 (和声分析により、旋律とハーモニーの関係を理解し、楽曲の構成を考察する)	和音分析の下準備、及び復習としてテキストを歌い、またピアノで弾いて音楽的な音の動きを聴覚と視覚と触覚で感じる。所要時間30分程度。
第10回	フォーレの歌曲による和音分析 (和声分析により、旋律とハーモニーの関係を理解し、楽曲の構成を考察する)	和音分析の下準備、及び復習としてテキストを歌い、またピアノで弾いて音楽的な音の動きを聴覚と視覚と触覚で感じる。所要時間30分程度。
第11回	ショパンのピアノ曲による和音分析 (和声分析により、旋律とハーモニーの関係を理解し、楽曲の構成を考察する)	和音分析の下準備、及び復習としてテキストを歌い、またピアノで弾いて音楽的な音の動きを聴覚と視覚と触覚で感じる。所要時間30分程度。
第12回	重要定型のチェックとサブドミナント 諸和音の確認 (前期の理解度の確認とミスしやすい部分の最終チェック)	あらかじめ、理解しにくかった和音、和音進行などを再確認しておく。所要時間30分程度。再度、記譜した楽譜をピアノで弾いて十分に確かなものにする。
第13回	総合問題演習 (模範解答により個々に最終チェックを行う。到達レベルの確認)	あらかじめ、理解しにくかった和音、和音進行などを再確認しておく。所要時間30分程度。再度、記譜した楽譜をピアノで弾いて十分に確かなものにする。
第14回	総合問題演習 (模範解答により個々に最終チェックを行う。到達レベルの確認)	あらかじめ、理解しにくかった和音、和音進行などを再確認しておく。所要時間30分程度。再度、記譜した楽譜をピアノで弾いて十分に確かなものにする。
第15回	まとめ	あらかじめ、理解しにくかった和音、和音進行などを再確認しておく。所要時間30分程度。、記譜した楽譜をピアノで弾いて十分に確かなものにする。

科目名(クラス)	ピアノ指導者教材研究A		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	國谷 尊之	履修対象・条件	ピアノ指導者コースは必修					
【授業の概要】								
<p>・20世紀以降、近代ピアノ奏法の定着とピアノ指導法研究の進展とともに、欧米におけるピアノ指導教材は大幅に様変わりしました。本講義では主に導入期のピアノ指導(ピアノを初めて学ぶ人への指導)を念頭に、我国における旧来の指導教材にとどまらず諸外国のピアノ指導教材も幅広く取り上げ、さまざまな教材の中からレッスンの目的に沿った教材を選択し、活用する方法を学びます。ピアノ指導教材の研究を通して、我国における音楽文化の在り方をも考えて行きます。</p>								
【授業の到達目標】								
<p>導入期のピアノ指導に、近年出版されたさまざまな教材を取り入れることの重要性和その根拠を理解することができる。また、ピアノを学ぶ子どもたちの発達段階に適した教材を選択し活用することができる。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】								
<p>・講義形式 ・実際の教材を使って、模擬レッスン形式で参加していただくこともあります。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<p>・資料としてプリント配布が多くなりますので、各自工夫して整理・活用できるようにしてください。定期試験においては、全ての資料を持ち込み可とします。 ・導入期のピアノ指導を想定した演習も行いますので能動的な取り組みを望みます。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<p>・授業中での課題および提出物等の評価(50%) ・学期末定期試験【筆記試験】(50%)</p>								
教科書	授業中にプリントを配布する。			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	授業概要説明 ・この講義全体の流れと、その意図を説明				予習: シラバスに目を通す。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解につとめる。			
第2回	導入期指導の概観① ・ピアノ指導における『導入期』とは ・幼児および児童の発達段階・成長曲線について				予習: 幼児・児童の発達段階について関心を持つ。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解につとめる。			
第3回	導入期指導の概観② ・導入期指導に関する20問 ・効果的な導入期指導とは				予習: 幼児・児童の発達段階に合ったピアノ指導について考える。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解につとめる。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	教材研究の方法と考え方 ・「音楽の三要素」からの視点とは ・実際の曲の分析と、教材研究の実践	予習: 楽典「和音」について確認しておく。 復習: 子供向けピアノ曲の分析を行う。
第5回	コードネームの知識 ・子供向けピアノ曲の分析や指導法研究に役立つ基本的なコードネームの表記方法について	予習: 楽典「和音」について確認しておく。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解につとめる。
第6回	旧来の導入期指導教材の研究① ・我国におけるバイエルピアノ教則本普及の歴史的背景 ・バイエルピアノ教則本の研究～その1	予習: バイエルピアノ教則本がどのようなものか図書館で手に取る。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解につとめる。教科書の関連項目を詳しく読む。
第7回	旧来の導入期指導教材の研究② ・バイエルピアノ教則本の研究～その2 ・旧来のピアノ指導教材を使用する場合の問題点と対処方法について	予習: バイエルピアノ教則本に目を通す。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解につとめる。
第8回	近年の導入期指導教材の研究① ・バスターンメソッドの概観 ・教材の具体例～バスターン・ピアノパーティーシリーズ	予習: バイエル以外のピアノ教材を、図書館などで手に取ってみる。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解につとめる。
第9回	近年の導入期指導教材の研究② ・「すくすくミュージックスクール」の概観 ・教材の具体例	予習: 近年のピアノ指導教材にはどのようなものがあるか調べてみる。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解につとめる。
第10回	近年の導入期指導教材の研究③ ・「ピアニスタディ」の概観 教材の具体例	予習: 近年のピアノ指導教材にはどのようなものがあるか調べてみる。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解につとめる。
第11回	テクニック指導についての考察 ・旧来のテクニック指導と、近年のテクニック指導の考え方の相違点について ・ハノン・ピアノ教則本についての考察	予習: ピアノのテクニックとは何か、考えてみる。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解につとめる。
第12回	近年のテクニック指導教材の研究 ・「バーナム・ピアノテクニック」の概観 ・「ピアノのためのフィットネスプログラム」の概観	予習: 効果的なテクニック教材について考えてみる。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解につとめる。講義で取り上げた教材を弾いてみる。
第13回	導入期指導の実際① ・導入期指導における留意点 ・聴唱・聴奏指導の手法について	予習: 今までに扱ったピアノ指導教材を弾いてみる。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解につとめる。講義で扱った指導手法を実践してみる。
第14回	導入期指導の実際② ・模擬レッスン形式による実践 ・導入期指導についてのまとめ	予習: 今までに扱ったピアノ指導教材を弾いてみる。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解につとめる。講義で扱った指導手法を実践してみる。
第15回	この講義全体のまとめ ・学習内容の定着度の確認	予習: これまでの配布資料をまとめておく。 復習: 配布資料を見ながら講義全体の振り返りを行う。

科目名(クラス)	ピアノ指導者教材研究B		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	國谷 尊之	履修対象・条件	ピアノ指導者コースは必修					
【授業の概要】								
20世紀以降、近代ピアノ奏法の定着とピアノ指導法研究の進展とともに、欧米におけるピアノ指導教材は大幅に様変わりしました。本講義では、近年欧米において児童期のピアノレパートリー指導の主流となっている「四期別指導」について研究します。ピアノという楽器の改良、時代の精神の移り変わりとともに、ピアノ作品も大きく変化したこと、また、それに伴ってピアノ奏法と指導法も変化したことについて、具体的な教材を交えて学びます。								
【授業の到達目標】								
児童期のピアノ指導に、さまざまな時代様式のレパートリーを取り入れることの根拠と重要性を理解することができる。また、ピアノを学ぶ子どもたちの発達段階に適した教材を選択し活用することができる。								
【授業の「方法」と「形式」】								
・講義形式 ・実際の教材を使って、模擬レッスン形式で参加していただくこともあります。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
・資料としてプリント配布が多くなりますので、各自工夫して整理・活用できるようにしてください。定期試験においては、全ての資料を持ち込み可とします。・児童期のピアノ指導を想定した演習も行いますので能動的な取り組みを望みます。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
・授業中での課題および提出物等の評価(50%) ・学期末定期試験【筆記試験】(50%)								
教科書	授業中にプリントを配布する。			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	時代様式に基づくピアノ指導とは ・我国における旧来のレパートリー指導の特徴とその問題点 ・「四期別指導」とは何か				予習: シラバスに目を通す 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解につとめる。			
第2回	楽器の改良と指導法の変遷 ・楽器の改良にともなう作品および奏法の変化 ・ピアノの改良に寄与した音楽家たち				予習: ピアノの歴史について調べる 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解につとめる。			
第3回	バロック期レパートリー指導の概観 ・バロック期の音楽の特徴 ・当時の楽器とその特徴について				予習: バロック音楽についてのイメージを持つ。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解につとめる。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	バロック期レパートリー研究 ・ショルツ編「バッハへの道」 ・武田宏子編「バロックをひこう」	予習:バロック作品を聴いてみる。 復習:配布した譜例を演奏してみる。
第5回	古典期レパートリー指導の概観 ・古典期の音楽の特徴 ・ピアノの誕生	予習:古典期の作品についてのイメージを持つ。 復習:配布資料に詳しく目を通し、理解につとめる。
第6回	古典期レパートリー研究 ・中村菊子編「ピアノのための古典期名曲集」 ・武田宏子編「古典派をひこう」	予習:古典期の作品を聴いてみる。 復習:配布した譜例を演奏してみる。
第7回	ロマン期レパートリー指導の概観 ・ピアノの改良と奏法の変化 ・ピアノにおける3大発明	予習:ロマン派音楽へのイメージを持つ。 復習:配布資料に詳しく目を通し、理解につとめる。
第8回	ロマン期レパートリー研究① ・大作曲家による、子供向けロマン期レパートリーの紹介	予習:ロマン派音楽を聴いてみる。 復習:配布した譜例を演奏してみる。
第9回	ロマン期レパートリー研究② ・分冊型メソッド等の中のロマン期レパートリーの紹介	予習:ロマン派音楽を聴いてみる。 復習:配布した譜例を演奏してみる。
第10回	近現代期レパートリー指導の概観 ・近現代期レパートリー指導の重要性 ・近現代期レパートリーの多様性について	予習:近現代期の音楽についてイメージを持つ。 復習:配布資料に詳しく目を通し、理解につとめる。
第11回	近現代期レパートリー研究① ・世界各国の近現代期レパートリーの紹介	予習:近現代期の音楽を聴いてみる。 復習:配布した譜例を演奏してみる。
第12回	近現代期レパートリー研究② ・近現代期の音楽の様々な書法	予習:近現代期の音楽を聴いてみる。 復習:配布資料に詳しく目を通し、理解につとめる。配布した譜例を演奏してみる。
第13回	即興演奏指導法 ・自由即興 ・変奏の手法	予習:即興演奏の歴史について調べる。 復習:配布した譜例をもとに即興演奏を行う。
第14回	時代様式に基づくピアノ指導についてのまとめ ・四期別指導によって広がるピアノ音楽の世界	予習:これまでの配布資料をまとめておく。 復習:配布資料に詳しく目を通し、理解につとめる。
第15回	この講義全体のまとめ ・学習内容の定着度の確認	予習:これまでの配布資料をまとめておく。 復習:配布資料を見ながら講義全体の振り返りを行う。

科目名(クラス)	レッスンマネジメントA		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	齊藤 浩子	履修対象・条件	ピアノ指導者コース必修					
【授業の概要】								
<p>本授業は、本学学生がこれまで体験してきた「レッスン」をテーマとして、将来、音楽教室をはじめとする音楽業界での仕事に携わり、音楽活動を行う上で、最低限理解しておきたい「マネジメント」の基本事項の習得を目的としています。レッスンマネジメントAでは、下記の観点からアプローチしていきます。</p> <p>(1) 音楽業界を様々な方面から分析し、音楽教室を含めた音楽業界の現状を理解する。 (2) 音楽教室の運営に必要な管理術(環境・時間・会計・生徒情報・会則)の基本を理解する。 (3) さまざまな音楽教室の運営事例を通じて、管理術の概説で得た知識を実践面から理解を深める。 (4) これらの教室運営の知識や事例を、他の音楽活動や各自のキャリア形成に応用する。</p>								
【授業の到達目標】								
<p>音楽教室をはじめとする音楽業界での仕事を理解し、音楽活動を行う上で、最低限理解しておきたい「マネジメント」の基本事項を習得できます。</p> <p>(1) 音楽教室を含めた音楽業界の現状を理解する。 (2) 音楽教室の運営や音楽業界で仕事をする為に必要な知識の基本を理解する。 (3) 音楽業界で仕事をする為に必要なコミュニケーション能力を身につけ、自分に必要な知識や情報を得ることができる。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義形式。個人・グループワーク、制作実習を取り入れる場合もあります。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<p>○各回の授業開始時に、講義資料とリアクションペーパーを配布します。講義終了後に提出してください。 ○やむを得ない事情で欠席した場合は、次回の授業で申し出、上記配布資料を受け取り自習してください。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<p>○リアクション・・・50% 各回の授業で、リアクションシートを配布しますので、各回の授業の内容をまとめて提出してください。(授業を通じて特に得られた気付き・学び・概説や事例から得られた自分のアイデア・問題意識・自分も将来取り入れたいと感じた事例、印象的だったこと、興味があること、理解しにくかったこと、など)提出した回数、記載内容から、授業参加への積極性、理解度を評価します。 ○期末試験(制作実習)・・・50% 所定の書式にしたがって課題の制作を行います。各回の授業で学んだことを取り入れているか、理解度と応用力を評価します。課題の詳細は、授業内で事前に説明します。</p>								
教科書	教科書は指定しません (各回資料配布あり)		著者等		出版社			
教科書			著者等		出版社			
参考文献	授業中に適宜紹介します。		著者等		出版社			
参考文献			著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	音楽業界の現状①自己分析 自分の音楽体験を振り返り、生徒側から見た、良かった点・悪かった点を考える。自分の将来の仕事について考える。				授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。			
第2回	音楽業界の現状②業界分析 音楽業界の仕組み・社会的な役割を概観し、音楽業界・社会の中での様々な業種を理解する。				授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。			
第3回	音楽業界の現状③業種分析 音楽業界の様々な業種の仕事をする前に知っておかなければならない基本的な知識を理解する。				授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授業内容（105文字以内）	準備学習(予習・復習)
第4回	音楽教室の現状①教室分析 音楽教室にはどのような形態があるのか。社会的な役割を概観し、音楽業界の中での音楽教育の役割を理解する。	授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。
第5回	音楽教室の現状②生徒分析 音楽教室の生徒層を年代・志向・目的・意欲度・生徒の練習環境の変化など多面的に分析する。	授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。
第6回	管理術の概説①環境管理 音楽教室の場所の選択、レッスン室の空間作りの要件を概説する。	授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。
第7回	管理術の概説①環境管理の事例 自宅のリフォームの事例、学校・公共施設の活用事例、大規模教室への展開事例を紹介する。さらに環境管理で生じやすい諸課題への対処策を検討する。	授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。
第8回	管理術概説①環境管理・楽器の基本知識 音楽教室で使用する楽器についての基本知識と、生徒の自宅で学習する楽器(学習環境)について概説する。	授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。
第9回	管理術の概説②時間管理 音楽教室の年間計画、レッスン日設定の考え方、時間管理に関わる問題防止策について概説する。	授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。
第10回	管理術概説③会計管理 音楽教室のレッスン料の設定方法、必要経費、年間会計の方法について概説する。	授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。
第11回	管理術の概説③会計管理の事例 教室の年間会計の事例を紹介する。さらに会計に関する問題防止策等について概説する。	授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。
第12回	管理術の概説④生徒情報管理 音楽教室の生徒管理を、個人情報管理の方法、レッスンの基本情報の、指導内容の管理法など概説する	授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。
第13回	管理術の概説⑤会則管理 音楽教室の会則管理を、教室管理に関する会則、音楽教育に関する会則の2分野から概説する。	授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。
第14回	コミュニケーション術の概説① 音楽業界の仕事をする上で大切なコミュニケーション術についてロープレをいれて概説する。	授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。
第15回	コミュニケーション術の概説② コミュニケーションのロープレをしながら、様々なトラブルでの対応法を概説する。	授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。

科目名(クラス)	レッスンマネジメントB	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	齊藤 浩子	履修対象・条件	ピアノ指導者コース必修				
【授業の概要】							
<p>本授業は、本学学生がこれまで体験してきた「レッスン」をテーマとして、将来、音楽教室をはじめとする音楽業界での仕事に携わり、音楽活動を行っていく上で、最低限理解しておきたい「マネジメント」の基本事項の習得を目的としています。レッスンマネジメントBでは、下記の観点からアプローチしていきます。</p> <p>(1) 音楽業界を様々な方面から分析し、今後の可能性を検討する。 (2) 音楽教室や音楽業界で仕事する上で必要な広報術(対象・媒体・表現)、コミュニケーション術、プレゼンテーションの基本を理解する。 (3) 音楽教室のイベントや、地域貢献活動の意味や効果を理解し、運営方針に適用できる。 (4) 音楽業界で仕事をする為に必要な自己管理を身につけ、音楽活動や各自のキャリア形成に応用する。</p>							
【授業の到達目標】							
<p>(1) 音楽業界について現状と将来について理解する。 (2) 音楽教室や音楽業界で仕事する上で必要な広報術(対象・媒体・表現)、コミュニケーション術、プレゼンテーションの基本を理解できる。 (3) 音楽教室のイベントや、地域貢献活動の意味や効果を理解し、運営方針に適用できる。 (4) 音楽業界で仕事をする為に必要な自己管理を身につけ、音楽活動や各自のキャリア形成に応用する。</p>							
【授業の「方法」と「形式」】							
講義形式。個人・グループワーク、制作実習を取り入れる場合もあります。							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
<p>○授業開始時に講義資料、リアクションシートを配布します。授業終了後、提出してください。 ○やむを得ない事情で欠席した場合は、次回の授業で申し出、上記配布資料を受け取り自習してください。</p>							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
<p>○リアクション・・・50% 各回の授業で、ワークシートを配布しますので、各回の授業の内容をまとめて提出してください。(授業を通じて特に得られた気付き・学び・概説や事例から得られた自分のアイディア・問題意識・自分も将来取り入れたいと感じた事例、印象的だったこと、興味があること、理解しにくかったこと、など)提出した回数、記載内容から、授業参加への積極性、理解度を評価します。 ○期末試験(制作実習)・・・50% 所定の書式にしたがって課題の制作を行います。各回の授業で学んだことを取り入れているか、理解度と応用力を評価します。課題の詳細は、授業内で事前に説明します。</p>							
教科書	教科書は指定しません(各回資料配布あり)	著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献	授業中に適宜紹介します。	著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	前期のまとめと復習① 前期のレポートを発表しながら、クラス全体で得た音楽業界の情報を共有する。			授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。			
第2回	前期のまとめと復習② 前期のレポートを発表しながら、クラス全体で得た音楽業界の情報を共有する。			授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。			
第3回	広報術の概説①外部広告の対象 生徒が音楽教室に入会するまでの心理・行動プロセスについて概説する。			授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	広報術の概説②外部高広告媒体と表現 ホームページやイベント、口コミなど、さまざまな広報媒体について考察する。さらに生徒募集では、何をどのように伝えるのか広報表現について概説する。	授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。
第5回	広報術の概説③内部広報・媒体・表現 音楽教室の内部広報(生徒維持)の媒体と表現について概説する。	授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。
第6回	地域貢献活動の事例 音楽教室の地域貢献活動の様々な事例を紹介する。音楽教室にとって効果と意味を考察する。	授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。
第7回	コミュニケーション術の概説① 音楽教室の運営をしていく上で、どのようなコミュニケーションが必要なのか概説する。	授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。
第8回	コミュニケーション術の概説②モチベーション 生徒のモチベーションを上げる為に何が必要なのか考察する。生徒の個性に応じた動機付けを行い、学ぶ意欲を高めるためのコミュニケーション技法について概説する。	授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。
第9回	コミュニケーション術の概説③コーチング 生徒との信頼関係を構築し、主体的な態度を引き出すためのコミュニケーション技法について概説する。	授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。
第10回	コミュニケーション術の事例④プレゼンテーション 教室を運営していく上で必要なプレゼンテーションについて、その表現法について概説する。	授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。
第11回	発表会について 音楽教室にとっての発表会の意味と効果を考察する。生徒のニーズに合わせた発表会や、事前準備から当日の仕事、片付けまでの流れを概説する。	授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。
第12回	音楽業界の展望①業界理解 最新の音楽業界の動向・社会的課題を分析する。	授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。
第13回	音楽業界の展望②生徒理解 年代・志向・目的・意欲度別に生徒の学習ニーズを分析し、今後の対応策を考察する。	授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。
第14回	音楽業界の展望③自己理解 音楽業界との関わりの中で、自分の興味・能力・価値観から自己分析を行う。	授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。
第15回	本科目の総括 第1～14回の授業内容を振り返り、実際の音楽教室の運営について考察する。	授業で使用した資料、リアクションシートを再読し理解を深める。

科目名(クラス)	シンギングポップスA		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	仁科 薫理	履修対象・条件						
【授業の概要】								
世界のポップス界において、さまざまなジャンルで活躍した、1960年代から現代までの13人女性トップボーカリスト(歌姫)の楽曲、動画、生涯を紹介します。 また代表曲の歌唱法を研究しながらの発声トレーニング、リズムトレーニングをメインに歌詞、楽曲構成、ボーカリスト自身の信念などを紐解き、感性を高め、自分自身を表現するのに適したアプローチ、スタイル、パフォーマンスなどを追求します。								
【授業の到達目標】								
芸術音楽、伝統音楽とは異なる、音楽産業を通して多数の聴衆に配給され、時代背景により様々に変化していくポップスの短い歴史に触れていきます。 それらの代表楽曲を実技歌唱することにより、より一層身近に感じ、今後未来に音楽を発信する、自らの選択、可能性、柔軟性についてのヒントを探っていきます。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義、DVDなど動画鑑賞、及び歌唱実践トレーニング								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
基本的に声で自己表現が目的の授業になりますので、おひとり又は少人数での歌唱、朗読の場面も出てきます。 強要は致しませんが、積極的な参加を望みます。 風邪などで声が出なくなった方、発声トレーニングが悪化の原因になる可能性があります。 また呼吸法などで他の生徒さんにも感染しやすくなります。決して無理をせず完治してから出席してください。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
課題による採点(70%)及び、出席、授業への積極性。								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	カレンカーペンター① 1970年代イージーリスニングのジャンルで独自の音楽スタイルを築いたアメリカの兄弟デュオカーペンターズのヴォーカリスト。 カレンの落ち着いたある低音域を研究し、実践。			課題曲のメロディー歌詞、発声法を復習。				
第2回	カレンカーペンター②			同上				
第3回	シンディーローパー① 1980年代活躍した個性的な声とファッションで永遠の少女と称される、パンキッシュな魅力のボーカリスト。 シンディーの主張の強い中音域を研究、実践。			同上				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	シンディーローパー②	同上
第5回	マドンナ① 史上最も成功した女性アーティスト。 クイーンオブポップスとも呼ばれる。 マドンナの煌びやかな中高音域を研究、実践。	同上
第6回	マドンナ②	同上
第7回	オリビアニュートンジョン① 1970年から80年にかけて可愛いルックスと カントリー系の素朴な路線で多くのヒット曲を放った。 オリビアの艶やかな高音域を研究、実践。	同上
第8回	オリビアニュートンジョン②	同上
第9回	ダイアナロス① シュープリームスとしてモータウン時代から活躍し ソロとしても大成功を収めたブラックミュージックの大御所。 ダイアナの甘く透明感のある歌唱法とシュープリームスの楽曲でコー ラスワークを研究、実践。	同上
第10回	ダイアナロス②	同上
第11回	ジャネットジャクソン① 1990年代斬新なパフォーマンスで大成功し 日本のR&Bアーティストにも大きな影響を与える。 ジャネットのウイスパ、エアリーな歌唱法を研究、実践。	同上
第12回	ジャネットジャクソン②	同上
第13回	アヴリルラヴィーン① 2000年代全世界で4000万枚以上のセールスを達成した、モダンロッ ク、パワーポップの歌姫。アヴリルの心地よいシャウトを研究、実践。	同上
第14回	アヴリルラヴィーン②	同上
第15回	前期まとめ 前期で紹介した7人の歌姫の楽曲で気に入ったものをそれぞれ1曲選 び、発表。	

科目名(クラス)	シンギングポップスB	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	仁科 薫理	履修対象・条件					
【授業の概要】							
世界のポップス界において、さまざまなジャンルで活躍した、1960年代から現代までの13人女性トップボーカリスト(歌姫)の楽曲、動画、生涯を紹介します。 また代表曲の歌唱法を研究しながらの発声トレーニング、リズムトレーニングをメインに歌詞、楽曲構成、ボーカリスト自身の信念などを紐解き、感性を高め、自分自身を表現するのに適したアプローチ、スタイル、パフォーマンスなどを追求します。							
【授業の到達目標】							
芸術音楽、伝統音楽とは異なる、音楽産業を通して多数の聴衆に配給され、時代背景により様々に変化していくポップスの短い歴史に理解を深めます。 それらの代表楽曲を実技歌唱することにより、より一層身近に感じ、今後未来に音楽を発信する、自らの選択、可能性、柔軟性についてのヒントを探っていきます。							
【授業の「方法」と「形式」】							
講義、DVDなど動画鑑賞、及び歌唱実践トレーニング							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
基本的に声で自己表現が目的の授業になりますので、おひとり又は少人数での歌唱、朗読の場面も出てきます。 強要は致しませんが、積極的な参加を望みます。 風邪などで声が出なくなった方、発声トレーニングが悪化の原因になる可能性があります。 また呼吸法などで他の生徒さんにも感染しやすくなります。決して無理をせず完治してから出席してください。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
課題による採点(70%)及び、出席、授業への積極性。							
教科書		著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	ブリトニースピアーズ① 2000年代時代を圧巻したアメリカのスーパーアイドル。 ブリトニーの喉を使ったエフェクティブな歌唱法を研究、歌唱。			課題曲のメロディー歌詞、発声法を復習。			
第2回	ブリトニースピアーズ②			同上			
第3回	アストラッドジルベルト① イパネマの娘が大ヒットしたブラジル出身のボサノヴァの歌姫をはじめ、フランス、北欧などのワールドミュージックの歌姫も紹介。アストラッドの力の抜けた個性的な歌唱法を研究、実践。			同上			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	アストラッドジゼルベルト②	同上
第5回	キャロルキング① 多くのヒット曲を世に送り出した アメリカ出身の元祖女性シンガーソングライター。 キャロルの楽曲表現に重点を置いた誠実な歌唱法を研究、実践。	同上
第6回	キャロルキング②	同上
第7回	スパイスガールズ① 90年代後半ポップシーンで大活躍した 5人組のイギリス出身のガールズグループ。 それぞれ違った個性の声の持ち主で構成されたスパイスガールズの コーラスワークを研究、実践	同上
第8回	スパイスガールズ②	同上
第9回	ジュリーアンドリュース① 「サウンドオブミュージック」など多数の名作に主演した ミュージカルスター。ジュリーの可憐で表現豊かな歌唱法を研究、実 践。	同上
第10回	ジュリーアンドリュース②	同上
第11回	チャカカーン① 驚異的な歌唱力で1970～80年代にR&Bの女王と呼ばれ、ジャズシン ガーとしても評価されている。チャカのパワフルでメカニカルな歌唱法 を研究、実践。	同上
第12回	チャカカーン②	同上
第13回	ジャズ史① チャカカーン「チュニジアの夜」の歌詞に出てくるエンターテインメント界 伝説の人物を紹介し、ポップスの原点、現代から1900年代初期まで ジャズの歴史を遡る。	同上
第14回	ジャズ史②	同上
第15回	後期まとめ 後期で紹介した6人の歌姫の楽曲で気に入ったものをそれぞれ1曲選 び、発表。	

科目名(クラス)	サウンドクリエーションA	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	城之内 ミサ	履修対象・条件					
【授業の概要】							
音楽のボーダーレス化が著しい今。ポップス領域とされる様々な「サウンド」の仕組みを理解することは、音楽の多様性に対する柔軟な対応力を養うことに繋がります。この授業では、和声とはまた違った観点での「応用」とともに多様なサウンドの仕組みも研究します。既存の楽曲のコード展開やメロディを分析しながら、やがては自分自身で作曲する、あるいは既存の曲を自分なりにアレンジするためのアイデアを研究します。既存の曲や講師自身の楽曲やアレンジ考査、コンピューター音楽制作の入り口も経験いただきながら、作曲のモチーフや延ばし方、ポップスに於けるピアノ伴奏等も研究します。							
【授業の到達目標】							
芸術音楽・伝統音楽とは異なり、音楽産業を通してより多数の聴衆に配給され、時代背景により様々に変化していくポップスの『楽曲制作過程』にスポットをあてます。創作と、作ったその先にどういった作用があるのかは、この業界で長らく積んだ「経験則」からなる解説が最も解りやすいと考えます。楽曲制作過程の中で、作曲家やクライアントの要求とはどういうものなのかを知る事により、また自身でも創作することをトライしてみる事により、自らの演奏・歌唱に於ける自由な表現の選択、可能性、柔軟性、応用性へのヒントに繋がります。							
【授業の「方法」と「形式」】							
講義形式。教科書等は特に使用せず、CDやDVDの視聴覚機器の使用等。							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
受講される皆さんに作曲デモンストレーションとしてモチーフ(2小節)作りに参加戴いたり、楽器演奏や歌唱で参加戴いたり、台本を読んだりしていただくことがあります。強要はいたしません積極的に参加いただくことを望みます。人前で何かをされたくない方も受講出来ませんが、講師の講義や学生さんのパフォーマンスには真摯に耳を傾けていただく事を心から望みます。遅刻早退は原則的に認めません							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
前期試験として短い曲の創作。後期試験として課題の歌詞に対する作曲を課題とします。これら課題による評価(70%)及び、授業への積極性と受講態度を総合的に評価する。							
教科書		著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	イメージと音楽Ⅰ～Don't think, fill						
第2回	イメージと音楽Ⅱ～作り手として表現者として観客に何を伝えたいのか			改めて自分自身が音楽で表現したいことを考える			
第3回	コードⅠ～時には理論、理屈がなぜ必要なのか～ダイアトニックスケール			同上			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	コードⅡ～時には理論、理屈がなぜ必要なのか～ダイアトニックコード	
第5回	モチーフⅠ～重要なのは「メロディ」	コードの復習
第6回	モチーフⅡ～偶然と必然、思いつきとひらめき	同上
第7回	メロディとコードの関係Ⅰ(ハーモナイズ)	同上
第8回	メロディとコードの関係Ⅱ(リハーモナイズ)	同上
第9回	メロディとコードの関係Ⅲ(リハーモナイズの復習)	同上
第10回	音楽のジャンルと「らしさ」の研究	同上
第11回	ジングル・CM音楽Ⅰ～短くても「音楽」	同上
第12回	ジングル・CM音楽Ⅱ～作ってみよう	同上
第13回	付随する音楽～インストゥルメンタルⅠ:映像音楽	同上
第14回	付随する音楽～インストゥルメンタルⅡ:芝居と音楽	同上
第15回	付随する音楽～インストゥルメンタルⅢ:テーマ曲、挿入歌考査 まとめ	

科目名(クラス)	サウンドクリエーションB	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	城之内 ミサ	履修対象・条件					
【授業の概要】							
音楽のボーダレス化が著しい今。ポップス領域とされる様々な「サウンド」の仕組みを理解することは、音楽の多様性に対する柔軟な対応力を養うことに繋がります。この授業では、和声とはまた違った観点での「応用」を学びます。既存の楽曲のコード展開やメロディを分析しながら、やがては自分自身で作曲する、あるいは既存の曲を自分なりにアレンジするためのアイデアを研究します。既存の曲や講師自身の楽曲やアレンジ考査、コンピューター音楽制作の入り口も経験いただきながら、作曲のモチーフや延ばし方、ポップスに於けるピアノ伴奏等も研究します。							
【授業の到達目標】							
芸術音楽・伝統音楽とは異なり、音楽産業を通してより多数の聴衆に配給され、時代背景により様々に変化していくポップスの『楽曲制作過程』にスポットをあてます。創作と、作ったその先にどういった作用があるのかは、この業界で長らく積んだ「経験則」からなる解説が最も解りやすいと考えます。楽曲制作過程の中で、作曲家やクライアントの要求とはどういうものなのかを知る事により、また自身でも創作することをトライしてみる事により、自らの演奏・歌唱表現の選択、可能性、柔軟性へのヒントに繋がります。							
【授業の「方法」と「形式」】							
講義形式。教科書等は特に使用せず、CDやDVDの視聴覚機器の使用等。							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
受講される皆さんに作曲デモンストレーションとしてモチーフ(2小節)作りに参加戴いたり、楽器演奏や歌唱で参加戴いたり、台本を読んだりしていただくことがあります。強要はいたしません積極的に参加いただくことを望みます。人前で何かをされたくない方も受講出来ますが、講師の講義や学生さんのパフォーマンスには真摯に耳を傾けていただく事を心から望みます。遅刻早退は原則的に認めません							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
前期試験として短い曲の創作。後期試験として課題の歌詞に対する作曲を課題とします。これら課題による評価(70%)及び、授業への積極性と受講態度を総合的に評価する。							
教科書		著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	言葉と音楽Ⅰ			改めて自分自身が音楽で表現したいことを考える			
第2回	言葉と音楽Ⅱ～短い詩に曲をつけてみよう			同上			
第3回	アレンジⅠ			同上			

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	アレンジⅡ～ポップス領域オリジナル伴奏法とリズム	同上
第5回	アレンジⅢ (ゲスト講師:作編曲家 信田かずお)	同上
第6回	ボーシング～ポップスの場合Ⅰ	同上
第7回	ボーシング～ポップスの場合Ⅱ	同上
第8回	楽曲のアイデア／テーマ	同上
第9回	アナリーゼ(楽曲分析)Ⅰ	同上
第10回	アナリーゼⅡ～トランスポジションとモデュレーション	同上
第11回	デジタル音楽制作Ⅰ	同上
第12回	デジタル音楽制作Ⅱ	同上
第13回	デジタル音楽制作Ⅲ	同上
第14回	音を描くⅠ～これまでの復習とともに	同上
第15回	音を描くⅡ～まとめ	

科目名(クラス)	THE プロフェッショナルA	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	城之内 ミサ	履修対象・条件	コンポージングアーティスト専攻は必修				
【授業の概要】							
音楽業界・ショービジネス業界における『プロの現場』で活躍するゲスト講師陣が展開する、受講生自身の見聞を広げて戴くための教養講座。著名アーティストを指導するポップス領域のボイストレーナー、第一線で活躍するジャズピアニスト、テレビ局の演出家／プロデューサー、俳優、振り付け師等のゲスト講師の講義や体験レッスン等、多面的な視点での授業を展開します。ショービジネスの世界に於ける異業種・異分野の世界を垣間みることで更なる感性を磨き、自分自身の『セルフプロデュース』の能力を養うための授業を目指します。							
【授業の到達目標】							
芸術音楽、伝統音楽の分野とは異なる「ショービジネスの世界」に従事されている、それぞれの分野の各講師陣の豊かな経験からなる解説や実践を学ぶことは、自らの選択や可能性、柔軟性を発見するきっかけとなり、自身の演奏や歌唱に於ける表現力、応用力の幅を広げることに繋がります。							
【授業の「方法」と「形式」】							
講義形式が主ですが、実践としての側面もあります。							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
授業では、お一人で演奏あるいは歌唱戴いたり、実際のテレビドラマで使用した台本を皆さんで読んで戴く、あるいは立ち稽古という場面もあります。強要はいたしません積極的に参加いただくことを望みます。人前で何かをされたくない方も受講出来ますが、講師の講義や学生さんのパフォーマンスには真摯に耳を傾けていただく事を心から望みます。遅刻、早退は原則的に認めません。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
課題による採点(70%)及び、授業への積極性、受講態度を総合的に評価する。							
教科書		著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	ポップス領域ボイストレーニングⅠ 講師:仁科薫理 (ボイストレーナー、ボーカルディレクション・ボーカルアレンジャー)						
第2回	ポップス領域ボイストレーニングⅡ 講師:仁科薫理 (ボイストレーナー、ボーカルディレクション・ボーカルアレンジャー)			発声、母音子音の発音のノウハウを復習			
第3回	ポップス領域ボイストレーニングⅢ 講師:仁科薫理 (ボイストレーナー、ボーカルディレクション・ボーカルアレンジャー)			同上			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	ポップス領域ボイストレーニングⅣ 講師:仁科薫理 (ボイストレーナー、ボーカルディレクション・ボーカルアレンジャー)	同上
第5回	ポップス領域ボイストレーニングⅤ 講師:仁科薫理 (ボイストレーナー、ボーカルディレクション・ボーカルアレンジャー)	同上
第6回	ポップス領域ボイストレーニングⅥ 講師:仁科薫理 (ボイストレーナー、ボーカルディレクション・ボーカルアレンジャー)	課題曲の予習、復習
第7回	ポップス領域ボイストレーニングⅦ 講師:仁科薫理 (ボイストレーナー、ボーカルディレクション・ボーカルアレンジャー)	同上
第8回	ポップス領域ボイストレーニングⅧ 講師:仁科薫理 (ボイストレーナー、ボーカルディレクション・ボーカルアレンジャー)	同上
第9回	Jazz入門Ⅰ 講師:信田かずお(作編曲家、ジャズピアニスト)	ジャズの歴史を予習。yotubeで興味を持つようなジャズを事前にリサーチしておきましょう
第10回	Jazz入門Ⅱ 講師:信田かずお(作編曲家、ジャズピアニスト)	自分なりに課題曲をフェイクして歌ってみる
第11回	俳優・声優の世界Ⅰ 講師:ひかる一平(俳優/俳優養成所所長/元ジャニーズ)	発声法を予習復習
第12回	俳優・声優の世界Ⅱ 講師:ひかる一平(俳優/俳優養成所所長/元ジャニーズ)	表現の多面性について考査
第13回	脚本はスコア、セリフは音符Ⅰ 講師:清弘誠(TBSプロデューサー・演出家)	
第14回	脚本はスコア、セリフは音符Ⅱ 講師:清弘誠(TBSプロデューサー・演出家)	実際にTVでオンエアされた台本を読む。自分なら、台本に描かれたその状況をどう解釈するのかを考えてみる
第15回	脚本はスコア、セリフは音符Ⅲ 講師:清弘誠(TBSプロデューサー・演出家)	多岐に渡る表現方法の考査

科目名(クラス)	THE プロフェッショナルB	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	城之内 ミサ	履修対象・条件	コンポージングアーティスト専攻は必修				
【授業の概要】							
音楽業界・ショービジネス業界における『プロの現場』で活躍するゲスト講師陣が展開する、受講生自身の見聞を広げて戴くための教養講座。著名アーティストを指導するポップス領域のボイストレーナー、第一線で活躍するジャズピアニスト、テレビ局のプロデューサー、俳優、振り付け師等のゲスト講師の講義や体験レッスン等、多面的な視点での授業を展開します。ショービジネスの世界に於ける異業種・異分野の世界を垣間みることで更なる感性を磨き、自分自身の『セルフプロデュース』の能力を養うための授業を目指します。							
【授業の到達目標】							
芸術音楽、伝統音楽の分野とは異なる「ショービジネスの世界」に従事されている、それぞれの分野の各講師陣の豊かな経験からなる解説や実践を学ぶことは、自らの選択や可能性、柔軟性を発見するきっかけとなり、自身の演奏や歌唱に於ける表現力、応用力の幅を広げることに繋がります。							
【授業の「方法」と「形式」】							
講義形式が主ですが、実践としての側面もあります。							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
授業では、課題に於けるグループごとの発表や、お一人で演奏戴いたりする場面もあります。強要はいたしません積極的に参加いただくことを望みます。人前で何かをされたくない方も受講出来ますが、講師の講義や学生さんのパフォーマンスには真摯に耳を傾けていただく事を心から望みます。遅刻、早退は原則的に認めません。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
課題による採点(70%)及び、授業への積極性、受講態度を総合的に評価する。							
教科書		著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	ステージマナーとダンシング～体でリズムを感じるⅠ 講師:徳岡ひろこ(振り付け師・ダンサー)						
第2回	ステージマナーとダンシング～体でリズムを感じるⅡ 講師:徳岡ひろこ(振り付け師・ダンサー)			エクセサイズやステップを復習			
第3回	ステージマナーとダンシング～体でリズムを感じるⅢ 講師:徳岡ひろこ(振り付け師・ダンサー)			同上			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	ステージマナーとダンシング～体でリズムを捉えるⅣ 講師:徳岡ひろこ(振り付け師・ダンサー)	同上
第5回	ステージマナーとダンシング～体でリズムを捉えるⅤ 講師:徳岡ひろこ(振り付け師・ダンサー)	同上
第6回	ステージマナーとダンシング～体でリズムを捉えるⅥ 講師:徳岡ひろこ(振り付け師・ダンサー)	同上
第7回	ステージマナーとダンシング～体でリズムを捉えるⅦ 講師:徳岡ひろこ(振り付け師・ダンサー)	同上
第8回	ステージマナーとダンシング～体でリズムを捉えるⅧ 講師:徳岡ひろこ(振り付け師・ダンサー)	同上
第9回	ステージマナーとダンシング～体でリズムを捉えるⅨ 講師:徳岡ひろこ(振り付け師・ダンサー)	同上
第10回	ステージマナーとダンシング～体でリズムを捉えるⅩ 講師:徳岡ひろこ(振り付け師・ダンサー)	同上
第11回	ステージマナーとダンシング～体でリズムを捉えるⅪ 講師:徳岡ひろこ(振り付け師・ダンサー)	同上
第12回	ステージマナーとダンシング～体でリズムを捉えるⅫ 講師:徳岡ひろこ(振り付け師・ダンサー)	同上
第13回	ポップスのリズム～タイトなリズム感Ⅰ 講師:船本英雄(パーカッション奏者・作編曲家)	四分、八分、十六分等基本のリズムパターンを再考
第14回	ポップスのリズム～タイトなリズム感Ⅱ 講師:船本英雄(パーカッション奏者・作編曲家)	クラシックとのアクセントの違い等の考査
第15回	ステージの音を観客に届ける～PAミキサーの現場から 講師:荒谷真一(コンサート音響プロデューサー)	

科目名(クラス)	音楽の基礎理論A		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	新井雅之	履修対象・条件	全専攻必修。社会人は選択					
【授業の概要】								
作曲する際はもとより、楽曲を歌ったり演奏したりする際にも必要になる音楽の基本的事項を知り、学んで行く。								
【授業の到達目標】								
音楽大学の学生として有意義な生活を送るために不可欠な基本的知識の習得を目的とする。それはコンピューターを自由に操作するために、コンピューター言語の理解が必要なのと同様である。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義、質疑応答、演習を中心に進めて行く。必要に応じて説明用または演習用のプリントを配布。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
音楽的内容をより理解するために歌ったりピアノを使用することが多い・遅刻、早退は原則として認めない。積極的な授業参加を望む。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
学期末定期試験(80%)・演習時の理解到達度及び授業への参加度・積極的貢献度(20%)								
教科書	なし	著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献	なし	著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	音名について(日本語、英語、仏語、伊語、独語)(主音、導音、属音、下属音)			予習は必要としないが必ず復習し学習事項を確認すること。				
第2回	強弱を表す楽語について			予習は必要としないが前回の復習は必ずすること。				
第3回	速度を表す楽語について			予習は必要としないが前回の復習は必ずすること。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	奏法及び感情表現のための学語について	予習は必要としないが前回の復習は必ずすること。
第5回	音程という考え方と名称の理解及び演習(完全音程) 完全1度、4度、5度、8度の理解	予習として、ピアノで下の音を弾き、上の音を声に出して音程をつかむ練習をする。所要時間15分程度。音程の名称を復習して確認すること。
第6回	音程II(長短音程)(含む転回音程) 長短2度、長短3度、長短6度、長短7度の理解	予習として、ピアノで下の音を弾き、上の音を声に出して音程をつかむ練習をする。所要時間15分程度。音程の名称を復習して確認すること。
第7回	音程III(増減音程)(含む転回音程) 増1度、増4度、増6度、減3度、減5度、増減8度の理解	予習として、ピアノで下の音を弾き、上の音を声に出して音程をつかむ練習をする。所要時間15分程度。音程の名称を復習して確認すること。
第8回	3和音という考え方の理解及び演習(長3和音と短3和音)	予習として、短3度と長3度の音程の違いを鍵盤上の12種類の組み合わせで見ても確認、響の違いも聴いて確かめておく。所要時間15分程度。
第9回	3和音II(増3和音と減3和音)	予習として、増5度と減5度の音程を鍵盤上の12種類の組み合わせで見ても確認、完全5度との響の違いを聴いて確かめておく。所要時間15分程度
第10回	7の和音という考え方の理解及び演習(長7の和音と短7の和音)	予習として、短7度と長7度の音程を鍵盤上の12種類の組み合わせで見ても確認、響の違いも聴いて確かめておく。所要時間15分程度。
第11回	7の和音II(属7の和音と減7の和音)	予習として、長3和音と減3和音の響の違いを鍵盤上で音程を確認しながら把握しておく。所要時間15分程度。
第12回	調性及び調合の理解と演習(シャープ4コ、フラット4コまでの調号の学習)	予習として、調号のシャープとフラットの置かれる五線上の位置を確かめておく。所要時間10分程度。
第13回	平行調、同主調、属調、下屬調の理解と長音階	予習として、調号4個までの長音階を五線上と鍵盤で確かめておく。所要時間10分程度。
第14回	和声的短音階と旋律的短音階の理解と演習	予習として、調号4個までの短音階を五線上と鍵盤で確かめておく。所要時間15分程度。模擬問題で理解度をチェック。
第15回	まとめ	あらかじめ模擬問題で理解度をチェック。所要時間50分程度。

科目名(クラス)	音楽の基礎理論B		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	新井雅之	履修対象・条件	全専攻必修。社会人は選択					
【授業の概要】								
作曲する際はもとより、楽曲を歌ったり演奏したりする際にも必要になる音楽の基本的事項を知り、学んで行く。								
【授業の到達目標】								
音楽大学の学生として有意義な生活を送るために不可欠な基本的知識の習得を目的とする。それはコンピューターを自由に操作するために、コンピューター言語の理解が必要なと同様である。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義、質疑応答、演習を中心に進めて行く。必要に応じて説明用または演習用のプリントを配布。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
音楽的内容をより理解するために歌ったりピアノを使用することが多い・遅刻、早退は原則として認めない。積極的な授業参加を望む。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
学期末定期試験(80%)・演習時の理解到達度及び授業への参加度・積極的貢献度(20%)								
教科書	なし	著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献	なし	著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	リズム、拍子についての演習Ⅰ(音符と休符の長さ)。付点を含む様々な音価を正しく理解			学習したリズム、拍子を繰り返し書いて確かめる。				
第2回	リズム、拍子についての理解と演習Ⅱ(4/4、3/4、6/8その他の拍子)。譜例から拍子を判断できるようにする。			予習として、各拍子の概念を確認しておく。所要時間10分程度。様々な例で拍子を把握できるよう復習。				
第3回	調性判定の演習Ⅰ(調号2コマまで)。どのような根拠で調性ができるかを正しく理解。			予習として、調号2個までの調の音階の7つの固有音を確認しておく。所要時間10分程度。演習した例をピアノで弾き、歌い調性感を確認。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	調性判定Ⅱ(調号3、4コ)。どのような根拠で調性ができるかを正しく理解。	予習として、調号3個、4個の調の音階の7つの固有音を確認しておく。所要時間10分程度。演習した例をピアノで弾き、歌い調性感を確認。
第5回	調性判定Ⅲ(転調を含むもの)。どのような根拠で調性ができるかを正しく理解。	予習として、調性の違いによる音階に生じる変化を把握しておく。所要時間15分程度。演習した例をピアノで弾き、歌い調性感を確認。
第6回	ブルグミュラーの楽曲の中にある音程、和音、音階、調性判定の実際。実際の楽曲の中に楽典的要素がどのような音楽的意味をもつてつかわれているかを考察。	予習として、あらかじめ題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間15分程度。
第7回	ソナチネアルバムの中にある音程、和音、音階、調性判定の実際。実際の楽曲の中に楽典的要素がどのような音楽的意味をもつてつかわれているかを考察。	予習として、あらかじめ題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間15分程度。
第8回	コンコーネの中にある音程、和音、音階、調性判定の実際。実際の楽曲の中に楽典的要素がどのような音楽的意味をもつてつかわれているかを考察。	予習として、あらかじめ題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間15分程度。
第9回	ショパンのピアノ曲の中にある音程、和音、音階、調性判定の実際。実際の楽曲の中に楽典的要素がどのような音楽的意味をもつてつかわれているかを考察。	予習として、あらかじめ題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第10回	各旋律の秘密Ⅰ(楽典的に分析、解明する)。旋律の骨格の分析と倚音、変化音の役割を理解する。	予習として、あらかじめ題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第11回	各旋律の秘密Ⅱ(楽典的に分析、解明する)。旋律の骨格の分析と倚音、変化音の役割を理解する。	予習として、あらかじめ題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第12回	各旋律の秘密Ⅲ(楽典的に分析、解明する)。旋律の骨格の分析と倚音、変化音の役割を理解する。	予習として、あらかじめ題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第13回	総合問題演習。過去問により個々のレベルの最終チェックを行う。	ミステイクした所を良く復習すること。
第14回	総合問題演習。過去問により個々のレベルの最終チェックを行う。	ミステイクした所を良く復習すること。
第15回	まとめ	ミステイクした所を良く復習すること。

科目名(クラス)	音楽史A		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	山下 暁子	履修対象・条件						
【授業の概要】								
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋音楽の歴史を概観し、基礎知識を習得するための科目です。 ・前期は、古代ギリシャから、中世、ルネサンス、バロック、古典派までを扱います。 								
【授業の到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> ・「音楽史の耳」で時代ごとの音楽をとらえ、具体的な語句や代表的な作品を挙げながら音楽上の特徴を自分の言葉で説明できる。 ・音楽を取り巻く様々な背景からそれぞれの音楽を理解し、音楽というものをより広い視野でとらえ、深く学ぼうとする姿勢を身に付ける。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式 ・視聴覚機器等を使用し、なるべく実際の音楽に触れられるようにします。 								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・受講マナーを守り、欠席、遅刻、早退をしないこと。 ・授業への積極的な取り組みが高く評価されます。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験(60%)、授業への積極性(40%)から総合的に評価します。 ・授業への積極性は、毎回授業内に行う出席シートの記述内容、予習や復習等の学習への取り組みから評価します。 								
教科書	『はじめての音楽史』	著者等	久保田慶一・他	出版社	音楽之友社			
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	「西洋音楽史」を理解するために			予習： シラバスを読んで授業の内容を理解する。 復習： 「西洋音楽史」の定義と時代区分について、説明できるようにする。				
第2回	古代ギリシャ			予習： 教科書の「第1章 古代ギリシア」を事前に読む。 復習： 古代ギリシアの音楽について、自分なりに説明できるようにする。				
第3回	中世① キリスト教と音楽			予習： 教科書の「第2章 中世」を事前に読む。 復習： 中世のキリスト教と音楽について、自分なりに説明できるようにする。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	中世② ポリフォニー	予習：教科書の「第2章 中世」を事前に読む。 復習：中世のポリフォニー音楽について、自分なりに説明できるようにする。
第5回	中世③ アルス・ノヴァ	予習：教科書の「第2章 中世」を事前に読む。 復習：中世のアルス・ノヴァについて、自分なりに説明できるようにする。
第6回	ルネサンス① ブルゴーニュ楽派、フランドル楽派	予習：教科書の「第3章 ルネサンス(1)」を事前に読む。 復習：ルネサンスの音楽について、自分なりに説明できるようにする。
第7回	ルネサンス② マドリガーレ、器楽の発展	予習：教科書の「第4章 ルネサンス(2)」を事前に読む。 復習：ルネサンスの音楽について、自分なりに説明できるようにする。
第8回	バロック① オペラ	予習：教科書の「第5章 バロックの音楽」を事前に読む。 復習：バロックのオペラについて、自分なりに説明できるようにする。
第9回	バロック② 器楽	予習：教科書の「第6章 バロックの器楽」を事前に読む。 復習：バロックの器楽について、自分なりに説明できるようにする。
第10回	バロック③ J. S. バッハ	予習：教科書の「第6章 バロックの器楽」を事前に読む。 復習：J. S. バッハの音楽について、自分なりに説明できるようにする。
第11回	古典派① 前古典派	予習：教科書の「第7章 前古典派」を事前に読む。 復習：前古典派の音楽について、自分なりに説明できるようにする。
第12回	古典派② 概要	予習：教科書の「第8章 古典派」を事前に読む。 復習：古典派の音楽について、自分なりに説明できるようにする。
第13回	古典派③ ハイドン、モーツァルト	予習：教科書の「第8章 古典派」を事前に読む。 復習：ハイドンとモーツァルトの音楽について、自分なりに説明できるようにする。
第14回	古典派④ ベートーヴェン	予習：教科書の「第8章 古典派」を事前に読む。 復習：ベートーヴェンの音楽について、自分なりに説明できるようにする。
第15回	まとめ	予習：これまでの内容を復習する。 復習：本科目の目的である「自分の言葉で説明できること」を、知識の定着と共に確認する。

科目名(クラス)	音楽史B		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	山下 暁子	履修対象・条件						
【授業の概要】								
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋音楽の歴史を概観し、基礎知識を習得するための科目です。 ・後期は前期に引き続き、ロマン派から、19世紀、20世紀の音楽を扱います。 								
【授業の到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> ・「音楽史の耳」で時代ごとの音楽をとらえ、具体的な語句や代表的な作品を挙げながら音楽上の特徴を自分の言葉で説明できる。 ・音楽を取り巻く様々な背景からそれぞれの音楽を理解し、音楽というものをより広い視野でとらえ、深く学ぼうとする姿勢を身に付ける。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式 ・視聴覚機器等を使用し、なるべく実際の音楽に触れられるようにします。 								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・受講マナーを守り、欠席、遅刻、早退をしないこと。 ・授業への積極的な取り組みが高く評価されます。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験(60%)、授業への積極性(40%)から総合的に評価します。 ・授業への積極性は、毎回授業内に行う出席シートの記述内容、予習や復習等の学習への取り組みから評価します。 								
教科書	『はじめての音楽史』	著者等	久保田慶一・他	出版社	音楽之友社			
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	ロマン派① 概要			予習： シラバスを読んで授業の内容を理解する。 復習： ロマン派の音楽について、自分なりに説明できるようにする。				
第2回	ロマン派② シューベルト			予習： 教科書の「第9章 ロマン主義前期」を事前に読む。 復習： シューベルトの音楽について、自分なりに説明できるようにする。				
第3回	ロマン派③ シューマン			予習： 教科書の「第9章 ロマン主義前期」を事前に読む。 復習： シューマンの音楽について、自分なりに説明できるようにする。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	ロマン派④ ショパン	予習：教科書の「第9章 ロマン主義前期」を事前に読む。 復習：ショパンの音楽について、自分なりに説明できるようにする。
第5回	ロマン派⑤ リスト	予習：教科書の「第10章 ロマン主義の諸相」を事前に読む。 復習：リストの音楽について、自分なりに説明できるようにする。
第6回	ロマン派⑥ ヴァーグナー、ブラームス	予習：教科書の「第10章 ロマン主義の諸相」を事前に読む。 復習：ヴァーグナーとブラームスの音楽について、自分なりに説明できるようにする。
第7回	ロマン派⑦ チャイコフスキー	予習：教科書の「第10章 ロマン主義の諸相」を事前に読む。 復習：チャイコフスキーや同時代の音楽について、自分なりに説明できるようにする。
第8回	ロマン派⑧ マーラー	予習：教科書の「第10章 ロマン主義の諸相」を事前に読む。 復習：マーラーや同時代の音楽について、自分なりに説明できるようにする。
第9回	19世紀 ドビュッシー	予習：教科書の「第10章 ロマン主義の諸相」を事前に読む。 復習：ドビュッシーや同時代の音楽について、自分なりに説明できるようにする。
第10回	20世紀① シェーンベルク	予習：教科書の「第11章 20世紀(1)」を事前に読む。 復習：シェーンベルクや同時代の音楽について、自分なりに説明できるようにする。
第11回	20世紀② ストラヴィンスキー	予習：教科書の「第11章 20世紀(1)」を事前に読む。 復習：ストラヴィンスキーや同時代の音楽について、自分なりに説明できるようにする。
第12回	20世紀③ サティ	予習：教科書の「第11章 20世紀(1)」を事前に読む。 復習：サティや同時代の音楽について、自分なりに説明できるようにする。
第13回	20世紀④ 現代音楽(1)	予習：教科書の「第12章 20世紀(2)」を事前に読む。 復習：第二次世界大戦以後の現代音楽について、自分なりに説明できるようにする。
第14回	20世紀⑤ 現代音楽(2)	予習：教科書の「第12章 20世紀(2)」を事前に読む。 復習：第二次世界大戦以後の現代音楽について、自分なりに説明できるようにする。
第15回	まとめ	予習：これまでの内容を復習する。 復習：本科目の目的である「自分の言葉で説明できること」を、知識の定着と共に確認する。

科目名(クラス)	楽器の特性と機能A		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	岩間 文正	履修対象・条件						
【授業の概要】								
<p>自らが専門的に関わってきた楽器だけではなく、全ての楽器についての知識を持っている事は極めて重要である。本授業は、各楽器の様々な「歴史」「変遷」「機能」、その楽器の特徴・特性を発揮する楽曲などの知識を習得する事を目標とする。</p> <p>1年間を通して全ての楽器解説を目標としているので、出来れば後期に開講される「楽器の特性と機能」Bと合わせて履修する事が望ましい。</p>								
【授業の到達目標】								
<p>授業で取り上げた楽器について、歴史、成り立ち、材質、発音原理や演奏方法、メンテナンス、作品等について理解する。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】								
<p>講義形式。毎週専門の講師による演奏を交えた楽器解説。各回の授業ではDVD・CD等視聴覚教材を使用する事がある。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<p>テキストは使用しないが授業時に配布された資料は大切に保管しておく事。言葉や紙面上の説明だけでなく、実際の楽器による生(なま)の音を聴くので、MP3等に録音する事が望ましい。各楽器の解説は専門の講師に依頼するため、必ずしもこのシラバスの順序で授業が進むとは限らない。また、講師のスケジュールによっては解説出来ない楽器が出たり、研究員が担当したりする場合もある。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<p>期末に、授業で取り上げた全ての楽器について、授業内容を反映させたレポートを提出。【レポート100%】 レポート提出方法についてはオリエンテーション時及び最後の授業時に説明する。掲示も参照する事。</p>								
教科書	教員側で準備する	著者等		出版社				
教科書	教員側で準備する	著者等		出版社				
参考文献	教員側で準備する	著者等		出版社				
参考文献	教員側で準備する	著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	木管楽器概説							
第2回	・リコーダーの基礎知識			解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。				
第3回	・フルートの基礎知識			解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	・オーボエの基礎知識	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。
第5回	・クラリネットの基礎知識	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。
第6回	・ファゴットの基礎知識	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。
第7回	・サクソフォンの基礎知識	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。
第8回	ピアノ概説	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。
第9回	チェンバロ概説	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。
第10回	金管楽器概説	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。
第11回	・トランペットの基礎知識	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。
第12回	・ホルンの基礎知識	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。
第13回	・トロンボーンの基礎知識	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。
第14回	レポート作成に向けて授業内容の最終確認。	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。
第15回	まとめ。	期日までにレポートを提出する。

科目名(クラス)	楽器の特性と機能B		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	岩間 文正	履修対象・条件						
【授業の概要】								
<p>自らが専門的に関わってきた楽器だけではなく、全ての楽器についての知識を持っている事は極めて重要である。本授業は、各楽器の様々な「歴史」「変遷」「機能」、その楽器の特徴・特性を発揮する楽曲などの知識を習得する事を目標とする。</p> <p>1年間を通して全ての楽器解説を目標としているので、出来れば前期に開講される「楽器の特性と機能」Aと合わせて履修する事が望ましい。</p>								
【授業の到達目標】								
<p>授業で取り上げた楽器について、歴史、成り立ち、材質、発音原理や演奏方法、メンテナンス、作品等について理解する。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】								
<p>講義形式。毎週専門の講師による、演奏を交えた楽器解説。各回の授業ではDVD・CD等視聴覚教材を使用する事がある。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<p>テキストは使用しないが授業時に配布された資料は大切に保管しておく事。言葉や紙面上の説明だけでなく、実際の楽器による生(なま)の音を聴くので、MP3等に録音する事が望ましい。各楽器の解説は専門の講師に依頼するため、必ずしもこのシラバスの順序で授業が進むとは限らない。また、講師のスケジュールによっては解説出来ない楽器が出る場合もある。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<p>期末に授業で取り上げた全ての楽器について、授業内容を反映させたレポートを提出。【レポート100%】 レポート提出方法についてはオリエンテーション時及び最後の授業時に説明する。掲示も参照する事。</p>								
教科書	教員側で準備する	著者等		出版社				
教科書	教員側で準備する	著者等		出版社				
参考文献	教員側で準備する	著者等		出版社				
参考文献	教員側で準備する	著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	・ユーフォニアムの基礎知識			解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。				
第2回	・チューバの基礎知識			解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。				
第3回	打楽器概説			解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	・打楽器の基礎知識	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。
第5回	・鍵盤打楽器の基礎知識	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。
第6回	・小物打楽器の基礎知識	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。
第7回	弦楽器概説	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。
第8回	・ヴァイオリンの基礎知識	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。
第9回	・ヴィオラの基礎知識	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。
第10回	・チェロの基礎知識	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。
第11回	・コントラバスの基礎知識	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。
第12回	ピアノ概説	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。
第13回	チェンバロ概説	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。
第14回	レポート作成に向けて授業内容の最終確認。	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておくこと。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をすること。
第15回	まとめ。	期日までにレポートを提出する。

科目名(クラス)	音楽教養基礎講座【楽典】I A	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	新井雅之	履修対象・条件	音楽教養専攻のみ履修可				
【授業の概要】							
作曲する際はもとより、楽曲を歌ったり演奏したりする際にも必要になる音楽の基本的事項を知り、学んで行く。							
【授業の到達目標】							
音楽大学の学生として有意義な生活を送るために不可欠な基本的知識の習得を目的とする。それはコンピューターを自由に操作するために、コンピューター言語の理解が必要なのと同様である。							
【授業の「方法」と「形式」】							
講義、質疑応答、演習を中心に進めて行く。必要に応じて説明用または演習用のプリントを配布。							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
音楽的内容をより理解するために歌ったりピアノを使用することが多い・遅刻、早退は原則として認めない。積極的な授業参加を望む。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
学期末定期試験(80%)・演習時の理解到達度及び授業への参加度・積極的貢献度(20%)							
教科書	なし	著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献	なし	著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	音名について(日本語、英語、仏語、伊語、独語)(主音、導音、属音、下属音)			予習は必要としないが必ず復習し学習事項を確認すること。			
第2回	強弱を表す楽語について			予習は必要としないが必ず復習し学習事項を確認すること。			
第3回	速度を表す楽語について			予習は必要としないが必ず復習し学習事項を確認すること。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	奏法及び感情表現のための学語について	予習は必要としないが必ず復習し学習事項を確認すること。
第5回	音程という考え方と名称の理解及び演習(完全音程) 完全1度、4度、5度、8度の理解	予習として、ピアノで下の音を弾き、上の音を声に出して音程をつかむ練習をする。所要時間15分程度。音程の名称を復習して確認すること。
第6回	音程II(長短音程)(含む転回音程) 長短2度、長短3度、長短6度、長短7度の理解	予習として、ピアノで下の音を弾き、上の音を声に出して音程をつかむ練習をする。所要時間15分程度。音程の名称を復習して確認すること。
第7回	音程III(増減音程)(含む転回音程) 増1度、増4度、増6度、減3度、減5度、増減8度の理解	予習として、ピアノで下の音を弾き、上の音を声に出して音程をつかむ練習をする。所要時間15分程度。音程の名称を復習して確認すること。
第8回	3和音という考え方の理解及び演習(長3和音と短3和音)	予習として、短3度と長3度の音程の違いを鍵盤上の12種類の組み合わせで見ても確認、響の違いも聴いて確かめておく。所要時間15分程度。
第9回	3和音II(増3和音と減3和音)	予習として、増5度と減5度の音程を鍵盤上の12種類の組み合わせで見ても確認、完全5度との響の違いを聴いて確かめておく。所要時間15分程度
第10回	7の和音という考え方の理解及び演習(長7の和音と短7の和音)	予習として、短7度と長7度の音程を鍵盤上の12種類の組み合わせで見ても確認、響の違いも聴いて確かめておく。所要時間15分程度。
第11回	7の和音II(属7の和音と減7の和音)	予習として、長3和音と減3和音の響の違いを鍵盤上で音程を確認しながら把握しておく。所要時間15分程度。
第12回	調性及び調合の理解と演習(シャープ4コ、フラット4コまでの調号の学習)	予習として、調号のシャープとフラットの置かれる五線上の位置を確かめておく。所要時間10分程度。
第13回	平行調、同主調、属調、下屬調の理解と長音階	予習として、調号4個までの短音階を五線上と鍵盤で確かめておく。所要時間15分程度。模擬問題で理解度をチェック。
第14回	和声的短音階と旋律的短音階の理解と演習	予習として、調号4個までの短音階を五線上と鍵盤で確かめておく。所要時間15分程度。模擬問題で理解度をチェック。
第15回	まとめ	あらかじめ模擬問題で理解度をチェック。所要時間50分程度。

科目名(クラス)	音楽教養基礎講座【楽典】I B	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	新井雅之	履修対象・条件	音楽教養専攻のみ履修可				
【授業の概要】		作曲する際はもとより、楽曲を歌ったり演奏したりする際にも必要になる音楽の基本的事項を知り、学んで行く。					
【授業の到達目標】		音楽大学の学生として有意義な生活を送るために不可欠な基本的知識の習得を目的とする。それはコンピューターを自由に操作するために、コンピューター言語の理解が必要なと同様である。					
【授業の「方法」と「形式」】		講義、質疑応答、演習を中心に進めて行く。必要に応じて説明用または演習用のプリントを配布。					
【履修時の「留意点」と「心得」】		音楽的内容をより理解するために歌ったりピアノを使用することが多い・遅刻、早退は原則として認めない。積極的な授業参加を望む。					
【成績評価の「方法」と「基準」】		学期末定期試験(80%)・演習時の理解到達度及び授業への参加度・積極的貢献度(20%)					
教科書	なし	著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献	なし	著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)					
第1回	リズム、拍子についての演習Ⅰ(音符と休符の長さ)。付点を含む様々な音価を正しく理解	学習したリズム、拍子を繰り返し書いて確かめる。					
第2回	リズム、拍子についての理解と演習Ⅱ(4/4、3/4、6/8その他の拍子)。譜例から拍子を判断できるようにする。	予習として、各拍子の概念を確認しておく。所要時間10分程度。様々な例で拍子を把握できるよう復習					
第3回	調性判定の演習Ⅰ(調号2つまで)。どのような根拠で調性ができるかを正しく理解。	予習として、調号2個までの調の音階の7つの固有音を確認しておく。所要時間10分程度。演習した例をピアノで弾き、歌い調性感を確認。					

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	調性判定Ⅱ(調号3、4コ)。どのような根拠で調性ができるかを正しく理解。	予習として、調号3個、4個の調の音階の7つの固有音を確認しておく。所要時間10分程度。演習した例をピアノで弾き、歌い調性感を確認。
第5回	調性判定Ⅲ(転調を含むもの)。どのような根拠で調性ができるかを正しく理解。	予習として、調性の違いによる音階に生じる変化を把握しておく。所要時間15分程度。演習した例をピアノで弾き、歌い調性感を確認。
第6回	ブルグミュラーの楽曲の中にある音程、和音、音階、調性判定の実際。実際の楽曲の中に楽典的要素がどのような音楽的意味をもつてつかわれているかを考察。	予習として、あらかじめ題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間15分程度。
第7回	ソナチネアルバムの中にある音程、和音、音階、調性判定の実際。実際の楽曲の中に楽典的要素がどのような音楽的意味をもつてつかわれているかを考察。	予習として、あらかじめ題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間15分程度。
第8回	コンコーネの中にある音程、和音、音階、調性判定の実際。実際の楽曲の中に楽典的要素がどのような音楽的意味をもつてつかわれているかを考察。	予習として、あらかじめ題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間15分程度。
第9回	ショパンのピアノ曲の中にある音程、和音、音階、調性判定の実際。実際の楽曲の中に楽典的要素がどのような音楽的意味をもつてつかわれているかを考察。	予習として、増5度と減5度の音程を鍵盤上の12種類の組み合わせで見つかり、完全5度との響きの違いを聴いて確かめておく。所要時間15分程度
第10回	各旋律の秘密Ⅰ(楽典的に分析、説明する)。旋律の骨格の分析と倚音、変化音の役割を理解する。	予習として、あらかじめ題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第11回	各旋律の秘密Ⅱ(楽典的に分析、説明する)。旋律の骨格の分析と倚音、変化音の役割を理解する。	予習として、あらかじめ題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第12回	各旋律の秘密Ⅲ(楽典的に分析、説明する)。旋律の骨格の分析と倚音、変化音の役割を理解する。	予習として、あらかじめ題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第13回	総合問題演習。過去問により個々のレベルの最終チェックを行う。	ミステイクした所を良く復習すること。
第14回	総合問題演習。過去問により個々のレベルの最終チェックを行う。	ミステイクした所を良く復習すること。
第15回	まとめ	ミステイクした所を良く復習すること。

科目名(クラス)	音楽教養基礎講座【楽典】ⅡA	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	新井雅之	履修対象・条件	音楽教養専攻のみ履修可				
【授業の概要】		作曲する際にもとより、楽曲を歌ったり演奏したりする際にも必要になる音楽の基本的事項を知り、さらに応用できるように学んで行く。					
【授業の到達目標】		楽典の和声の基礎知識を理解した上で、ここでは楽曲の構成を分析、考察する。すなわち2部形式、3部形式という最も基本的な形式を実際の楽曲に即して研究、理解することを目的としている。					
【授業の「方法」と「形式」】		講義、質疑応答、演習を中心に進めて行く。必要に応じて説明用または演習用のプリントを配布。					
【履修時の「留意点」と「心得」】		音楽的内容をより理解するために歌ったりピアノを使用することが多い・遅刻、早退は原則として認めない。積極的な授業参加を望む。					
【成績評価の「方法」と「基準」】		学期末レポート提出(80%)・質疑応答での発言内容(20%)					
教科書	なし	著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献	なし	著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	ブルグミュラーのピアノ小品をテキストにした 楽曲分析Ⅰ (和声分析、調判定を試みる)			予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間15分程度。			
第2回	ブルグミュラーのピアノ小品をテキストにした 楽曲分析Ⅰ(モチーフによる分析を試みる)			予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間15分程度。			
第3回	ブルグミュラーのピアノ小品をテキストにした 楽曲分析Ⅰ(形式の考察、及びそれが演奏にどう反映されるかを研究)			予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間15分程度。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	ブルグミュラーをテキストにした楽曲分析Ⅱ(和声分析、調判定を試みる調判定を試みる)	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間15分程度。
第5回	ブルグミュラーをテキストにした楽曲分析Ⅱ(モチーフによる分析を試みる)	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間15分程度。
第6回	ブルグミュラーをテキストにした楽曲分析Ⅱ(形式の考察、及びそれが演奏にどう反映されるかを研究)	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間15分程度。
第7回	ブルグミュラーをテキストにした楽曲分析Ⅲ(和声分析、調判定を試みる調判定を試みる)	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間15分程度。
第8回	ブルグミュラーをテキストにした楽曲分析Ⅲ(モチーフによる分析を試みる)	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間15分程度。
第9回	ブルグミュラーをテキストにした楽曲分析Ⅲ(和声分析、調判定を試みる調判定を試みる)	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間15分程度。
第10回	ギロックのピアノ小品をテキストにした楽曲分析Ⅰ(和声分析、調性判定、モチーフ分析を試みる)	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間15分程度。
第11回	ギロックのピアノ小品をテキストにした楽曲分析Ⅰ(形式の考察と演奏への反映を研究)	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間15分程度。
第12回	ギロックのピアノ小品をテキストにした楽曲分析Ⅱ(和声分析、調性判定、モチーフ分析を試みる)	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間15分程度。
第13回	ギロックのピアノ小品をテキストにした楽曲分析Ⅱ(形式の考察と演奏への反映を研究)	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間15分程度。
第14回	各自それぞれの自由曲を楽曲分析 演習	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間15分程度。
第15回	まとめ(小楽曲で具現される形式を振り返り再確認)	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時間15分程度。

科目名(クラス)	音楽教養基礎講座【楽典】ⅡB	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	新井雅之	履修対象・条件	音楽教養専攻のみ履修可				
【授業の概要】		作曲する際はもとより、楽曲を歌ったり演奏したりする際にも必要になる音楽の基本的事項を知り、さらに応用できるように学んで行く。					
【授業の到達目標】		楽曲と和声の基礎知識を理解した上で、ここでは楽曲の構成を分析、考察する。すなわちソナチネからソナタ形式、ロンド形式、ヴァリエーションなどの諸形式を実際の楽曲に即して研究、理解することを目的としている。					
【授業の「方法」と「形式」】		講義、質疑応答、演習を中心に進めて行く。必要に応じて説明用または演習用のプリントを配布。					
【履修時の「留意点」と「心得」】		音楽的内容をより理解するために歌ったりピアノを使用することが多い・遅刻、早退は原則として認めない。積極的な授業参加を望む。					
【成績評価の「方法」と「基準」】		学期末レポート提出(80%)・質疑応答での発言内容(20%)					
教科書	なし	著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献	なし	著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)					
第1回	ソナタ形式の概要及び解説(ソナタ形式が高度に完成された 三部形式であることを理解する)	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時20分程度。					
第2回	ソナタ形式の概要及び解説(第1主題、第2主題などをドラマの主人公、ヒロインなどにあてはめて、ソナタを1つのドラマとして考えてみる)	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時20分程度。					
第3回	ソナタ形式の概要及び解説(展開部からV音の保続再現部 へという劇的な流れを1つの必然として理解する)	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時20分程度。					

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	ソナチネ小品の楽曲分析(和声分析、調判定を試みる)	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時20分程度。
第5回	ソナチネ小品の楽曲分析(モチーフによる分析を試みる)	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時20分程度。
第6回	ソナチネ小品の楽曲分析(主題的展開の考察とその演奏への反映を研究)	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時20分程度。
第7回	ハイドンのピアノソナタの楽曲分析(和声分析、調判定を試みる)	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時20分程度。
第8回	ハイドンのピアノソナタの楽曲分析(モチーフによる分析を試みる)	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時20分程度。
第9回	ハイドンのピアノソナタの楽曲分析(主題的展開の考察とその演奏への反映を研究)	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時20分程度。
第10回	ベートーヴェンのピアノソナタによる楽曲分析(モチーフによる分析を試みる)	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時20分程度。
第11回	ベートーヴェンのピアノソナタによる楽曲分析(主題的展開の考察とその演奏への反映を研究)	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時20分程度。
第12回	ベートーヴェンのピアノソナタによる楽曲分析(主題的展開の考察とその演奏への反映を研究)	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時20分程度。
第13回	ロンド形式の楽曲の分析、研究、考察	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時20分程度。
第14回	ヴァリエーションの分析、研究、考察	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時20分程度。
第15回	まとめ(諸形式を確認し概要を再びまとめる)	予習として、題材となる楽曲を繰り返し弾いておく。所要時20分程度。

科目名(クラス)	音楽教養基礎講座【ソルフェージュ】I A	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	新井雅之	履修対象・条件	音楽教養専攻のみ履修可				
【授業の概要】		最終的には音楽に必要な専門技術を体得するために、まずはそれを補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「歌う」「読む」「書く」を迅速、かつ正確にできるようにするため初歩的な訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつける力を養うための基礎作りを行う。					
【授業の到達目標】		表現できることを確かめるべく歌い、いかに歌うかを楽譜から読み取り、楽譜を音楽の重要な伝達手段として音符を書き記す。これらのことを、必要最低限のレベルと捉え、さらに高度な音楽表現の助けとなるレベルを目指す。					
【授業の「方法」と「形式」】		音楽の基本は歌うことである。大きな声で身体全体を使って歌うことから始める。簡単な聴音等も行う。					
【履修時の「留意点」と「心得」】		積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。					
【成績評価の「方法」と「基準」】		実技試験を全面的に評価。授業で扱ったものの中から課題を出題。					
教科書	コールユーブンゲン I	著者等	F.ヴェルナー	出版社	指定なし (簡略版は不可)		
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)					
第1回	コールユーブンゲンNo.1～4の実習	音階の成り立ちと、2度音程の確認、2拍子の譜読みをテキストで十分予習。所要時間30分程度。学習した旋律は繰り返し大きな声で歌い復習。					
第2回	コールユーブンゲンNo.5～7の実習	4拍子と2拍子のアクセントの違いに留意し、予め読譜して予習。所要時間30分程度。学習した旋律は繰り返し大きな声で歌い復習。					
第3回	コールユーブンゲンNo.8～9の実習	休止を含むリズムによる旋律の間の取り方に留意し、読譜して予習。所要時間30分程度。学習した旋律は大きな声で歌い復習。					

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	コールユーブンゲンNo.10～13の実習	2つの拍が1音符となるリズムによる旋律に習熟すべく、読譜して予習。所要時間30分程度。学習した旋律は繰り返し大きな声で歌い復習。
第5回	コールユーブンゲンNo.14～15の実習	シンコペーションのリズムによる旋律に習熟すべく、読譜して予習。所要時間30分程度。学習した旋律は繰り返し大きな声で歌い復習。
第6回	コールユーブンゲンNo.16～17の実習	3拍子のリズムによる旋律に習熟すべく、読譜して予習。所要時間30分程度。学習した旋律は繰り返し大きな声で歌う。
第7回	コールユーブンゲンNo.18～19の実習	3度音程に留意し、読譜して予習。所要時間30分程度。学習した旋律は繰り返し大きな声で歌い復習。
第8回	コールユーブンゲンNo.20～22の実習	付点音符、タイ、シンコペーションを含むリズムによる旋律に習熟すべく、読譜して予習。所要時間30分程度。学習した旋律は繰り返し大きな声で歌う。
第9回	コールユーブンゲンNo.23の実習と簡単な聴音	ここまでをまとめたの習得。あらかじめ今まで学習した旋律を振り返って歌ってみる。所要40分程度。書き取りはハ長調4分の4拍子、8分の6拍子、4分の3拍子、三和音。聴音で学習した旋律も複数回大きな声で歌い復習。
第10回	コールユーブンゲンNo.24～25の実習	4度音程を正しくとれるように、読譜して予習。所要時間30分程度。学習した旋律は繰り返し大きな声で歌い復習。
第11回	コールユーブンゲンNo.26の実習	単位音符8分音符、4分音符の扱いに留意し、これに習熟すべく読譜して予習。所要時間30分程度。学習した旋律は繰り返し大きな声で歌い復習。
第12回	コールユーブンゲンNo.27の実習と簡単な聴音。聴音はハ長調4分の4拍子、8分の6拍子、4分の3拍子、三和音	さらに小さい付点音符を理解し習熟すべく、読譜して予習。所要時間30分程度。学習した旋律は、聴音の旋律も含め複数回大きな声で歌い復習。
第13回	コールユーブンゲンNo.28の実習	8分の3拍子と8分の6拍子の違いに留意し、読譜して予習。所要時間30分程度。学習した旋律は繰り返し大きな声で歌い復習。
第14回	コールユーブンゲンNo.29の実習と簡単な	8分の6拍子と4分の3拍子のアクセントの違いに留意し、読譜して予習。所要時間30分程度。学習した旋律は繰り返し大きな声で歌い復習。
第15回	まとめ	ここまでの習得を徹底すべく、予め今までの旋律を繰り返し歌い予習。所要時間1時間程度。

科目名(クラス)	音楽教養基礎講座【ソルフェージュ】IB	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	新井雅之	履修対象・条件	音楽教養専攻のみ履修可				
【授業の概要】		最終的には音楽に必要な専門技術を体得するために、まずはそれを補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「歌う」「読む」「書く」を迅速、かつ正確にできるようにするため初歩的な訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつける力を養うための基礎作りを行う。					
【授業の到達目標】		表現できることを確かめるべく歌い、いかに歌うかを楽譜から読み取り、楽譜を音楽の重要な伝達手段として音符を書き記す。これらのことを、必要最低限のレベルと捉え、さらに高度な音楽表現の助けとなるレベルを目指す。					
【授業の「方法」と「形式」】		IAの継続。基本は歌うことである。大きな声で身体全体を使って歌うことを基盤とする。簡単な聴音、リズム打ち等も行う。					
【履修時の「留意点」と「心得」】		積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。					
【成績評価の「方法」と「基準」】		実技試験100%評価。授業で扱ったものの中から課題を出題。					
教科書	コールユーブンゲン I	著者等	F.ヴェルナー	出版社	指定なし (簡略版は不可)		
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)					
第1回	コールユーブンゲンNo.30～31の実習	5度音程を正しく取れるよう、テキストを使って予習。所要時間30分程度。学習した旋律は複数回大きな声で歌い復習。					
第2回	コールユーブンゲンNo.32の実習と簡単な聴音及びリズム打ち。聴音は C dur 4/4、6/8、3/4、三和音。リズム打ちは4/4、3/4、6/8。	5度音程の転回の理解と体得を目標にテキストを使って予習。所要時間30分程度。学習した旋律は複数回大きな声で歌い復習。					
第3回	コールユーブンゲンNo.33の実習	さらに小さいシンクペーションの理解と体得を目標にテキストを使って予習。所要時間30分程度。学習した旋律は複数回大きな声で歌い復習。					

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	コールユーブンゲンNo.No.34～35の実習。	アウフタクトの理解と体得を目標にテキストを使って予習。所要時間30分程度。学習した旋律は複数回大きな声で歌い復習。
第5回	コールユーブンゲンNo.36の実習。	6度音程を正しく取れるようにテキストを使って予習。所要時間30分程度。学習した旋律は複数回大きな声で歌い復習。
第6回	コールユーブンゲンNo.37の実習と簡単な聴音及びリズム打ち。聴音は Cdur 4/4、6/8、3/4、三和音。リズム打ちは4/4、3/4、6/8。	3連符にテキストを使って予習。所要時間30分程度。学習した旋律は複数回大きな声で歌い復習。
第7回	コールユーブンゲンNo.38～39の実習。	6度音程の転回と理解の理解と体得を目標にテキストを使って予習。所要時間30分程度。学習した旋律は複数回大きな声で歌い復習。
第8回	コールユーブンゲンNo.40の実習と聴音及びリズム打ち。聴音は Cdur 4/4、6/8、3/4、三和音。リズム打ちは4/4、3/4、6/8。	単純拍子と複合拍子の違いの理解と体得を目標にテキストを使って予習。所要時間30分程度。学習した旋律は複数回大きな声で歌い復習。
第9回	コールユーブンゲンNo.41の実習。	最小付点音符の理解と体得を目標にテキストを使って予習。所要時間30分程度。学習した旋律は複数回大きな声で歌い復習。
第10回	コールユーブンゲンNo.42～43の実習。	7度音程を正しく取れるよう、また混用された音符の体得を目標にテキストを使って予習。所要時間は30分程度。学習した旋律は複数回大きな声で歌い復習。
第11回	コールユーブンゲンNo.44～45の実習。	7度の転回音程と、5度からオクターブまでの音程の体得を目標にテキストを使って予習。所要時間は30分程度。学習した旋律は複数回大きな声で歌い復習。
第12回	歌唱及び簡単な聴音及びリズム打ち。聴音はCdur 4/4、6/8、3/4、三和音。リズム打ちは4/4、3/4、6/8。	各種音程を正しく取れるよう、過去の学習した旋律で再確認しつつ学習。所要時間40分程度。学習した旋律は複数回大きな声で歌い復習。
第13回	歌唱及び簡単な聴音及びリズム打ち。三和音。リズム打ちは4/4、3/4、6/8。	各種音程を正しく取れるよう、過去の学習した旋律で再確認しつつ学習。所要時間40分程度。学習した旋律は複数回大きな声で歌い復習。
第14回	歌唱及び簡単な聴音及びリズム打ち。三和音。リズム打ちは4/4、3/4、6/8。	各種音程を正しく取れるよう、過去の学習した旋律で再確認しつつ学習。所要時間40分程度。学習した旋律は複数回大きな声で歌い復習。
第15回	まとめ	ここまでの習得を徹底すべく、予め今までの旋律を繰り返し歌い予習。所要時間1時間程度。

科目名(クラス)	音楽教養基礎講座【ソルフェージュ】ⅡA	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	新井雅之	履修対象・条件	音楽教養専攻のみ履修可				
【授業の概要】							
ソルフェージュⅠを踏まえ、音楽に必要な専門技術を体得するために、まずはそれを補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「歌う」「読む」「書く」を迅速、かつ正確にできるようにするため訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつける力を養うため基礎作りを、段階を追って受講者の能力に合わせながら行う。							
【授業の到達目標】							
表現できることを確かめるべく歌い、いかに歌うかを楽譜から読み取り、楽譜を音楽の重要な伝達手段として音符を書き記す。これらのことを、必要最低限のレベルと捉え、さらに高度な音楽表現の助けとなるレベルを目指す。							
【授業の「方法」と「形式】							
ソルフェージュⅡAで体得的ななかったことをコールユーブンゲンで復習しながら継続。実技中心。簡単な聴音、リズム打ち等も行う。							
【履修時の「留意点」と「心得】							
積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。							
【成績評価の「方法」と「基準】							
実技試験を100%評価。授業で扱ったものの中から課題を出題。							
教科書	コールユーブンゲンⅠ	著者等	F.ヴェルナー	出版社	指定なし (簡略版は不可)		
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	コールユーブンゲンNo.19の実習。(ⅠAの復習)			2、3度音程と拍子感を確かなものにすべく、No.19で予習。所要時間30分程度。学習した旋律は複数回大きな声で歌いふくしゅう。			
第2回	コールユーブンゲンNo.23の実習。(ⅠAの復習)			長音価、付点、シンコペーションを確かなものにすべく、No.23で予習。所要時間30分程度。学習した旋律は複数回大きな声で歌う。			
第3回	コールユーブンゲンNo.25の実習。(ⅠAの復習)			4度音程と拍子感を確かなものにすべくNo.25で予習。学習した旋律は複数回大きな声で歌い復習。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	コールユーブンゲンNo.26の実習。(IAの復習)	一拍を分割する音価を確かなものにするべく、No.26で予習。学習した旋律は複数回大きな声で歌い復習。
第5回	コールユーブンゲンNo.27の実習。(IAの復習)	さらに小さい付点音符を確かなものにするべく、No.27で予習。学習した旋律は複数回大きな声で歌い復習。
第6回	コールユーブンゲンNo.28の実習。(IAの実習)	3/8と6/8の歌い分けを確かなものにするべく、No.28で予習。学習した旋律は複数回大きな声で歌い復習。
第7回	コールユーブンゲンNo.29の実習(IAの復習)と、簡単な聴音。聴音はCdur4/4、6/8、3/4、三和音。	6/8と3/4のアクセントの違いを確かなものにするべく、No.29で予習。学習した旋律は複数回大きな声で歌い復習。
第8回	コールユーブンゲンNo.31の実習。(IAの復習)	5度音程を確かなものにするべく、No.31で予習。学習した旋律は複数回大きな声で歌い復習。
第9回	コールユーブンゲンNo.33の実習。(IAの復習)	さらに小さいシンコペーションを確かなものにするべく、No.33で予習。学習した旋律は複数回大きな声で歌い復習。
第10回	コールユーブンゲンNo.34～35の実習(IAの復習)と簡単な聴音。聴音はCdur4/4、6/8、3/4、三和音。	アウフタクトを確かなものにするべく、No.34、35で予習。学習した旋律及び聴音で書き取った旋律は複数回大きな声で歌い復習。
第11回	コールユーブンゲンNo.37の実習(IAの復習)と簡単な聴音。聴音はCdur4/4、6/8、3/4、三和音。	3連符を確かなものにするべく、No.37で予習。学習した旋律及び聴音で書き取った旋律は複数回大きな声で歌い復習。
第12回	コールユーブンゲンNo.39の実習。(IAの復習)	16分音符のある旋律を確かなものにするべく、No.39で予習。学習した旋律は複数回大きな声で歌い復習。
第13回	コールユーブンゲンNo.40の実習(IAの復習)と簡単な聴音。聴音はCdur4/4、6/8、3/4、三和音。リズム打ちは4/4、3/4、6/8。	単純拍子と複合拍子を確かなものにするべく、No.40で予習。学習した旋律及び聴音で書き取った旋律は複数回大きな声で歌い復習。
第14回	コールユーブンゲンNo.41の実習。(IAの復習)	最小付点音符を確かなものにするべくNo.41で予習。学習した旋律は複数回大きな声で歌い復習。
第15回	まとめ	ここまでの習得を徹底すべく、予め今までの旋律を繰り返し歌い予習。所要時間1時間程度。

科目名(クラス)	音楽教養基礎講座【ソルフェージュ】ⅡB	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	新井雅之	履修対象・条件	音楽教養専攻のみ履修可				
【授業の概要】							
ソルフェージュⅠを踏まえ、音楽に必要な専門技術を体得するために、まずはそれを補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「歌う」「読む」「書く」を迅速、かつ正確にできるようにするため訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつける力を養うため基礎作りを、段階を追って受講者の能力に合わせながら行う。							
【授業の到達目標】							
表現できることを確かめるべく歌い、いかに歌うかを楽譜から読み取り、楽譜を音楽の重要な伝達手段として音符を書き記す。これらのことを、必要最低限のレベルと捉え、さらに高度な音楽表現の助けとなるレベルを目指す。							
【授業の「方法」と「形式」】							
ソルフェージュⅡAで体得できなかったことを復習しながらコールユーブンゲンを継続。実技中心。簡単な聴音、リズム打ち等も行う。							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
実技試験を100%評価。授業で扱ったものの中から課題を出題。							
教科書	コールユーブンゲンⅠ	著者等	F.ヴェルナー	出版社	指定なし (簡略版は不可)		
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	コールユーブンゲンNo.43の実習(ⅠAの復習)			混用された音符に習熟すべく、テキストNo.43で予習。所要時間30分程度。学習した旋律は大きな声で歌い復習。			
第2回	コールユーブンゲンNo.45の実習(ⅠAの復習)			5度からオクターブまでの音程に習熟すべく、テキストNo.45で予習。所要時間30分程度。学習した旋律は大きな声で歌い復習。			
第3回	コールユーブンゲンNo.46の実習と簡単な聴音とリズム打ち			CdurとGdurの比較を、No.46で予習所要時間30分程度。学習した旋律は声を出して歌い、もう一度書き出して復習。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さで確かめる。苦手な箇所は部分練習。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	コールユーブンゲンNo.48の実習。	Gdurに慣れるべく、No.48で予習。所要時間30分程度。学習した旋律は複数回大きな声で歌い復習。
第5回	コールユーブンゲンNo.49の実習と簡単な聴音とリズム打ち。聴音はCdur4/4、6/8、3/4、三和音。リズム打ちは4/4、3/4、6/8。	Ddurに慣れるべく、No.49で予習。所要時間30分程度。かめる。苦手な箇所は部分練習。学習した旋律は声を出して歌い、もう一度書き出して復習。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さで確かめる。
第6回	コールユーブンゲンNo.50の実習と簡単な聴音とリズム打ち。聴音はCdur4/4、6/8、3/4、三和音。リズム打ちは4/4、3/4、6/8。	Adurに慣れるべく、No.50で予習。所要時間30分程度。学習した旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さで確かめる。
第7回	コールユーブンゲンNo.51の実習と簡単な聴音とリズム打ち。聴音はCdur4/4、6/8、3/4、三和音。リズム打ちは4/4、3/4、6/8。	Edurに慣れるべく、No.51で予習。所要時間30分程度。学習した旋律は声を出して歌い、もう一度書き出して復習。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さで確かめる。
第8回	コールユーブンゲンNo.52の実習と簡単な聴音とリズム打ち。聴音はCdur4/4、6/8、3/4、三和音。リズム打ちは4/4、3/4、6/8。	Hdurに慣れるべく、No.51で予習。所要時間30分程度。学習した旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さで確かめる。
第9回	コールユーブンゲンNo.53～54の実習と簡単な聴音とリズム打ち。聴音はCdur4/4、6/8、3/4、三和音。リズム打ちは4/4、3/4、6/8。	Fis dur Ges durに慣れるべく、No.53、54で予習。所要時間30分程度。学習した旋律は声を出して歌い、もう一度書き出して復習。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さで確かめる。
第10回	コールユーブンゲンNo.55の実習と簡単な聴音とリズム打ち。聴音はCdur4/4、6/8、3/4、三和音。リズム打ちは4/4、3/4、6/8。	Des durに慣れるべく、No.55で予習。所要時間30分程度。学習した旋律は声を出して歌い、もう一度書き出して復習。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さで確かめる。
第11回	コールユーブンゲンNo.56の実習と簡単な聴音とリズム打ち。聴音はCdur4/4、6/8、3/4、三和音。リズム打ちは4/4、3/4、6/8。	As durに慣れるべく、No.56で予習。所要時間30分程度。学習した旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さで確かめる。
第12回	コールユーブンゲンNo.57の実習と簡単な聴音とリズム打ち。聴音はCdur4/4、6/8、3/4、三和音。リズム打ちは4/4、3/4、6/8。	Es durに慣れるべく、No.57で予習。所要時間30分程度。学習した旋律は声を出して歌い、もう一度書き出して復習。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さで確かめる。
第13回	コールユーブンゲンNo.58の実習と簡単な聴音とリズム打ち。聴音はCdur4/4、6/8、3/4、三和音。リズム打ちは4/4、3/4、6/8。	Bdurに慣れるべく、No.57で予習。所要時間30分程度。学習した旋律は声を出して歌い、もう一度書き出して復習。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さで確かめる。
第14回	コールユーブンゲンNo.59の実習と簡単な聴音とリズム打ち。聴音はCdur4/4、6/8、3/4、三和音。リズム打ちは4/4、3/4、6/8。	Fdurに慣れるべく、No.57で予習。所要時間30分程度。学習した旋律は声を出して歌い、もう一度書き出して復習。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さで確かめる。
第15回	まとめ	ここまでの習得を徹底すべく、予め今までの旋律を繰り返し歌い予習。所要時間1時間程度。

科目名(クラス)	楽曲の楽しみ方 I	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	井上 淳司	履修対象・条件					
【授業の概要】							
音楽鑑賞を主として、時代、社会文化等を知り、楽曲解説、逸話等を織り交ぜ、楽曲の聴きどころ、聴かせどころを知り、音楽鑑賞能力を高める。							
【授業の到達目標】							
音楽全般の理解							
【授業の「方法」と「形式」】							
音源や映像、生演奏等を用いて、楽曲の成り立ちやそれに関わるエピソード、時代背景などを解説する。							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
楽しい授業になるよう協力すること。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
レポート提出。							
教科書	なし	著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	音楽の成り立ち1						
第2回	音楽の成り立ち2						
第3回	音楽の成り立ち3						

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	音楽の成り立ち4	
第5回	音楽の成り立ち5	
第6回	ピアノ曲の楽しみ方1	講義で取り上げた楽曲を通して聴く
第7回	ピアノ曲の楽しみ方2	同上
第8回	ピアノ曲の楽しみ方3	同上
第9回	ピアノ曲の楽しみ方4	同上
第10回	ピアノ曲の楽しみ方5	同上
第11回	室内楽曲の楽しみ方1	同上
第12回	室内楽曲の楽しみ方2	同上
第13回	室内楽曲の楽しみ方3	同上
第14回	室内楽曲の楽しみ方4	同上
第15回	室内楽曲の楽しみ方5	同上

科目名(クラス)	作曲家の人生と作品 I	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	上山 典子	履修対象・条件					
【授業の概要】							
本授業では、バロック時代から古典派のいわゆる「大作曲家」と呼ばれる人物を取り上げます。そして作曲家の伝記的事項、当時の社会背景、音楽文化などを振り返りながら、生み出された作品との関係を考察していきます。							
【授業の到達目標】							
作曲家が生きた時代や作品が生み出された音楽史的背景を知ること、音楽の演奏行為をより豊かなものとし、聴衆としての聴取体験をより充実したものを目指す。							
【授業の「方法」と「形式」】							
担当者による講義形式							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
時間の都合上、授業内ですべての作品を聴くことは出来ないため、各自でなるべく多くの作品を聴くよう心がけてください。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
以下をそれぞれ評価して、合計点を算出します。							
1) 授業で扱う作曲家の作品の音源を入手しての予習・復習状況(20%)							
2) 授業の出席と積極的な参加(50%)							
3) 最終授業日に提出するレポート(30%)							
教科書	プリントを配布します	著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献	授業内で適宜紹介します	著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	伝記研究と「大作曲家」の誕生について			次回授業で取り上げる作曲家の作品を聴く			
第2回	J. S. バッハ ①			授業で取り上げた作曲家の作品を聴く			
第3回	J. S. バッハ ②			授業で取り上げた作曲家の作品を聴く			

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	J. S. バッハ ③	授業で取り上げた作曲家の作品を聴く
第5回	バロック時代のその他の作曲家 ①	授業で取り上げた作曲家の作品を聴く
第6回	バロック時代のその他の作曲家 ②	授業で取り上げた作曲家の作品を聴く
第7回	ハイドン ①	授業で取り上げた作曲家の作品を聴く
第8回	ハイドン ②	授業で取り上げた作曲家の作品を聴く
第9回	モーツァルト ①	授業で取り上げた作曲家の作品を聴く
第10回	モーツァルト ②	授業で取り上げた作曲家の作品を聴く
第11回	モーツァルト ③	授業で取り上げた作曲家の作品を聴く
第12回	ベートーヴェン ①	授業で取り上げた作曲家の作品を聴く
第13回	ベートーヴェン ②	授業で取り上げた作曲家の作品を聴く
第14回	ベートーヴェン ③	授業で取り上げた作曲家の作品を聴く
第15回	ベートーヴェン ④	前期に取り上げた作曲家の作品を聴く

科目名(クラス)	オーケストラ I・II A(大学と共通)	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1・2
担当教員	上野 正博	履修対象・条件	I・II 選択履修。				
【授業の概要】							
合奏を通し、オーケストラ奏者としてアンサンブル能力を鍛え、向上させ、公開演奏会の場で成果を披露し、オーケストラ合奏の難しさの中から、音楽の素晴らしさを共有する。							
【授業の到達目標】							
専門教育を受ける音大生として、アマチュアオケとは次元の違う合奏能力を会得する。すなわち、よく聴き、よく見て、よく数える、という合奏・アンサンブルの3大原則を、特別なことではなく、当たり前的事として身につける。							
【授業の「方法」と「形式」】							
オーケストラのリハーサル、及び演奏会							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
<ul style="list-style-type: none"> ・リハーサルの開始時間厳守 ・合奏前の、事前準備(あらかじめさらしておく。また、曲についての予習) ・演奏する作品のスコア持参 ・指揮者や楽器の指導教官への質問大歓迎 							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
出席率、演奏姿勢、演奏技術、事前準備度等を総合的に評価							
教科書		著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	東邦祭りリハーサル:シベリウス「フィンランディア」、「カレリア」組曲、ヴァイオリン協奏曲			スコアに目を通しておく			
第2回	同上			同上			
第3回	未定(オーケストラ運営委員会にて、進度、選曲バランス、合奏能力等を協議の上決定)			同上			

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	同上	同上
第5回	同上	同上
第6回	同上	同上
第7回	同上	同上
第8回	同上	同上
第9回	同上	同上
第10回	同上	同上
第11回	同上	同上
第12回	同上	同上
第13回	同上	同上
第14回	同上	同上
第15回	まとめ	

科目名(クラス)	オーケストラ I・II B(大学と共通)	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1・2
担当教員	上野 正博	履修対象・条件	I・II 選択履修。				
【授業の概要】							
前期の合奏、演奏経験を生かし、より高度なアンサンブル能力、音楽性の獲得を目指す。その成果を公開演奏会で披露。							
【授業の到達目標】							
前期に習得した合奏能力を、より一層高め、維持する習慣の獲得。							
【授業の「方法」と「形式」】							
オーケストラのリハーサル、及び演奏会							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
<ul style="list-style-type: none"> ・リハーサルの開始時間厳守 ・合奏前の、事前準備(あらかじめさらしておく。また、曲についての予習) ・演奏する作品のスコア持参 ・指揮者や楽器の指導教官への質問大歓迎 							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
出席率、演奏姿勢、演奏能力、準備度等を総合的に評価							
教科書		著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	定期演奏会、トライアルコンサート、オーケストラフェスティバル等への楽曲を練習			スコアに目を通しておく			
第2回	同上			同上			
第3回	同上			同上			

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	同上	同上
第5回	同上	同上
第6回	同上	同上
第7回	同上	同上
第8回	同上	同上
第9回	同上	同上
第10回	同上	同上
第11回	同上	同上
第12回	同上	同上
第13回	同上	同上
第14回	同上	同上
第15回	まとめ	

科目名(クラス)	ウインドオーケストラⅠ・ⅡA(大学と共通)	開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1・2
担当教員	福田 洋介	履修対象・条件	履修にあたっては相応の演奏技量が必要				
【授業の概要】							
<p>この授業では、吹奏楽を通じて、主に以下のことを学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な合奏能力の向上 ・個人・セクション・合奏における表現能力の向上 ・多岐にわたるコンセプトを持つ吹奏楽作品のアナリゼや演奏方法の研究 ・公演発表に向けたリハーサル能力の向上 							
【授業の到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・より優れた表現力、よく優れたアンサンブル能力が身につく ・吹奏楽という多様な楽器編成による合奏と、多様なコンセプトの楽曲に取り組むことで、音楽を演奏する際に多角的な視野と判断能力が身につく 							
【授業の「方法」と「形式」】							
合奏演習、講義を中心としますが、ディスカッションの機会も随時取り入れます。							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
<ul style="list-style-type: none"> ・各自に与えられたパート譜を事前にしっかりと練習して、授業に臨みましょう。 ・セクション(パート)の演奏の資質を上げるために、トップ奏者のリーダーシップと、柔軟な協力体制も学びましょう。 ・音楽の多角的なとらえ方を学ぶために、「ひとつだけの答えではない」柔軟な発想を持つようにしましょう。 							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
演奏に取り組む姿勢、積極的な授業へ取り組みを総合的に評価します。							
教科書	その都度準備します	著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)					
第1回	東邦祭オープニングコンサートのための楽曲練習	パート譜の個人練習、セクション練習					
第2回	〃	〃					
第3回	〃	〃					

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	音楽鑑賞教室のための楽曲練習	パート譜の個人練習、セクション練習
第5回	〃	〃
第6回	〃	〃
第7回	〃	〃
第8回	〃	〃
第9回	作曲専攻作品の試奏	パート譜の個人練習、セクション練習
第10回	〃	〃
第11回	指導法ワークショップ 初見能力強化 その他	〃
第12回	〃	〃
第13回	〃	〃
第14回	〃	〃
第15回	まとめ	

科目名(クラス)	ウインドオーケストラⅠ・ⅡB(大学と共通)	開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1・2
担当教員	福田 洋介	履修対象・条件	履修にあたっては相応の演奏技量が必要				
【授業の概要】							
<p>この授業では、吹奏楽を通じて、主に以下のことを学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な合奏能力の向上 ・個人・セクション・合奏における表現能力の向上 ・多岐にわたるコンセプトを持つ吹奏楽作品のアナリゼや演奏方法の研究 ・公演発表に向けたリハーサル能力の向上 							
【授業の到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・より優れた表現力、よく優れたアンサンブル能力が身につく ・吹奏楽という多様な楽器編成による合奏と、多様なコンセプトの楽曲に取り組むことで、音楽を演奏する際に多角的な視野と判断能力が身につく 							
【授業の「方法」と「形式」】							
合奏演習、講義を中心としますが、ディスカッションの機会も随時取り入れます。							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
<ul style="list-style-type: none"> ・各自に与えられたパート譜を事前にしっかりと練習して、授業に臨みましょう。 ・セクション(パート)の演奏の資質を上げるために、トップ奏者のリーダーシップと、柔軟な協力体制も学びましょう。 ・音楽の多角的なとらえ方を学ぶために、「ひとつだけの答えではない」柔軟な発想を持つようにしましょう。 							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
演奏に取り組む姿勢、積極的な授業へ取り組みを総合的に評価します。							
教科書	その都度準備します	著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)					
第1回	定期演奏会のための楽曲練習	パート譜の個人練習、セクション練習					
第2回	〃	〃					
第3回	〃	〃					

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	〃	〃
第5回	〃	〃
第6回	〃	〃
第7回	〃	〃
第8回	〃	〃
第9回	〃	〃
第10回	レパートリー研究 初見能力強化 その他	〃
第11回	〃	〃
第12回	TOHOコンサートのための楽曲練習	〃
第13回	〃	〃
第14回	〃	〃
第15回	まとめ	

科目名(クラス)	伴奏法		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	小林 律子	履修対象・条件	ピアノコース・ピアノスナーコースは必修					
【授業の概要】		<p>様々な独奏楽器や声楽と共に音楽を創り上げていく伴奏という分野は、ピアノにおいて大変重要な側面であり、また実に魅力的なものである。</p> <p>本講義は受講生による演奏を中心に行う。各講義、課題となる楽曲を実際に演奏することにより、伴奏における必要なポイントを把握し、技術を身につける。また、独奏者と合わせるという経験を通して、声・およびそれぞれの楽器の演奏上の特徴を知り、理解する。また、伴奏において実践的なスキルとなる移調奏についても少し触れることとする。</p>						
【授業の到達目標】		<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏における必要な技術と感覚を身につける。 ・“聴く”意識、また音色に対する意識を持つ。 						
【授業の「方法」と「形式」】		<ul style="list-style-type: none"> ・演習形式。 ・実際に演奏することにより学び、理解する分野であるので、受講生全員に可能な限り多くの演奏機会を与える。 						
【履修時の「留意点」と「心得」】		<ul style="list-style-type: none"> ・受講者は受講マナーを守り、授業に積極的に取り組むこと。 ・欠席、遅刻・早退をしないこと。順序立てて講義を進めるので欠席すると内容の理解が難しくなる為。 ・受講者全員がピアノ演奏および演習を行う。受講に関しては課題への十分な準備・練習が不可欠である。演奏・学術両面からの予習・復習を心がけて臨むこと。 						
【成績評価の「方法」と「基準」】		<ul style="list-style-type: none"> ・学期末に実技試験を行う。 ・実技試験の評価における配分は40%とする。 ・予習・復習等、受講する上で十分な準備ができているか。 ・平素の授業における“学ぶ姿勢”を評価の重要なポイントとする。配分は60%とする。 						
教科書	使用しない	著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献	授業中に資料を配布する	著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)						
第1回	伴奏において必要なこと ・伴奏に対する概念、伴奏の役目について考える ・心得るべきこと	予習:シラバスを読んで各回のテーマを押さえておく 復習:興味を持ったテーマについて調べる						
第2回	合わせるまでの準備 ・行うべきこと一何をどの様な順序で? ・読譜力について	予習:資料を予見しておく 復習:資料を再度見直し、ポイントを整理しておく						
第3回	管楽器の伴奏① ・実践に入る為の準備 ・課題曲の試演 ・演奏に対するコメントとアドバイス	予習:楽曲の概要について調べる、演奏する受講者は十分な準備をする 復習:課題の楽曲に対する理解と注意すべきポイントの把握						

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	管楽器の伴奏② ・独奏者と合わせる	予習:演奏する受講者は十分な準備をする 復習:管楽器に対する知識、演奏上のポイントを整理する
第5回	弦楽器の伴奏① ・実践に入る為の準備 ・課題曲の試演 ・演奏に対するコメントとアドバイス	予習:楽曲の概要について調べる、演奏する受講者は十分な準備をする 復習:課題の楽曲に対する理解と注意すべきポイントの把握
第6回	弦楽器の伴奏② ・独奏者と合わせる	予習:演奏する受講者は十分な準備をする 復習:弦楽器に対する知識、演奏上のポイントを整理する
第7回	声楽の伴奏① ・実践に入る為の準備 ・課題曲の試演 ・演奏に対するコメントとアドバイス	予習:楽曲の概要について調べる、演奏する受講者は十分な準備をする 復習:課題の楽曲に対する理解と注意すべきポイントの把握
第8回	声楽の伴奏② ・独唱者と合わせる	予習:演奏する受講者は十分な準備をする 復習:声に対する知識、演奏上のポイントを整理する
第9回	移調奏 ・移調奏について、その重要性和実践の為の方法 ・調性感覚を身につける	予習:資料の予見、調性のシステムを見直しておく 復習:課題の実践、理論面のポイントを整理する
第10回	声楽の伴奏③ ・歌詞に着目する。歌詞と伴奏の密接な関係を理解する	予習:歌詞について概要を調べる 復習:文学・演劇等、異なる分野への理解ができているか
第11回	声楽の伴奏④ ・独唱者と合わせる	予習:演奏する受講者は十分な準備をする 復習:楽曲に対する幅広い知識、演奏上のポイントを整理する
第12回	管楽器の伴奏③ ・独奏者と合わせる ・音色、音質についての意識	予習:楽曲の概要について調べる、演奏する受講者は十分な準備をする 復習:課題の楽曲に対する理解と注意すべきポイントの把握
第13回	弦楽器の伴奏③ ・独奏者と合わせる ・音色、音質についての意識	予習:演奏する受講者は十分な準備をする 復習:弦楽器に対する知識、演奏上のポイントを整理する
第14回	・学期末試験に向けて:課題曲の選択と準備	受講者各自の復習と練習
第15回	まとめ	予習:各回のテーマを振り返る 復習:伴奏について、各自の体験を通し理解したこと、実感したことを総括する

科目名(クラス)	ピアノ指導法1		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	國谷 尊之	履修対象・条件	ピアノ指導者コースは必修					
【授業の概要】								
<p>ピアノ指導者になるために必要な知識を得るとともに、それを実際にピアノ指導の現場で生かすことのできる指導手法を学ぶ。 教材研究の方法、ピアノレッスンにおけるさまざまな指導手法、生徒とのコミュニケーション、練習方法の提示など、ピアノ指導に必要とされるさまざまな要素を幅広く取り扱う。</p>								
【授業の到達目標】								
<p>ピアノ指導に用いる教材に対する研究手法と、ピアノレッスンにおけるさまざまな指導手法について理解できる。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】								
<p>講義形式のほか、ディスカッション、模擬レッスン、レッスン実習など、様々な形式で行う。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<p>ピアノ指導者コースのみが履修できる科目である。一人一人が将来ピアノ指導者になるという自覚のもとに積極的に発言、行動し、授業を能動的に作り上げる意識を持つことが求められる。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<p>学期末レポート(50%)、授業への取り組み姿勢、提出物(50%)で評価する。</p>								
教科書	必要に応じて資料を配布する	著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	<ul style="list-style-type: none"> 講義概要説明 ピアノ指導者を目指すために 			予習: シラバスに目を通し理解につとめる。 復習: 講義の内容をまとめておく。				
第2回	教材研究の手法① <ul style="list-style-type: none"> ピアノ指導教材の研究手法について学ぶ 音楽の三要素に基づく分析 			予習: 楽典「音階」を確認しておく。 復習: 題材曲を演奏し、研究内容をより理解、定着させる。				
第3回	教材研究の手法② <ul style="list-style-type: none"> ピアノ指導教材の研究手法について学ぶ 楽式分析の視点 			予習: 楽式について調べておく。 復習: 題材曲を演奏し、研究内容をより理解、定着させる。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	コードネームの活用① ・教材研究に役立つコードネームについて学ぶ ・基本三和音、7の和音の表記	予習: 楽典「和音」を確認しておく。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解につとめる。
第5回	コードネームの活用② ・テンションノート、変化和音、転回形の表記 ・コードネーム表記の利便性	予習: 楽典「和音」を確認しておく。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解につとめる。
第6回	コードネームの活用③ ・ピアノ指導教材におけるコードネームの活用 ・ピアノ演奏における和声感の表現について	予習: 和声学の教科書に目を通しておく。 復習: 題材曲を演奏し、授業内容の理解・定着につとめる。
第7回	ピアノ指導における「音」と「言葉」 ・レッスンにおける節奏と言葉がけの重要性 ・「○×○の指導法」について知る。	予習: ピアノレッスンにおける効果的な言葉がけについて考えてみる。 復習: 配布資料に詳しく目を通し理解につとめる。
第8回	レッスン実習事前指導① ・レッスン実習のモデル生徒の年齢、題材曲等に基づき、指導法を考える	予習: ピアノレッスンにおいて重要な点は何か考えてみる。 復習: レッスン実習の指導計画を書面にまとめる。
第9回	レッスン実習事前指導② ・レッスン実習のモデル生徒の年齢、題材曲等に基づき、指導法を考える	予習: ピアノレッスンにおいて重要な点は何か考えてみる。 復習: レッスン実習の指導計画を考えておく。
第10回	レッスン実習① ・小学生のモデル生徒によるレッスン実習。ピアノ指導法3の履修者が行う実習を見学する。	予習: 題材曲の指導ポイントをまとめておく。 復習: レッスン実習の内容についてメモしておく。
第11回	レッスン実習② ・小学生のモデル生徒によるレッスン実習。ピアノ指導法3の履修者が行う実習を見学する。	予習: 題材曲の指導ポイントをまとめておく。 復習: レッスン実習の内容についてメモしておく。
第12回	レッスン実習③ ・小学生のモデル生徒によるレッスン実習。ピアノ指導法3の履修者が行う実習を見学する。	予習: 前回までのレッスン実習について感想をまとめておく。 復習: レッスン実習の内容についてメモしておく。
第13回	レッスン実習④ ・小学生のモデル生徒によるレッスン実習。ピアノ指導法3の履修者が行う実習を見学する。	予習: 前回までのレッスン実習について感想をまとめておく。 復習: 一連のレッスン実習の内容についてまとめる。
第14回	レッスン実習の振り返り ・レッスン実習を振り返り、その成果を確認する。 ・レッスン実習の内容についてディスカッションを行う。	予習: レッスン実習聴講メモを整理しておく。 復習: ディスカッションの内容を整理し書き留めておく。
第15回	講義全体のまとめ ・講義全体の振り返りを行う。	予習: これまでに配布した資料をまとめておく。 復習: 講義全体の振り返りを行う。

科目名(クラス)	ピアノ指導法2		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	國谷 尊之	履修対象・条件	ピアノ指導者コースは必修					
【授業の概要】								
<p>ピアノ指導者になるために必要な知識を得るとともに、それを実際にピアノ指導の現場で生かすことのできる指導手法を修得する。</p> <p>教材研究の方法、ピアノレッスンにおけるさまざまな指導手法、生徒とのコミュニケーション、練習方法の提示など、ピアノ指導に必要とされるさまざまな要素を幅広く学ぶ。ピアノ指導法1で得られた知見をもとに、さらに多様な指導手法を修得し活用できる能力を養う。</p>								
【授業の到達目標】								
<p>ピアノ指導法1で得た知識をさらに発展させ、ピアノ指導に用いる多様な教材に対する研究手法を実践することができる。ピアノレッスンにおけるさまざまな指導手法を活用することができる。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義形式のほか、ディスカッション、模擬レッスン、レッスン実習など、様々な形式で行う。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<p>ピアノ指導者コースのみが履修できる科目である。一人一人が将来ピアノ指導者になるという自覚のもとに積極的に発言、行動し、授業を能動的に作り上げる意識を持つことが求められる。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
学期末レポート(50%)、授業への取り組み姿勢、提出物(50%)で評価する。								
教科書	必要に応じて資料を配布する	著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	ピアノを教えるということ ・生徒の成長について考える ・生涯にわたって音楽に親しむために			予習:ピアノ指導者の役割について考えてみる。 復習:ピアノ指導者が社会の中で果たす役割について自分の考えを持つ。				
第2回	さまざまな指導手法① ・「きく」「うたう」等のソルフェージュ的要素			予習:ソルフェージュ指導の役割について考える。 復習:題材曲を演奏し、授業内容の理解・定着につとめる。				
第3回	さまざまな指導手法② ・模奏 ・分担奏			予習:模範演奏の役割について考える。 復習:題材曲を演奏し、授業内容の理解・定着につとめる。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	さまざまな指導手法③ ・練習方法の提示	予習:自分の練習方法を点検する。 復習:授業で行った内容を練習し、定着につとめる。
第5回	さまざまな指導手法④ ・テクニック指導について	予習:テクニック指導について考えてみる。 復習:授業で行った内容を練習し、定着につとめる。
第6回	さまざまな指導手法⑤ ・連弾を用いた指導法～その1 ・ファミリー連弾の効能	予習:連弾の課題を練習する。 復習:題材曲を演奏し、授業内容の理解・定着につとめる。 予習:連弾の課題を練習する。
第7回	さまざまな指導手法⑥ ・連弾を用いた指導法～その2 ・連弾教材の指導ポイント	連弾の課題を練習する。 復習:題材曲を演奏し、授業内容の理解・定着につとめる。
第8回	レッスン実習事前指導③ ・レッスン実習のモデル生徒の年齢、題材曲等に基づき、指導法を考える	予習:ピアノレッスンにおいて重要な点は何か考えてみる。 復習:レッスン実習の指導計画を書面にまとめる。
第9回	レッスン実習事前指導④ ・レッスン実習のモデル生徒の年齢、題材曲等に基づき、指導法を考える	予習:ピアノレッスンにおいて重要な点は何か考えてみる。 復習:レッスン実習の指導計画を考えておく。
第10回	レッスン実習⑤ ・小学生のモデル生徒によるレッスン実習。ピアノ指導法4の履修者が行う実習を見学する。	予習:題材曲の指導ポイントをまとめておく。 復習:レッスン実習の内容についてメモしておく。
第11回	レッスン実習⑥ ・小学生のモデル生徒によるレッスン実習。ピアノ指導法4の履修者が行う実習を見学する。	予習:題材曲の指導ポイントをまとめておく。 復習:レッスン実習の内容についてメモしておく。
第12回	レッスン実習⑦ ・小学生のモデル生徒によるレッスン実習。ピアノ指導法4の履修者が行う実習を見学する。	予習:前回までのレッスン実習について感想をまとめておく。 復習:レッスン実習の内容についてメモしておく。
第13回	レッスン実習⑧ ・小学生のモデル生徒によるレッスン実習。ピアノ指導法4の履修者が行う実習を見学する。	予習:前回までのレッスン実習について感想をまとめておく。 復習:一連のレッスン実習の内容についてまとめる。
第14回	レッスン実習の振り返り ・レッスン実習を振り返り、その成果を確認する。 ・レッスン実習の内容についてディスカッションを行う。	予習:レッスン実習聴講メモを整理しておく。 復習:ディスカッションの内容を整理し書き留めておく。
第15回	講義全体のまとめ ・講義全体の振り返りを行う。	予習:これまでに配布した資料をまとめておく。 復習:講義全体の振り返りを行う。

科目名(クラス)	ピアノ指導法3		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	國谷 尊之	履修対象・条件	ピアノ指導者コースは必修					
【授業の概要】								
<p>ピアノ指導者になるために必要な知識を得るとともに、それを実際にピアノ指導の現場で生かすことのできる指導手法を修得する。教材研究の方法、ピアノレッスンにおけるさまざまな指導手法、生徒とのコミュニケーション、練習方法の提示など、ピアノ指導に必要とされるさまざまな要素を幅広く学ぶ。</p> <p>小学生のモデル生徒を起用した「レッスン実習」を行い、これまでに培ったさまざまな知識と手法を実践するとともに、その振り返りの過程を通してピアノ指導者としての能力を一層向上させる。</p>								
【授業の到達目標】								
<p>これまでに培った能力をさらに深化させ、ピアノ指導に用いる教材に対する研究手法と、ピアノレッスンにおけるさまざまな指導手法について理解し、レッスン実習等を通じて自ら活用し実践することができる。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義形式のほか、ディスカッション、模擬レッスン、レッスン実習など、様々な形式で行う。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<p>ピアノ指導者コースのみが履修できる科目である。一人一人が将来ピアノ指導者になるという自覚のもとに積極的に発言、行動し、授業を能動的に作り上げる意識を持つことが求められる。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
学期末レポート(50%)、授業への取り組み姿勢(レッスン実習内容を含む)、提出物(50%)で評価する。								
教科書	必要に応じて資料を配布する。		著者等		出版社			
教科書			著者等		出版社			
参考文献			著者等		出版社			
参考文献			著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・講義概要説明 ・ピアノ指導者を目指すために 				<p>予習: シラバスに目を通し理解につとめる。</p> <p>復習: 講義の内容をまとめておく。</p>			
第2回	<p>教材研究の手法①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ指導教材の研究手法について学ぶ ・音楽の三要素に基づく分析 				<p>予習: 楽典「音階」を確認しておく。</p> <p>復習: 題材曲を演奏し、研究内容をより理解、定着させる。</p>			
第3回	<p>教材研究の手法②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ指導教材の研究手法について学ぶ ・楽式分析の視点 				<p>予習: 楽式について調べておく。</p> <p>復習: 題材曲を演奏し、研究内容をより理解、定着させる。</p>			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	コードネームの活用① ・教材研究に役立つコードネームについて学ぶ ・基本三和音、7の和音の表記	予習: 楽典「和音」を確認しておく。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解につとめる。
第5回	コードネームの活用② ・テンションノート、変化和音、転回形の表記 ・コードネーム表記の利便性	予習: 楽典「和音」を確認しておく。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解につとめる。
第6回	コードネームの活用③ ・ピアノ指導教材におけるコードネームの活用 ・ピアノ演奏における和声感の表現について	予習: 和声学の教科書に目を通しておく。 復習: 題材曲を演奏し、授業内容の理解・定着につとめる。
第7回	ピアノ指導における「音」と「言葉」 ・レッスンにおける節奏と言葉がけの重要性 ・「○×○の指導法」について知る。	予習: ピアノレッスンにおける「言語化」について確認しておく。 復習: 配布資料に詳しく目を通し理解につとめる。
第8回	レッスン実習事前指導① ・レッスン実習のモデル生徒の年齢、題材曲等に基づき、指導法を考える	予習: ピアノレッスンにおいて重要な点について考えをまとめる。 復習: レッスン実習の指導計画を書面にまとめる。
第9回	レッスン実習事前指導② ・レッスン実習のモデル生徒の年齢、題材曲等に基づき、指導法を考える	予習: ピアノレッスンにおいて重要な点について考えをまとめる。 復習: レッスン実習の指導計画を書面にまとめる。
第10回	レッスン実習① ・小学生のモデル生徒によるレッスン実習を行う。	予習: 題材曲の指導ポイントと指導手法をまとめておく。 復習: レッスン実習の内容についてメモしておく。次回のレッスン実習への課題をまとめる。
第11回	レッスン実習② ・小学生のモデル生徒によるレッスン実習を行う。	予習: 題材曲の指導ポイントと指導手法をまとめておく。 復習: レッスン実習の内容についてメモしておく。次回のレッスン実習への課題をまとめる。
第12回	レッスン実習③ ・小学生のモデル生徒によるレッスン実習を行う。	予習: 前回までのレッスン実習について、成果、課題をまとめておく。 復習: レッスン実習の内容についてメモしておく。次回のレッスン実習への課題をまとめる。
第13回	レッスン実習④ ・小学生のモデル生徒によるレッスン実習を行う。	予習: 前回までのレッスン実習について、成果、課題をまとめておく。 復習: 一連のレッスン実習の内容についてまとめる。
第14回	レッスン実習の振り返り ・レッスン実習を振り返り、その成果を確認する。 ・レッスン実習の内容についてディスカッションを行う。	予習: レッスン実習聴講メモを整理しておく。 復習: ディスカッションの内容を整理し書き留めておく。
第15回	講義全体のまとめ ・講義全体の振り返りを行う。	予習: これまでに配布した資料をまとめておく。 復習: 講義全体の振り返りを行う。

科目名(クラス)	ピアノ指導法4		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	國谷 尊之	履修対象・条件	ピアノ指導者コースは必修					
【授業の概要】								
<p>ピアノ指導者になるために必要な知識を得るとともに、それを実際にピアノ指導の現場で生かすことのできる指導手法を修得する。教材研究の方法、ピアノレッスンにおけるさまざまな指導手法、生徒とのコミュニケーション、練習方法の提示など、ピアノ指導に必要とされるさまざまな要素を幅広く学ぶ。小学生のモデル生徒を起用した「レッスン実習」を行い、これまでに培った様々な知識と手法を実践するとともに、振り返りの過程を通してピアノ指導者としての能力を一層高め、社会のなかで音楽の指導に携わる自覚と誇りを確かなものとするを目指す。</p>								
【授業の到達目標】								
<p>ピアノ指導に用いる教材に対する研究手法と、ピアノレッスンにおけるさまざまな指導手法について理解し、レッスン実習等を通じて自ら活用し実践することができる。ピアノ指導者として継続的に向上していくための自己研鑽の方法について理解できる。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】								
<p>講義形式のほか、ディスカッション、模擬レッスン、レッスン実習など、様々な形式で行う。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<p>ピアノ指導者コースのみが履修できる科目である。一人一人が将来ピアノ指導者になるという自覚のもとに積極的に発言、行動し、授業を能動的に作り上げる意識を持つことが求められる。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<p>学期末レポート(50%)、授業への取り組み姿勢(レッスン実習内容を含む)、提出物(50%)で評価する。</p>								
教科書	必要に応じて資料を配布する。	著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)						
第1回	<p>ピアノを教えるということ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の成長について考える ・生涯にわたって音楽に親しむために 	<p>予習:ピアノ指導者の役割について考えてみる。</p> <p>復習:ピアノ指導者が社会の中で果たす役割について自分の考えを持つ。</p>						
第2回	<p>さまざまな指導手法①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「きく」「うたう」等のソルフェージュ的要素 	<p>予習:ソルフェージュ指導の役割について考える。</p> <p>復習:題材曲を演奏し、授業内容の理解・定着につとめる。</p>						
第3回	<p>さまざまな指導手法②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模奏 ・分担奏 	<p>予習:模範演奏の役割について考える。</p> <p>復習:題材曲を演奏し、授業内容の理解・定着につとめる。</p>						

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	さまざまな指導手法③ ・練習方法の提示	予習:自分の練習方法を点検する。 復習:授業で行った内容を練習し、定着につとめる。
第5回	さまざまな指導手法④ ・テクニック指導について	予習:テクニック指導について考えてみる。 復習:授業で行った内容を練習し、定着につとめる。
第6回	さまざまな指導手法⑤ ・連弾を用いた指導法～その1 ・ファミリー連弾の効能	予習:連弾の課題を練習する。 復習:題材曲を演奏し、授業内容の理解・定着につとめる。 予習:連弾の課題を練習する。
第7回	さまざまな指導手法⑥ ・連弾を用いた指導法～その2 ・連弾教材の指導ポイント	連弾の課題を練習する。 復習:題材曲を演奏し、授業内容の理解・定着につとめる。
第8回	レッスン実習事前指導③ ・レッスン実習のモデル生徒の年齢、題材曲等に基づき、指導法を考える	予習:ピアノレッスンにおいて重要な点について考えをまとめる。 復習:レッスン実習の指導計画を書面にまとめる。
第9回	レッスン実習事前指導④ ・レッスン実習のモデル生徒の年齢、題材曲等に基づき、指導法を考える	予習:ピアノレッスンにおいて重要な点について考えをまとめる。 復習:レッスン実習の指導計画を書面にまとめる。
第10回	レッスン実習⑤ ・小学生のモデル生徒によるレッスン実習。ピアノ指導法4の履修者が実習を行い、ピアノ指導法2の履修者はこれを見学する。	予習:題材曲の指導ポイントと指導手法をまとめておく。 復習:レッスン実習の内容についてメモしておく。次回のレッスン実習への課題をまとめる。
第11回	レッスン実習⑥ ・小学生のモデル生徒によるレッスン実習。ピアノ指導法4の履修者が実習を行い、ピアノ指導法2の履修者はこれを見学する。	予習:題材曲の指導ポイントと指導手法をまとめておく。 復習:レッスン実習の内容についてメモしておく。次回のレッスン実習への課題をまとめる。
第12回	レッスン実習⑦ ・小学生のモデル生徒によるレッスン実習。ピアノ指導法4の履修者が実習を行い、ピアノ指導法2の履修者はこれを見学する。	予習:前回までのレッスン実習について、成果、課題をまとめておく。 復習:レッスン実習の内容についてメモしておく。次回のレッスン実習への課題をまとめる。
第13回	レッスン実習⑧ ・小学生のモデル生徒によるレッスン実習。ピアノ指導法4の履修者が実習を行い、ピアノ指導法2の履修者はこれを見学する。	予習:前回までのレッスン実習について、成果、課題をまとめておく。 復習:一連のレッスン実習の内容についてまとめる。
第14回	レッスン実習の振り返り ・レッスン実習を振り返り、その成果を確認する。 ・レッスン実習の内容についてディスカッションを行う。	予習:レッスン実習聴講メモを整理しておく。 復習:ディスカッションの内容を整理し書き留めておく。
第15回	講義全体のまとめ ・講義全体の振り返りを行う。	予習:これまでに配布した資料をまとめておく。 復習:講義全体の振り返りを行う。

科目名(クラス)	スタジオワーク エクスプレッション	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	城之内 ミサ	履修対象・条件	コンポージングアーティスト専攻のみ履修可。必修				
【授業の概要】							
ポップス領域の「スタジオミュージシャン」の力量(柔軟かつ洗練された演奏技術や表現力、センス)をシュミレーションし、彼らと同等なる音楽観を深めていくのと同時に、商業音楽作曲編曲者の側面と、演奏家の側面、更には作詞作曲・歌・演奏を兼ねるシンガーソングライターといった「アーティスト」として、どういう人物が業界で求められ第一線で活躍出来るかをレクチャーをします。机上の空論ではなく実際のテレビや映画・アニメ等の音楽の作編曲をたくさんやってきた経験則と、サントラやオリジナルアルバムCDを何十枚もリリースし、そのプロモーションのためのあらゆるキャンペーンをこなした経験を元に、メディアに出演した際にどういう表現をするべきかも合わせレクチャー。							
【授業の到達目標】							
芸術音楽、伝統音楽の分野とは異なる「ショービジネスの世界」に於けるスタジオミュージシャンは、ポップス系(ギター、ベース、ドラム等)と、クラシック系に分かれています。実際の仕事はクラシック出身の奏者も「商業音楽産業(ポップス)」の音楽を演奏することになります。その際の、初見演奏力やオリジナル楽曲の演奏解釈、センス、その音楽の特色を掴む早さや感性には目を見張るものがあります。これは日本だけでなく欧米の奏者達にも言えることです。いずれ彼らとともに自作曲を演奏し共有することになった時、作曲する側として、あるいは一緒に演奏する者として、彼らと同等の感覚やスキルを学ぶことは、業界の現場で役立ちます。							
【授業の「方法」と「形式」】							
講義形式。教科書等は特に使用せず、講師自身の譜面やCDやDVD視聴覚機器の使用等。							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
作曲のデモンストレーションや楽器演奏、歌唱等をお願いすることがあります。強要はいたしません積極的に参加いただくことを望みます。人前で何かをされたくない方も受講出来ますが、講師の講義や学生さんのパフォーマンスには真摯に耳を傾けて戴く事を心から望みます。遅刻、早退は原則的に認めません。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
課題による採点(70%)及び、授業への積極性、受講態度を総合的に評価する。							
教科書		著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	スタジオミュージシャンとは～やがて一緒に仕事をするであろうスタジオミュージシャン(プロ演奏家・ボーカリスト)感覚について。 ～クライアントのあらゆる要求に応える職人技としての音楽表現を知る			自身の好きなアーティストの楽曲の、『演奏部分』を良く聞いておく			
第2回	ハーモナイズとリハモナイズ～ヴォイシング			コードについて予習、復習しておく			
第3回	ポップスのリズム感～人間とコンピューター						

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	ポップス領域に於けるオリジナル・ピアノ伴奏法	
第5回	ポップス領域に於けるオリジナル・ピアノ伴奏法Ⅱ～弾き語り	
第6回	スター・スタジオミュージシャンの仕事Ⅰ(ゲスト講師:ギタリスト小島久政)	
第7回	アーティストマネジメント・音楽制作プロデューサーの仕事(ゲスト講師:ケイダッシュグループ音楽制作プロデューサー 赤澤寿則)	
第8回	スター・スタジオミュージシャンの仕事Ⅱ & 知的財産権について ゲスト講師:チェロ奏者・RMA(NPO法人レコーディング・ミュージシャンズ・アソシエーション・オブ・ジャパン)副理事長:阿部雅士	
第9回	フェイクしてみよう～歌ってみる、弾いてみる	
第10回	スタジオミュージシャンを体験してみる～ヴォーカル領域	
第11回	スタジオミュージシャンを体験してみる～ピアノ、演奏領域	
第12回	スタジオワークとコンサートの違い～生演奏を届ける	
第13回	スタジオ・ディレクション～レコーディング時に於けるプロデューサーとアーティスト(or作曲家)と奏者の関係	
第14回	世界は広い～アーティストとして、アルチザンとしてⅠ メディア対応の実践	
第15回	世界は広い～アーティストとして、アルチザンとしてⅡ メディア対応の実践	

科目名(クラス)	アンサンブル[ピアノ]IA		開講学期	前期	単位数	各 1	配当年次	1
担当教員	小林 律子	履修対象・条件	履修にあたっては、相応の演奏技能が必要					
【授業の概要】								
<p>本講義では、4手連弾を行う。同じ楽器のおけるアンサンブルには、シンプルであるが故に様々な難しい側面がある。講義は受講生による演奏を中心として進めるが、その課題の楽曲を通して、アンサンブルにおける必要なポイントを把握し、技術を身につけること、また、2人で音楽を創ることによって得られる様々な感覚を身につける。連弾には数多くの“隠れた名曲”が存在する。多くの名曲に触れることで音楽的経験を豊富にすることも本講義の目的のひとつである。</p>								
【授業の到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> ・連弾において必要な技術と感覚を身につける。 ・良い響きを作る意識を持つと共に、楽曲にふさわしい表現を追求する。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・演習形式。 ・実際に演奏することにより学び、理解する分野であるので、受講生全員に可能な限り多くの演奏機会を与える。 								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・受講者は受講マナーを守り、授業に積極的に取り組むこと。 ・欠席、遅刻・早退をしないこと。 ・課題に対しての演奏・学術両面からの予習・復習の必要性を十分に心がけて臨むこと。 ・連弾においては、個人での準備・練習はもちろんのこと、パートナーとの練習が必要になる。パートナーとの関係を大切に。アンサンブルにおいてコミュニケーション能力は大変重要である。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・学期末に試演会を実施する。 試演会における、演奏の評価における配分は40%とする。 ・予習・復習等、受講する上で十分な準備ができているか。 平素の授業における“学ぶ姿勢”を評価の重要なポイントとする。配分は60%とする。 								
教科書	使用しない	著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献	授業中に資料を配布する	著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	連弾入門① ・連弾について ・パートの説明 ・ペアを組む			予習:シラバスを読んで各回のテーマを押さえておく 復習:“連弾”について具体的なイメージを持つ				
第2回	連弾入門② ・各パートを実際に演奏し、体験する。			予習:課題の楽曲を予見しておく 復習:各パートの役割を理解する				
第3回	連弾入門③ ・パートナーとの合わせ ・課題曲の試演。 ・演奏に対するコメントとアドバイス			予習:パートナーと合わせ、練習する 復習:合わせる上での注意すべきポイントを整理する				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	シューベルト、ブラームスの作品① ・楽曲に関する知識を得る ・演奏に際してのポイントの整理	予習:作曲家・楽曲について調べる 復習:知識の整理、楽曲を準備していく上での注意点を理解する
第5回	シューベルト、ブラームスの作品② ・各パートの試演 ・演奏に対するコメントとアドバイス	予習:楽曲に対する十分な準備 復習:各パートにおける必要な技術の習得と心がけるポイントを把握する
第6回	シューベルト、ブラームスの作品③ ・パートナーとの合わせ ・演奏に対するコメントとアドバイス	予習:パートナーと合わせ、練習しておく 復習:合わせる上でのポイントの把握
第7回	シューベルト、ブラームスの作品④ ・全体の響きのバランスを整える ・表現について意識する	予習:パートナーと合わせ、練習しておく 復習:良い響きの作り方、ペタリングについてポイント整理
第8回	ドビュッシーの作品① ・楽曲に関する知識を得る ・演奏に際してのポイントの整理 ・各パートの試演	予習:作曲家・楽曲について調べる、演奏のための十分な準備 復習:各パートにおける必要な技術の習得と心がけるポイントを把握する
第9回	ドビュッシーの作品② ・パートナーとの合わせ ・演奏に対するコメントとアドバイス	予習:パートナーと合わせ、練習しておく 復習:合わせる上でのポイントの把握
第10回	ドビュッシーの作品③ ・全体の響きのバランスを整える ・表現について意識する	予習:パートナーと合わせ、練習しておく 復習:楽曲に対するイメージの把握
第11回	ラヴェルの作品① ・楽曲に関する知識を得る ・演奏に際してのポイントの整理 ・各パートの試演	予習:作曲家・楽曲について調べる、演奏のための十分な準備 復習:各パートにおける必要な技術の習得と心がけるポイントを把握する
第12回	ラヴェルの作品② ・パートナーとの合わせ ・演奏に対するコメントとアドバイス	予習:パートナーと合わせ、練習しておく 復習:合わせる上でのポイントの把握
第13回	ラヴェルの作品③ ・全体の響きのバランスを整える ・表現について意識する	予習:パートナーと合わせ、練習しておく 復習:楽曲に対するイメージの把握
第14回	本科目の総括①(振り返り) ・試演会のリハーサル	パートナーとの合わせ、練習 ひとつの作品として創り上げるための最終確認
第15回	本科目の総括② ・試演会	連弾について、各自の体験を通し理解したこと、実感したことを総括する

科目名(クラス)	アンサンブル[ピアノ] I B		開講学期	後期	単位数	各 1	配当年次	1
担当教員	小林 律子	履修対象・条件	履修にあたっては、相応の演奏技能が必要					
【授業の概要】								
<p>アンサンブル I Aに引き続き、4手連弾を行う。 講義は I Aと同様に受講生の演奏を中心として進めるが、アンサンブル・テクニックの更なるレベル・アップを目指すと共に、「表現すること」への意識を高めていくことを重要な柱として考える。そのため、課題の楽曲は標題音楽の作品から多くを選曲する。演奏表現においてイメージすることの重要性を十分に理解し、具体的な方法を把握できることを目的とする。</p>								
【授業の到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> 響きに対する繊細な耳の感覚を育てると共に「音を聴く」意識を高める。 演奏表現に対して、明確なイメージと自覚を持つ。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
<ul style="list-style-type: none"> 演習形式。 実際に演奏することにより学び、理解する分野であるので、受講生全員に可能な限り多くの演奏機会を与える。 								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> 受講者は受講マナーを守り、授業に積極的に取り組むこと。 欠席、遅刻・早退をしないこと。 課題に対しての演奏・学術両面からの予習・復習の必要性を十分に心がけて臨むこと。 連弾においては、個人での準備・練習はもちろんのこと、パートナーとの練習が必要になる。パートナーとの関係を大切に。アンサンブルにおいてコミュニケーション能力は大変重要である。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<ul style="list-style-type: none"> 学期末に試演会を実施する。 試演会における、演奏の評価における配分は40%とする。 予習・復習等、受講する上で十分な準備ができているか。 平素の授業における“学ぶ姿勢”を評価の重要なポイントとする。配分は60%とする。 								
教科書	使用しない	著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献	授業中に資料を配布する	著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	シューマンの作品① ・合わせる技術と感覚を再認識する			予習:課題の楽曲の準備 復習:“合わせる”意識・感覚を再確認する				
第2回	シューマンの作品② ・全体の響きのバランス・表現について再認識する			予習:パートナーと合わせ、練習する 復習:楽曲としての表現が積極的に行えたか?				
第3回	フォーレの作品① ・楽曲に関する知識を得る ・演奏に際してのポイントの整理			予習:作曲家・楽曲について調べる 復習:楽曲の概要を再度認識する				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	フォーレの作品② ・各パートの試演 ・演奏に対するコメントとアドバイス	予習:演奏に向けて十分な準備をする 復習:各パートにおける必要な技術をマスターする
第5回	フォーレの作品③ ・パートナーとの合わせ ・演奏に対するコメントとアドバイス	予習:パートナーと合わせ、練習する 復習:合わせる上での注意すべきポイントを整理・把握する
第6回	フォーレの作品④ ・全体の響きのバランスを整える ・楽曲にふさわしい表現方法を考える	予習:パートナーと合わせ、練習する、響きの作り方を工夫する 復習:楽曲に対するイメージをまとめる
第7回	チャイコフスキーの作品① ・楽曲に関する知識を得る ・演奏に際してのポイントの整理	予習:作曲家・楽曲について調べる 復習:楽曲の概要を再度認識する
第8回	チャイコフスキーの作品② ・各パートの試演 ・演奏に対するコメントとアドバイス	予習:演奏に向けて十分な準備をする 復習:各パートにおける必要な技術をマスターする
第9回	チャイコフスキーの作品③ ・パートナーとの合わせ ・演奏に対するコメントとアドバイス	予習:パートナーと合わせ、練習する 復習:合わせる上での注意すべきポイントを整理・把握する
第10回	チャイコフスキーの作品④ ・全体の響きのバランスを整える ・楽曲にふさわしい表現方法を考える	予習:パートナーと合わせ、練習する、響きの作り方を工夫する 復習:楽曲に対するイメージをまとめる
第11回	ドヴォルザーク、ラフマニノフの作品① ・楽曲に関する知識を得る ・演奏に際してのポイントの整理 ・各パートの試演	予習:作曲家・楽曲について調べる、演奏に向けて十分な準備をする 復習:各パートにおける必要な技術をマスターする
第12回	ドヴォルザーク、ラフマニノフの作品② ・パートナーとの合わせ ・演奏に対するコメントとアドバイス	予習:パートナーと合わせ、練習する 復習:合わせる上での注意すべきポイントを整理・把握する
第13回	ドヴォルザーク、ラフマニノフの作品③ ・全体の響きのバランスを整える ・楽曲にふさわしい表現方法を考える	予習:パートナーと合わせ、練習する、響きの作り方を工夫する 復習:楽曲に対するイメージをまとめる
第14回	本科目の総括①(振り返り) ・試演会のリハーサル	パートナーとの合わせ、練習 ひとつの作品として創り上げるための最終確認
第15回	本科目の総括② ・試演会	連弾について、各自の体験を通して理解したこと、実感したことを総括する

科目名(クラス)	アンサンブル[ピアノ]ⅡA		開講学期	前期	単位数	各 1	配当年次	1
担当教員	小林 律子	履修対象・条件	履修にあたっては、相応の演奏技能が必要					
【授業の概要】								
<p>本講義では2台ピアノによるアンサンブルを行う。“2台ピアノ”というジャンルにおいては、各パート共、技術的レベルが独奏の曲とほとんど同等になる。また、課題として近代の作品を多く扱うことになるが、時代的に楽譜の表記が極めて複雑になる為、読譜力・ソルフェージュ力のレベル・アップも必然となる。</p> <p>講義は受講者による演奏を中心として進めるが、その課題の楽曲を通して、2台ピアノにおけるアンサンブルの必要なポイントを把握し、技術を身につけていくと共に、響きの豪華さを体感する。</p>								
【授業の到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> ・パートナーとの距離感がある中において、相手の存在を察知する能力を身につける。 ・2台のピアノによって作り得る音響の可能性を追求する。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・演習形式。 ・実際に演奏することにより学び、理解する分野であるので、受講生全員に可能な限り多くの演奏機会を与える。 								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・受講者は受講マナーを守り、授業に積極的に取り組むこと ・欠席、遅刻・早退をしないこと。 ・課題に対しての演奏・学術両面からの予習・復習の必要性を十分に心がけて臨むこと。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・学期末に試演会を実施する。 ・試演会における、演奏の評価における配分は40%とする。 ・予習・復習等、受講する上で十分な準備ができているか。 ・平素の授業における“学ぶ姿勢”を評価の重要なポイントとする。配分は60%とする。 								
教科書	使用しない	著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献	授業中に資料を配布する	著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	4手連弾:復習① ・ポイントの整理と実践			予習:課題の楽曲を予見しておく 復習:アンサンブルの感覚を思い出すと共に、注意点を確認する				
第2回	4手連弾:復習② ・課題曲の試演 ・演奏に対するコメントとアドバイス			同上				
第3回	2台ピアノによるアンサンブル ・パートナーとの距離 ・2台ピアノの音響 ・合わせる上での留意点			予習:2台ピアノの楽曲を試聴する 復習:2台ピアノに対するイメージを具体的に整理する				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	プーランクの作品① ・楽曲に関する知識を得る ・演奏に際してのポイントの整理	予習:作曲家・楽曲について調べる 復習:曲を準備していく上での注意点を整理
第5回	プーランクの作品② ・各パートの試演 ・演奏に対するコメントとアドバイス	予習:演奏に向けて十分な準備をする 復習:各パートにおける必要な技術の習得と心がけるポイントを把握
第6回	プーランクの作品③ ・パートナーとの合わせ ・演奏に対するコメントとアドバイス	予習:パートナーと合わせ、練習する 復習:合わせる上での注意すべきポイントを把握する
第7回	プーランクの作品④ ・響きを作る。響きを聴く ・楽曲にふさわしい表現方法を考える	予習:パートナーと合わせ、練習する 復習:響きを聴くことができているか?、響きのイメージを確認する
第8回	モーツァルトの作品① ・楽曲に関する知識を得る ・演奏に際してのポイントの整理	予習:作曲家・楽曲について調べる 復習:時代背景をまとめる
第9回	モーツァルトの作品② ・各パートの試演 ・演奏に対するコメントとアドバイス	予習:演奏に向けて十分な準備をする 復習:技術を習得するための注意点を確認する
第10回	モーツァルトの作品③ ・各パートの試演 ・演奏に対するコメントとアドバイス	予習:演奏に向けて十分な準備をする 復習:各パートの役割を確認する
第11回	モーツァルトの作品④ ・パートナーとの合わせ ・演奏に対するコメントとアドバイス	予習:パートナーと合わせる 復習:2台ピアノにおける“合わせ方”の方法と要領を整理する
第12回	モーツァルトの作品⑤ ・パートナーとの合わせ ・演奏に対するコメントとアドバイス	予習:パートナーと合わせる 復習:相手のパートの内容を確認する
第13回	モーツァルトの作品⑥ ・響きを作る。響きを聴く ・楽曲にふさわしい表現方法を考える	予習:パートナーと合わせる 復習:コントロールが行き届いた演奏を目指す
第14回	本科目の総括①(振り返り) ・試演会のリハーサル	パートナーとの合わせる ひとつの作品として創り上げるための最終確認
第15回	本科目の総括② ・試演会	2台ピアノについて、各自の体験を通して理解したこと、実感したことを総括する

科目名(クラス)	アンサンブル[ピアノ]ⅡB		開講学期	後期	単位数	各 1	配当年次	1
担当教員	小林 律子	履修対象・条件	履修にあたっては、相応の演奏技能が必要					
【授業の概要】								
アンサンブルⅡAに引き続き、2台ピアノによるアンサンブルを行う。講義はⅡAと同様に受講生の演奏を中心として進める。課題の楽曲は更に複雑になる為、読譜力の重要性を認識し、また、効率の良い演奏を可能にする運指方法についても再考するよい機会であるとする。更なる演奏能力のレベル・アップを追求すると共に、“大曲”にとり組む意識と、その際の具体的な方法を身につける。								
【授業の到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> 響きを常に聴き、意識する。 コントロールの行き届いた、2台ピアノの楽曲にふさわしいスケールの大きな演奏を目指す。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
<ul style="list-style-type: none"> 演習形式。 実際に演奏することにより学び、理解する分野であるので、受講生全員に可能な限り多くの演奏機会を与える。 								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> 受講者は受講マナーを守り、授業に積極的に取り組むこと。 欠席、遅刻・早退をしないこと。 課題に対しての演奏・学術両面からの予習・復習の必要性を十分に心がけて臨むこと。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<ul style="list-style-type: none"> 学期末に試演会を実施する。 試演会における、演奏の評価における配分は40%とする。 予習・復習等、受講する上で十分な準備ができているか。 平素の授業における“学ぶ姿勢”を評価の重要なポイントとする。配分は60%とする。 								
教科書	使用しない	著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献	授業中に資料を配布する	著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	課題曲の選択と授業のスケジュールの確認			予習:シラバスで講義の流れを確認する 復習:講義に対するイメージと自覚を持つ				
第2回	ミヨ一の作品① ・楽曲に関する知識を得る ・複雑な楽譜への対処			予習:作曲家・楽曲について調べる 復習:読譜について、方法を再認識しておく				
第3回	ミヨ一の作品② ・演奏に際してのポイントを整理 ・各パートの試演			予習:正確な読譜・演奏にとって効率の良い運指の設定 復習:上記の確認				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	ミヨーの作品③ ・各パートの試演 ・演奏に対するコメントとアドバイス	予習:演奏に向けて準備 復習:各パートにおける必要な技術と心がけるポイントの確認
第5回	ミヨーの作品④ ・パートナーとの合わせ ・演奏に対するコメントとアドバイス	予習:パートナーと合わせる 復習:各自の十分な練習
第6回	ミヨーの作品⑤ ・パートナーとの合わせ ・演奏に対するコメントとアドバイス ・独特なリズムへの意識	予習:パートナーと合わせ、練習する 復習:アンサンブルの感覚を把握する、お互いのパートを確認する
第7回	ミヨーの作品⑥ ・響きを作る。響きを聴く ・楽曲にふさわしい表現方法を考える	予習:パートナーと合わせ、練習する 復習:響きを共有できたか?、ふさわしい表現が掴めたか?
第8回	ラフマニノフの作品① ・楽曲に関する知識を得る ・演奏に際してのポイントの整理	予習:作曲家・楽曲について調べる 復習:楽曲の内容・時代背景についてまとめる
第9回	ラフマニノフの作品② ・各パートの試演 ・演奏に対するコメントとアドバイス	予習:正確な読譜・演奏にとって効率の良い運指の設定 復習:上記の確認
第10回	ラフマニノフの作品③ ・各パートの試演 ・演奏に対するコメントとアドバイス	予習:演奏に向けて準備 復習:各パートにおける必要な技術と心がけるポイントの確認
第11回	ラフマニノフの作品④ ・パートナーとの合わせ ・演奏に対するコメントとアドバイス	予習:パートナーと合わせる 復習:各自の十分な練習
第12回	ラフマニノフの作品⑤ ・パートナーとの合わせ ・演奏に対するコメントとアドバイス	予習:パートナーと合わせ、練習する 復習:アンサンブルの感覚を把握する、お互いのパートを確認する
第13回	ラフマニノフの作品⑥ ・響きを作る。響きを聴く ・楽曲にふさわしい表現方法を考える	予習:各自の十分な練習、パートナーとの緻密な合わせ 復習:スケールの大きな演奏について考える
第14回	本科目の総括①(振り返り) ・試演会のリハーサル	パートナーとの最終確認
第15回	本科目の総括② ・試演会	各自、経験を通して理解したこと、実感したことを総括する

科目名(クラス)	アンサンブル[電子オルガン]Ⅰ・ⅡA	開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1・2
担当教員	峰村 知子	履修対象・条件	履修にあたっては相應の演奏技能が必要				
【授業の概要】							
電子オルガン(ステージA01C,02C)を使って、室内楽、フルオーケストラ、ビッグバンドなどの様々な様式のアンサンブルを実習します。							
【授業の到達目標】							
スコアリーディングを通して、楽曲構成やスタイルをアナリーゼでき、楽器の知識を得て奏法を鍵盤で表現できるようになる。							
【授業の「方法」と「形式」】							
実習							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
譜読みの時間を授業内でも取りますが、基本的には事前準備が必要。スコアはこちらで用意します。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
授業参加への意欲と準備。学期末定期試験(実習)と小論文。							
教科書	授業内で指示	著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)					
第1回	楽器の使い方と弦楽	初回は予習は必要ありません。復習はスコアから自分のパートを譜読みする事と、操作方法のメモなどを読み返しておく。					
第2回	弦楽アンサンブル	パートの譜読み。アーティキュレーション、ダイナクスなども含む譜読みをしておく。					
第3回	弦楽アンサンブル	パートの練習、弾きこみ。テンポの安定と他パートの音を聴きながらでも、自分の演奏表現ができるように復習。					

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	弦楽アンサンブル	三回までに学んだことを復習する。他パートの予習
第5回	金管アンサンブル	スコアのパートを譜読みし、操作法の復習
第6回	金管アンサンブル	パートの譜読み
第7回	金管アンサンブル	弾き込みと次曲の譜読み
第8回	ビッグバンドアレンジ曲	音源を聞く、スコアのアナリゼを予復習する
第9回	ビッグバンドアレンジ曲	レジストの作成、パートの譜読みを予復習する
第10回	ビッグバンドアレンジ曲	アドリブフレーズを聞く、パートの復習
第11回	ビッグバンドアレンジ曲	弾き込み、次曲の譜読み
第12回	オーケストラアレンジ曲	譜読みとアナリゼを予習
第13回	オーケストラアレンジ曲	パートの弾き込み、他パートの譜読みを予復習
第14回	オーケストラアレンジ曲	弾き込みとアナリゼを予復習
第15回	これまでの曲から二曲選曲し実習	まとめを小論文化する

科目名(クラス)	アンサンブル[電子オルガン]Ⅰ・ⅡB	開講学期	後期	単位数	各1	配当年次	1・2
担当教員	峰村 知子	履修対象・条件	履修にあたっては相応の演奏技能が必要				
【授業の概要】							
前期に学んだことを活かし、ジャンルの幅を広げ奏法を学ぶとともに、アンサンブルを実践していく。							
【授業の到達目標】							
様々なジャンルの特徴を理解し、演奏に反映できる。							
【授業の「方法」と「形式」】							
実習							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
譜読みなどをしてくること。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
授業参加への意欲。学年末試験(実習)と小論文。							
教科書	授業内で指示	著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)					
第1回	オリジナルアレンジ曲	譜読みと音源を聞く					
第2回	オリジナルアレンジ曲	パートの弾き込み、他パートの譜読み					
第3回	オリジナルアレンジ曲	弾き込み					

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	オリジナルアレンジ曲	次曲の譜読み
第5回	バンドスコア	譜読みとアナリーゼを予習
第6回	バンドスコア	弾き込み
第7回	バンドスコア	他パートの譜読み、自パートの弾き込み
第8回	バンドスコア	弾き込み、次曲の譜読み
第9回	オーケストラスコア	音源を聞く、全体のアナリーゼ
第10回	オーケストラスコア	各パートのレジスト作成、パートの譜読み、弾き込み
第11回	オーケストラスコア	パートの弾き込み、移調楽器を読んでおく
第12回	オーケストラスコア	アナリーゼと各楽器の奏法を予復習、弾き込み
第13回	オーケストラスコア	曲全体の理解をし、指示が出せるよう予習、復習
第14回	オーケストラスコア	弾き込みとまとめ
第15回	本科目の総括(振り返り)	実習と小論文作成

科目名(クラス)	アンサンブル[管弦打]Ⅰ・ⅡA	開講学期	前期	単位数	各 1	配当年次	1・2
担当教員	澤 敦	履修対象・条件	履修にあたっては相応の演奏技能が必要				
【授業の概要】							
アンサンブルの楽しさを感じるとともに、各自の合奏能力を向上させる。							
【授業の到達目標】							
アンサンブルの現場で求められる能力をしっかりと身に付ける。 また、効果的な様々な「コツ」や「芸」を覚える。							
【授業の「方法」と「形式」】							
基本的に合奏形態で行う。							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
常に自分の目標や意欲をしっかり保って参加して欲しい。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
各自の参加意欲と学習成果などを総合的に見て評価する。							
教科書	全てこちらで準備します。	著者等		出版社			
教科書	全てこちらで準備します。	著者等		出版社			
参考文献	全てこちらで準備します。	著者等		出版社			
参考文献	全てこちらで準備します。	著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	顔合わせ(チーム作り)						
第2回	全体合奏(基本)1			・今回の見直し ・次回の譜読み			
第3回	全体合奏(基本)2			・今回の見直し ・次回の譜読み			

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	小編成 1	・今回の見直し ・次回の譜読み
第5回	小編成 2	・今回の見直し ・次回の譜読み
第6回	小編成 3	・今回の見直し ・次回の譜読み
第7回	小編成発表会と全体合奏	・今回の見直し ・次回の譜読み
第8回	全体合奏 3	・今回の見直し ・次回の譜読み
第9回	全体合奏 4	・今回の見直し ・次回の譜読み
第10回	発表会の曲決め 1	・今回の見直し ・次回の譜読み
第11回	発表会の曲決め 2	・今回の見直し ・次回の譜読み
第12回	発表会へ向けての準備 1	・今回の見直し ・次回の譜読み
第13回	発表会へ向けての準備 2	・今回の見直し ・次回の譜読み
第14回	発表会へ向けての準備 3	・今回の見直し ・次回の譜読み
第15回	発表会	・今回の見直し ・次回の譜読み

科目名(クラス)	アンサンブル[管弦打]Ⅰ・ⅡB	開講学期	後期	単位数	各 1	配当年次	1・2
担当教員	澤 敦	履修対象・条件	履修にあたっては相応の演奏技能が必要				
【授業の概要】							
アンサンブル伴奏によつてのソロを経験する。その際に伴奏に各自で指示を出し、自分の表現を完成させることを学ぶ。							
【授業の到達目標】							
小編成、全体合奏、その他いろいろなアンサンブルの現場で全体を仕切れる力を身につけられることを目標とする。							
【授業の「方法」と「形式」】							
前期と同様							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
前期と同様							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
前期と同様							
教科書	全てこちらで用意します	著者等		出版社			
教科書	全てこちらで用意します	著者等		出版社			
参考文献	全てこちらで用意します	著者等		出版社			
参考文献	全てこちらで用意します	著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	コラール 1			・今回の見直し ・次回の譜読み			
第2回	コラール 2			・今回の見直し ・次回の譜読み			
第3回	ソロ(アンサンブルで伴奏)1			・今回の見直し ・次回の譜読み			

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	ソロ(アンサンブルで伴奏)2	・今回の見直し ・次回の譜読み
第5回	ソロ(アンサンブルで伴奏)3	・今回の見直し ・次回の譜読み
第6回	ソロ(アンサンブルで伴奏)4	・今回の見直し ・次回の譜読み
第7回	全体合奏 1	・今回の見直し ・次回の譜読み
第8回	全体合奏 2	・今回の見直し ・次回の譜読み
第9回	全体合奏 3	・今回の見直し ・次回の譜読み
第10回	発表会の曲決め1	・今回の見直し ・次回の譜読み
第11回	発表会の曲決め2	・今回の見直し ・次回の譜読み
第12回	発表会に向けての準備1	・今回の見直し ・次回の譜読み
第13回	発表会に向けての準備2	・今回の見直し ・次回の譜読み
第14回	発表会に向けての準備3	・今回の見直し ・次回の譜読み
第15回	発表会と反省会	

科目名(クラス)	即興演奏		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	横山 裕美子	履修対象・条件						
【授業の概要】								
ヤマハやカワイの演奏グレードに役立つ即興演奏の技術を習得します。弾きっぱなしにせず、楽譜に記譜することによって、自分のアイデアを確認して発展させていく方法を学んでいきます。								
【授業の到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> 適切な伴奏付け・変奏を即興的に演奏でき記譜することができる。 短いモチーフを発展させて、即興で小品にまとめて演奏・記譜することができる。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
テキストとプリントを使い、ピアノを使って実習します。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
ピアノを弾いて1つでも多くの課題をこなし、経験を積んでいくことが上達への鍵です。積極的に取り組みましょう。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
授業内実技課題(30%) 学期末実技試験(70%)								
教科書	ピアノ即興演奏法(改訂版)	著者等	岩間稔	出版社	ヤマハ音楽振興会			
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	基本的な和音の配置と連結			予習:テキスト「鍵盤和声Ⅰ」の[2]までを読む。譜例を弾いておく。 復習:学習した課題を見直し、ピアノで弾く。				
第2回	メロディ(8小節)に伴奏をつける①(密集配置)			予習:テキスト「鍵盤和声Ⅰ」の[3]を読む。譜例を弾いておく。 復習:学習した課題を見直し、ピアノで弾く。				
第3回	メロディ(8小節)に伴奏をつける②(密集配置)			予習:テキスト「鍵盤和声Ⅰ」の[4]を読む。譜例を弾いておく。 復習:学習した課題を見直し、ピアノで弾く。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	メロディ(8小節)に伴奏をつける③(密集配置)	予習:テキスト「鍵盤和声Ⅰ」の[5]を読む。 譜例を弾いておく。 復習:学習した課題を見直し、ピアノで弾く。
第5回	メロディ(8小節)に伴奏をつける④(開離配置)	予習:テキスト「鍵盤和声Ⅰ」の[6]を読む。 譜例を弾いておく。 復習:学習した課題を見直し、ピアノで弾く。
第6回	メロディ(16小節)に伴奏をつける①(副属和音の使用)	予習:テキスト「鍵盤和声Ⅰ」の[7]を読む。 譜例を弾いておく。 復習:学習した課題を見直し、ピアノで弾く。
第7回	メロディ(16小節)に伴奏をつける②(副属和音の使用)	同上
第8回	変奏の技法実習① メロディ音型の変化	予習:テキスト「変奏Ⅰ」の[1]を読む。譜例を弾いておく。 復習:学習した課題を見直し、ピアノで弾く。
第9回	変奏の技法実習② メロディ音型の変化	予習:テキスト「変奏Ⅰ」の[2]を読む。譜例を弾いておく。 復習:学習した課題を見直し、ピアノで弾く。
第10回	変奏の技法実習③ メロディ音型の変化	予習:テキスト「変奏Ⅰ」の[3]を読む。譜例を弾いておく。 復習:学習した課題を見直し、ピアノで弾く。
第11回	モチーフ即興①(8小節)	予習:テキスト「モチーフ即興Ⅰ」の[1]を読む。譜例を弾いておく。 復習:学習した課題を見直し、ピアノで弾く。
第12回	モチーフ即興②(16小節)	予習:テキスト「モチーフ即興Ⅰ」の[2]を読む。譜例を弾いておく。 復習:学習した課題を見直し、ピアノで弾く。
第13回	総復習①	予習:テキストいままでのところを読み直す。 譜例を弾いておく。 復習:学習した課題を見直し、ピアノで弾く。
第14回	総復習②	同上
第15回	本科目の総括	同上

科目名(クラス)	電子オルガン即興演奏 I・II A	開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1・2
担当教員	長野 洋二	履修対象・条件	電子オルガンコースは必修。 他専攻生が履修する場合は相応の演奏技能が必要。				
【授業の概要】							
スケール・カデンツ、コードのトレーニングを通して音楽の基礎力、指導者に必要な即興力を身につけます。							
【授業の到達目標】							
1段譜の課題の編曲を即興で演奏することができる。スケール・カデンツ、基本コードを把握する。							
【授業の「方法」と「形式」】							
実習形式 課題をエレクトーンで演奏します。							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
毎回課題が出ます。エレクトーンでの練習が必要です。遅刻、途中退室は原則認めません。ヘッドフォンが必要です。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
授業への参加度50%、実技試験50%							
教科書	エレクトーン演奏グレード5～3級新即興演奏課題集	著者等	島田義夫	出版社	ヤマハ		
教科書	エレクトーン・コード・トレーニング・ブック	著者等		出版社	ヤマハ		
参考文献	エレクトーン・スケール・カデンツ・ブック	著者等		出版社	ヤマハ		
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)					
第1回	楽典、スケール・カデンツとコードの仕組み①	予習：# ♭ 3つまでの調のスケール・カデンツが弾けるようにしておく。					
第2回	楽典、スケール・カデンツとコードの仕組み②	復習：スケール・カデンツ、コードトレーニング					
第3回	楽典、スケール・カデンツとコードの仕組み③	復習：スケール・カデンツ、コードトレーニング					

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	スケール・カデンツ、コードトレーニング、一段譜の即興演奏	復習:スケール・カデンツ、コードトレーニング、課題を弾けるようにしておく。
第5回	スケール・カデンツ、コードトレーニング、一段譜の即興演奏	復習:スケール・カデンツ、コードトレーニング、課題を弾けるようにしておく。
第6回	スケール・カデンツ、コードトレーニング、一段譜の即興演奏	復習:スケール・カデンツ、コードトレーニング、課題を弾けるようにしておく。
第7回	スケール・カデンツ、コードトレーニング、一段譜の即興演奏	復習:スケール・カデンツ、コードトレーニング、課題を弾けるようにしておく。
第8回	スケール・カデンツ、コードトレーニング、一段譜の即興演奏	復習:スケール・カデンツ、コードトレーニング、課題を弾けるようにしておく。
第9回	スケール・カデンツ、コードトレーニング、一段譜の即興演奏	復習:スケール・カデンツ、コードトレーニング、課題を弾けるようにしておく。
第10回	スケール・カデンツ、コードトレーニング、一段譜の即興演奏	復習:スケール・カデンツ、コードトレーニング、課題を弾けるようにしておく。
第11回	スケール・カデンツ、コードトレーニング、一段譜の即興演奏	復習:スケール・カデンツ、コードトレーニング、課題を弾けるようにしておく。
第12回	スケール・カデンツ、コードトレーニング、一段譜の即興演奏	復習:スケール・カデンツ、コードトレーニング、課題を弾けるようにしておく。
第13回	スケール・カデンツ、コードトレーニング、一段譜の即興演奏	復習:スケール・カデンツ、コードトレーニング、課題を弾けるようにしておく。
第14回	スケール・カデンツ、コードトレーニング、一段譜の即興演奏	復習:スケール・カデンツ、コードトレーニング、課題を弾けるようにしておく。
第15回	スケール・カデンツ、コードトレーニング、一段譜の即興演奏	復習:スケール・カデンツ、コードトレーニング、課題を弾けるようにしておく。

科目名(クラス)	電子オルガン即興演奏 I・II B	開講学期	後期	単位数	各1	配当年次	1・2
担当教員	長野 洋二	履修対象・条件	電子オルガンコースは必修。 他専攻生が履修する場合は相応の演奏技能が必要。				
【授業の概要】							
前期の応用と発展。1段譜とモチーフ課題を数多く実習し即興力を高める。スケール・カデンツ、コードのトレーニング。							
【授業の到達目標】							
1段譜の課題の編曲、モチーフ課題を即興で演奏することができる。スケール・カデンツ、テンションコードを把握する。							
【授業の「方法」と「形式】							
実習形式 課題をエレクトーンで演奏します。							
【履修時の「留意点」と「心得】							
毎回課題が出ます。エレクトーンでの練習が必要です。遅刻、途中退室は原則認めません。ヘッドフォンが必要です。							
【成績評価の「方法」と「基準】							
授業への参加度50%、実技試験50%							
教科書	エレクトーン演奏グレード5～3級新即興演奏課題集	著者等	島田義夫	出版社	ヤマハ		
教科書	エレクトーン・コード・トレーニング・ブック	著者等		出版社	ヤマハ		
参考文献	エレクトーン・スケール・カデンツ・ブック	著者等		出版社	ヤマハ		
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	スケール・カデンツ、コードトレーニング、モチーフ即興演奏			予習: 前期最後のスケール・カデンツ、コードトレーニング、課題を弾けるようにしておく。			
第2回	スケール・カデンツ、コードトレーニング、モチーフ即興演奏			復習: スケール・カデンツ、コードトレーニング、課題を弾けるようにしておく。			
第3回	スケール・カデンツ、コードトレーニング、モチーフ即興演奏			復習: スケール・カデンツ、コードトレーニング、課題を弾けるようにしておく。			

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	スケール・カデンツ、コードトレーニング、モチーフ即興演奏	復習:スケール・カデンツ、コードトレーニング、課題を弾けるようにしておく。
第5回	スケール・カデンツ、コードトレーニング、モチーフ即興演奏	復習:スケール・カデンツ、コードトレーニング、課題を弾けるようにしておく。
第6回	スケール・カデンツ、コードトレーニング、モチーフ即興演奏	復習:スケール・カデンツ、コードトレーニング、課題を弾けるようにしておく。
第7回	スケール・カデンツ、コードトレーニング、モチーフ即興演奏、一段譜の即興演奏	復習:スケール・カデンツ、コードトレーニング、課題を弾けるようにしておく。
第8回	スケール・カデンツ、コードトレーニング、モチーフ即興演奏、一段譜の即興演奏	復習:スケール・カデンツ、コードトレーニング、課題を弾けるようにしておく。
第9回	スケール・カデンツ、コードトレーニング、モチーフ即興演奏、一段譜の即興演奏	復習:スケール・カデンツ、コードトレーニング、課題を弾けるようにしておく。
第10回	スケール・カデンツ、コードトレーニング、モチーフ即興演奏、一段譜の即興演奏	復習:スケール・カデンツ、コードトレーニング、課題を弾けるようにしておく。
第11回	スケール・カデンツ、コードトレーニング、モチーフ即興演奏、一段譜の即興演奏	復習:スケール・カデンツ、コードトレーニング、課題を弾けるようにしておく。
第12回	スケール・カデンツ、コードトレーニング、モチーフ即興演奏、一段譜の即興演奏	復習:スケール・カデンツ、コードトレーニング、課題を弾けるようにしておく。
第13回	スケール・カデンツ、コードトレーニング、モチーフ即興演奏、一段譜の即興演奏	復習:スケール・カデンツ、コードトレーニング、課題を弾けるようにしておく。
第14回	スケール・カデンツ、コードトレーニング、モチーフ即興演奏、一段譜の即興演奏	復習:スケール・カデンツ、コードトレーニング、課題を弾けるようにしておく。
第15回	総括	

科目名(クラス)	合唱Ⅰ・ⅡA		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1・2
担当教員	荻久保 和明	履修対象・条件	Ⅰは全専攻必修、Ⅱは選択。社会人はⅠ・Ⅱ選択					
【授業の概要】								
<p>・合唱という音楽表現形態の中で音楽する喜びを追求する。正しいヴォイストレーニングによってハーモニーし得る声という楽器を作り、音取り、パート練習、アンサンブルという流れの中で合唱でなければ表現できない音楽的美しさを体験する。</p>								
【授業の到達目標】								
<p>・ひびきの高いポジションでかがやかしいハーモニーを作り、パート間とエレクトーンの間でバランスを取り、さらに音色を変化させることにより音楽のあるべき姿を追求する。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】								
<p>・体操、ヴォイストレーニング、音取り、パート練習、アンサンブル、これにつきる</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<p>・指揮者がひとたび”表現する”というゾーンに入った時には異常な緊張をもって指揮をみること</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<p>・合唱完成への努力目標達成度(40%) ・声作りの努力目標達成度(30%) ・アンサンブル能力の向上達成度(30%)</p>								
教科書	女性合唱組曲「フランチェスコ」	著者等	荻久保和明	出版社	音楽之友社			
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	パート分け、体操の仕方、ヴォイストレーニングの方法、その他のオリエンテーション							
第2回	ヴォイストレーニングと音取り・アンサンブル			各自、できるだけ自分のパートを良く歌ってこ				
第3回	"			"				

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	〃	〃
第5回	〃	〃
第6回	〃	〃
第7回	〃	〃
第8回	〃	〃
第9回	〃	〃
第10回	〃	〃
第11回	ピアノ伴奏とのアンサンブル	〃
第12回	〃	〃
第13回	〃	〃
第14回	〃	〃
第15回	まとめ、全体を通して授業をふり返る	〃

科目名(クラス)	合唱 I・II B		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1・2
担当教員	荻久保 和明	履修対象・条件	I は全専攻必修、II は選択。社会人は I・II 選択					
【授業の概要】								
<p>・合唱 I・II A(前期)の練習を踏まえて定期演奏会での研究成果発表に臨む。つまり、合唱表現とは指揮者の内面にどれだけ大きく強い何かがあり、それを正しく歌う者に伝え、聞く者に届け、そこに感動という形で確かなものを実現することができるかということにつくる。</p>								
【授業の到達目標】								
<p>・各自、自分のパートを歌いながら、エレクトーンやピアノの音に耳を聞き、音楽を立体的に捉えることを心がけたい。 ・指揮者の求める表現するものの大きさを理解し、共に音楽する喜びをわかち合いたい。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】								
<p>・アンサンブルの精度をひたすら高め、ピアノ、エレクトーンとの共同作業を進めて行く</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<p>・演奏会本番に向けて緊張感を高めて行く過程を、音楽の高みを目指すプロセスを楽しんで欲しい</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<p>・ピアノ、エレクトーンとの共同作業達成度(30%) ・表現のための声作り達成度(30%) ・演奏会へ向けて合唱完成への達成度(40%)</p>								
教科書	女性合唱組曲「フランチェスコ」	著者等	荻久保和明	出版社	音楽之友社			
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	ヴォイストレーニング、アンサンブルの精度を高めピアノ、エレクトーンとの共同作業を意識する			自分のパートの音取りとイメージをすること				
第2回	"			"				
第3回	"			"				

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	"	"
第5回	"	"
第6回	"	"
第7回	"	"
第8回	"	"
第9回	"	"
第10回	定期演奏会での発表	"
第11回	反省会	1人1人感想を発表する
第12回	次年度に向けての練習	自分のパートの音取りをしていくこと
第13回	"	"
第14回	"	"
第15回	まとめ、今年度の授業をふり返る	

科目名 演奏演習	
【授業計画の概要】	
この授業は、10月に行う沖縄県の小学校での音楽教室を全員でプロデュースし、演奏会を作り上げてゆく実践的なものである。	
【授業の到達目標】	
目標は当然演奏会の成功です。しかし、それかそれ以上に重要なのは、各自の独自性、自主性、協調性、社会性などを養うことにあります。	
【成績評価の方法】	
参加意欲をはじめ、目標にあげたような内容についても評価の対象にします。	
【授業計画の内容】	
月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏会の内容決め。 ・各係りの決定。 ・本番までの予定を立てる。など
5	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・各演目についての練習。 ・随時見直しをし、改善していく。など
7	
9	<ul style="list-style-type: none"> ・通しげいこ ・段取りの見直し。など
10	<ul style="list-style-type: none"> ・出発式 ・卒業演奏旅行
11	
12	
1	
2	
3	

科目名(クラス)	ソルフェージュ1-a		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	新井 雅之	履修対象・条件	全専攻必修(社会人は選択)					
【授業の概要】								
音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、複旋律、3~4声と音および和声、音や表現の違い等)、伴奏付旋律の暗譜唱、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等その他。								
【授業の到達目標】								
楽譜を的確に読み取り、かつ迅速に歌唱や演奏に反映できることを目指す。また、歌唱や演奏の音を、楽譜に正確、かつ迅速に記譜できることを目指す。								
【授業の「方法」と「形式】								
ソルフェージュに該当する総での訓練を実技中心にクラス全体および個別に行う。								
【履修時の「留意点」と「心得】								
積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。								
【成績評価の「方法」と「基準】								
聴音、暗譜唱、新曲視唱の実技試験有り。(100%評価)原則としてクラス毎に行う。								
教科書	美しい新曲課題集	著者等	井上淳司 荻久保和明 片柳英男 加茂下裕 小島佳男 松岡俊克 共著	出版社	音楽之友社			
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	・聴音(単旋律・二声旋律・3和音)・視唱(音程練習)・テキストNo1~5(♯♭1つまでの調を中心とした聴音課題を書きとる。基本的な音程を読みとる。テキスト曲を正確に、美しく歌う)			予習:テキストの曲に目を通し、歌っておく。復習:授業で演習した課題を見直す。 所要時間20分程度				
第2回	・聴音(単旋律・二声旋律・3和音)・視唱(音程練習)・テキストNo 6~10(♯♭1つまでの調を中心とした聴音課題を書きとる。基本的な音程を読みとる。テキスト曲を正確に、美しく歌う)			同上				
第3回	・聴音(単旋律・二声旋律・3和音)・視唱(音程練習)・テキストNo11~15(♯♭1つまでの調を中心とした聴音課題を書きとる。基本的な音程を読みとる。テキスト曲を正確に、美しく歌う)			同上				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	聴音(単旋律・二声旋律・三声和音)・新曲視唱・テキストNo16~20(♯♭1つまでの調を中心とした聴音課題を書きとる。基本的な音程を読みとる。テキスト曲を正確に、美しく歌う)	同上
第5回	・聴音(単旋律・二声旋律・三声和音)・新曲視唱 ・テキストNo21~25(♯♭1つまでの調を中心とした聴音課題を書きとる。基本的な音程を読みとる。テキスト曲を正確に、美しく歌う)	同上
第6回	・聴音(単旋律・二声旋律・三声和音)・新曲視唱・テキストNo26~30(♯♭1つまでの調を中心とした聴音課題を書きとる。基本的な音程を読みとる。テキスト曲を正確に、美しく歌う)	同上
第7回	・聴音(単旋律・二声旋律・三声和音)・新曲視唱・テキストNo31~35(♯♭1つまでの調を中心とした聴音課題を書きとる。基本的な音程を読みとる。テキスト曲を正確に、美しく歌う)	同上
第8回	・聴音(単旋律・二声旋律・三声和音)・新曲視唱・テキストNo36~40(♯♭1つまでの調を中心とした聴音課題を書きとる。基本的な音程を読みとる。テキスト曲を正確に、美しく歌う)	同上
第9回	・聴音(単旋律・二声旋律・三声和音)・新曲視唱・テキストNo41~45(♯♭1つまでの調を中心とした聴音課題を書きとる。基本的な音程を読みとる。テキスト曲を正確に、美しく歌う)	同上
第10回	・聴音(単旋律・二声旋律・三声和音)・新曲視唱・テキストNo46~50(♯♭1つまでの調を中心とした聴音課題を書きとる。基本的な音程を読みとる。テキスト曲を正確に、美しく歌う)	同上
第11回	・聴音(単旋律・二声旋律・三声和音)・新曲視唱・テキスト選択曲暗譜唱(♯♭1つまでの調を中心とした聴音課題を書きとる。基本的な音程を読みとる。テキスト曲を正確に、美しく歌う)	予習復習:テキストいままでのところを見直す。テキスト(50まで)から3曲選択し暗譜唱ができるようにしておく。所要時間20分程度
第12回	・聴音(単旋律・二声旋律・三声和音)・新曲視唱・テキスト選択曲暗譜唱(♯♭1つまでの調を中心とした聴音課題を書きとる。基本的な音程を読みとる。テキスト曲を正確に、美しく歌う)	同上
第13回	本科目の総括(本科目で演習してきた聴音書きとり・新曲視唱・暗譜唱を迅速かつ正確に)	同上
第14回	本科目の総括(本科目で演習してきた聴音書きとり・新曲視唱・暗譜唱を迅速かつ正確に)	同上
第15回	本科目の総括(本科目で演習してきた聴音書きとり・新曲視唱・暗譜唱を迅速かつ正確に)	同上

科目名(クラス)	ソルフェージュ1ーb		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	横山 裕美子	履修対象・条件	全専攻必修(社会人は選択)					
【授業の概要】								
音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確にできるようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。 新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、複旋律、3～4和音および和声体、音や表現の違い等)、伴奏付旋律の暗譜唱、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等その他。								
【授業の到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> ・調号1～2つまでの調を中心とした聴音課題が書きとれる。 ・リズム・音程が複雑な旋律を読みとり、歌うことができる。 ・テキスト曲を正確に美しく歌え、暗譜唱ができる。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
ソルフェージュに該当する総ての訓練を実技中心にクラス全体および個別に行う。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
聴音、暗譜唱、新曲視唱の実技試験有り。(100%)原則としてクラス毎に行う。								
教科書	美しい新曲課題集	著者等	井上淳司、荻久保和明、片柳英男、加茂下裕、小島佳男、松岡俊克 共著	出版社	音楽之友社			
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	事前に聴音によるクラス試験を行い、グレード別に授業。 ・聴音(単旋律・二声・三声体・記憶聴音) ・視唱(音程練習) ・テキスト歌唱(No.1～5)			予習:テキストの次回予定の曲に目を通し、歌っておく。 復習:学習した課題を歌う、ピアノで弾く、もう一度書き直す。				
第2回	・聴音(単旋律・二声・三声体・記憶聴音) ・視唱(音程練習) ・テキスト歌唱(No.6～10)			同上				
第3回	・聴音(単旋律・二声・三声体・記憶聴音) ・視唱(音程練習) ・テキスト歌唱(No.11～15)			同上				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	・聴音(単旋律・二声・三声体・記憶聴音) ・新曲視唱 ・テキスト歌唱(No.16～20)	同上
第5回	・聴音(単旋律・二声・三声体・記憶聴音) ・新曲視唱 ・テキスト歌唱(No.21～25)	同上
第6回	・聴音(単旋律・二声・三～四声体・記憶聴音) ・新曲視唱 ・テキスト歌唱(No.26～30)	同上
第7回	・聴音(単旋律・二声・三～四声体・記憶聴音) ・新曲視唱 ・テキスト歌唱(No.31～35)	同上
第8回	・聴音(単旋律・二声・三～四声体・記憶聴音) ・新曲視唱 ・テキスト歌唱(No.36～40)	同上
第9回	・聴音(単旋律・二声・三～四声体・記憶聴音) ・新曲視唱 ・テキスト歌唱(No.41～45)	同上
第10回	・聴音(単旋律・二声・三～四声体・記憶聴音) ・新曲視唱 ・テキスト歌唱(No.46～50)	同上
第11回	・聴音(単旋律・二声・三～四声体・記憶聴音) ・新曲視唱 ・テキスト選択曲暗譜唱	予習:テキスト選択曲を暗譜する。 復習:学習した課題を歌う、ピアノで弾く、もう一度書き直す。
第12回	同上	同上
第13回	本科目の総括	同上
第14回	同上	同上
第15回	同上	同上

科目名(クラス)	ソルフェージュ1ーc		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	井上 淳司	履修対象・条件	全専攻必修(社会人は選択)					
【授業の概要】								
音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。 新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、複旋律、3～4声と音および和声、音や表現の違い等)、伴奏付旋律の暗譜唱、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等その他。								
【授業の到達目標】								
基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、主要三和音中心の書き取り、読み取り、視唱。								
【授業の「方法」と「形式」】								
ソルフェージュに該当する総ての訓練を実技中心にクラス全体および個別に行う。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
聴音、暗譜唱、新曲視唱の実技試験有り。(100%)原則としてクラス毎に行う。								
教科書	美しい新曲課題集	著者等	井上淳司 荻久保和明 片柳英男 加茂下裕 小島佳男 松岡俊克 共著	出版社	音楽之友社			
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.1～4)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技			学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。				
第2回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.5～8)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技			学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。				
第3回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.9～12)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技			学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.13~16)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第5回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.17~20)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第6回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.21~24)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第7回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(No.25 ~28)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第8回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(No.29 ~32)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第9回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.33~36)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第10回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.37~40)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第11回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.41~43)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第12回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.44~45)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第13回	まとめ	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第14回	まとめ	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第15回	まとめ	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。

科目名(クラス)	ソルフェージュ2ーa		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	新井 雅之	履修対象・条件	全専攻必修(社会人は選択)					
【授業の概要】								
音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、複旋律、3~4声と音および和声、音や表現の違い等)、伴奏付旋律の暗譜唱、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等その他。								
【授業の到達目標】								
楽譜を的確に読み取り、かつ迅速に歌唱や演奏に反映できることを目指す。また、歌唱や演奏の音を、楽譜に正確、かつ迅速に記譜できることを目指す。								
【授業の「方法」と「形式】								
ソルフェージュに該当する総ての訓練を実技中心にクラス全体および個別に行う。								
【履修時の「留意点」と「心得】								
積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。								
【成績評価の「方法」と「基準】								
聴音、暗譜唱、新曲視唱の実技試験有り。(100%評価)原則としてクラス毎に行う。								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	後期のクラスは、前期の成績をもとに再構成。・聴音(単・二声旋律・三声と和声、前期の復習)・新曲リズム ・テキストNo51~54(♯♭1つまでの調の聴音課題を「書き」とる。様々なリズムを理解し、リズム打ちする。テキスト曲を正確に、美しく歌う)			予習:テキストの曲に目を通し、歌っておく。復習:授業で演習した課題を見直す。所要時間30分程度				
第2回	・聴音(リズム・音程がより複雑な単・二声旋律・三声~後半四声と和声) ・新曲リズム ・テキストNo55~59(♯♭2つ以上の調の聴音課題を「書き」とる。様々なリズムを理解し、リズム打ちする。テキスト曲を正確に、美しく歌う)			同上				
第3回	・聴音(リズム・音程がより複雑な単・二声旋律・三声~後半四声と和声) ・新曲リズム ・テキストNo60~63(♯♭2つ以上の調の聴音課題を「書き」とる。様々なリズムを理解し、リズム打ちする。テキスト曲を正確に、美しく歌う)			同上				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	・聴音(リズム・音程がより複雑な単・二声旋律・三声~後半四声和声) ・新曲リズム ・テキストNo64~67(♯♭2つ以上の調の聴音課題を「書き」とる。様々なリズムを理解し、リズム打ちする。テキスト曲を正確に、美しく歌う)	同上
第5回	・聴音(リズム・音程がより複雑な単・二声旋律・三声~後半四声和声) ・新曲リズム ・テキストNo68~71(♯♭2つ以上の調の聴音課題を「書き」とる。様々なリズムを理解し、リズム打ちする。テキスト曲を正確に、美しく歌う)	同上
第6回	・聴音(リズム・音程がより複雑な単・二声旋律・三声~後半四声和声) ・新曲リズム ・テキストNo72~75(♯♭2つ以上の調の聴音課題を「書き」とる。様々なリズムを理解し、リズム打ちする。テキスト曲を正確に、美しく歌う)	同上
第7回	・聴音(リズム・音程がより複雑な単・二声旋律・三声~後半四声和声) ・新曲リズム ・テキストNo76~79(♯♭2つ以上の調の聴音課題を「書き」とる。様々なリズムを理解し、リズム打ちする。テキスト曲を正確に、美しく歌う)	同上
第8回	・聴音(リズム・音程がより複雑な単・二声旋律・三声~後半四声和声) ・新曲リズム ・テキストNo80~83(♯♭2つ以上の調の聴音課題を「書き」とる。様々なリズムを理解し、リズム打ちする。テキスト曲を正確に、美しく歌う)	同上
第9回	・聴音(リズム・音程がより複雑な単・二声旋律・三声~後半四声和声) ・新曲リズム ・テキストNo84~87(♯♭2つ以上の調の聴音課題を「書き」とる。様々なリズムを理解し、リズム打ちする。テキスト曲を正確に、美しく歌う)	同上
第10回	・聴音(リズム・音程がより複雑な単・二声旋律・三声~後半四声和声) ・新曲リズム ・テキストNo88~90(♯♭2つ以上の調の聴音課題を「書き」とる。様々なリズムを理解し、リズム打ちする。テキスト曲を正確に、美しく歌う)	同上
第11回	聴音(リズム・音程がより複雑な単・二声旋律・三声~後半四声和声) ・新曲リズム ・テキスト選択曲暗譜唱(♯♭2つ以上の調の聴音課題を「書き」とる。様々なリズムを理解し、リズム打ちする。テキスト曲を正確に、美しく歌う)	予習復習:テキスト(No51~90まで)から3曲選択し、暗譜唱ができるようにしておく。所要時間20分程度
第12回	・聴音(リズム・音程がより複雑な単・二声旋律・三声~後半四声和声) ・新曲リズム ・テキスト選択曲暗譜唱(♯♭2つ以上の調の聴音課題を「書き」とる。様々なリズムを理解し、リズム打ちする。テキスト曲を正確に、美しく歌う)	同上
第13回	本科目の総括	予習として本科目で演習してきた聴音書きとり・新曲リズム・暗譜唱が迅速にかつ正確に出来るよう振り返って確かめる。所要時間20分
第14回	同上	同上
第15回	同上	同上

科目名(クラス)	ソルフェージュ2ーb		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	横山 裕美子	履修対象・条件	全専攻必修(社会人は選択)					
【授業の概要】								
音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて、かつ正確にできるようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。 新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、複旋律、3～4和音および和声体、音や表現の違い等)、伴奏付旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等その他。								
【授業の到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> ・調号1～2つまでの調を中心とした聴音課題が書きとれる。 ・複雑なリズムを読みとり、正確に早く打つことができる。 ・テキスト曲を正確に美しく歌え、暗譜唱ができる。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
ソルフェージュに該当する総ての訓練を実技中心にクラス全体および個別に行う。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
聴音、暗譜唱、新曲リズム打ちの実技試験有り。(100%)原則としてクラス毎に行う。								
教科書	美しい新曲課題集	著者等	井上淳司、荻久保和明、片柳英男、加茂下裕、小島佳男、松岡俊克 共著	出版社	音楽之友社			
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	後期のクラスは、前期の成績を基に再構成。 ・聴音(単旋律・二声・三～四声体・記憶聴音) ・新曲リズム ・テキスト歌唱(No.51～54)			予習:テキストの次回予定の曲に目を通し、歌っておく。 復習:学習した課題を歌う、ピアノで弾く、もう一度書き直す。リズム打ちをゆっくり復習する。				
第2回	・聴音(単旋律・二声・三～四声体・記憶聴音) ・新曲リズム ・テキスト歌唱(No.55～59)			同上				
第3回	・聴音(単旋律・二声・三～四声体・記憶聴音) ・新曲リズム ・テキスト歌唱(No.60～63)			同上				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	・聴音(単旋律・二声・三～四声体・記憶聴音) ・新曲リズム ・テキスト歌唱(No.64～67)	同上
第5回	・聴音(単旋律・二声・三～四声体・記憶聴音) ・新曲リズム ・テキスト歌唱(No.68～71)	同上
第6回	・聴音(単旋律・二声・三～四声体・記憶聴音) ・新曲リズム ・テキスト歌唱(No.72～75)	同上
第7回	・聴音(単旋律・二声・三～四声体・記憶聴音) ・新曲リズム ・テキスト歌唱(No.76～79)	同上
第8回	・聴音(単旋律・二声・三～四声体・記憶聴音) ・新曲リズム ・テキスト歌唱(No.80～83)	同上
第9回	・聴音(単旋律・二声・三～四声体・記憶聴音) ・新曲リズム ・テキスト歌唱(No.84～87)	同上
第10回	・聴音(単旋律・二声・三～四声体・記憶聴音) ・新曲リズム ・テキスト歌唱(No.88～90)	同上
第11回	・聴音(単旋律・二声・三～四声体・記憶聴音) ・新曲リズム ・テキスト選択曲暗譜唱	予習:テキスト選択曲を暗譜する。 復習:学習した課題を歌う、ピアノで弾く、もう一度書き直す。リズム打ちをゆっくり復習する。
第12回	同上	同上
第13回	本科目の総括	同上
第14回	同上	同上
第15回	同上	同上

科目名(クラス)	ソルフェージュ2-c		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	井上 淳司	履修対象・条件	全専攻必修(社会人は選択)					
【授業の概要】								
<p>“音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。 新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、複旋律、3～4声と音および和声、音や表現の違い等)、伴奏付旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等その他。”</p>								
【授業の到達目標】								
<p>基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、主要三和音中心の書き取り、読み取り、視唱。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】								
<p>ソルフェージュに該当する総ての訓練を実技中心にクラス全体および個別に行う。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<p>積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<p>聴音、暗譜唱、新曲リズム打ちの実技試験有り。(100%)原則としてクラス毎に行う。</p>								
教科書	美しい新曲課題集	著者等	井上淳司 荻久保和明 片柳英男 加茂下裕 小島佳男 松岡俊克 共著	出版社	音楽之友社			
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.46～49)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技			学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。				
第2回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.50～53)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技			学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。				
第3回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.54～57)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技			学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.58～61)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第5回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.62～65)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第6回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.66～69)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第7回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.70～73)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第8回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.74～77)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第9回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.78～81)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第10回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.82～85)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第11回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.86～88)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第12回	聴音(単旋律、二声、三和音等)、美しい新曲課題集(No.89～90)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第13回	まとめ	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第14回	まとめ	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第15回	まとめ	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。

科目名(クラス)	ソルフェージュ3-a		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	横山 裕美子	履修対象・条件						
【授業の概要】								
音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確にできるようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。 新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、複旋律、3～4和音および和声体、音や表現の違い等)、伴奏付旋律の暗譜唱、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等その他。								
【授業の到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> ・調号が2つ程度の聴音課題を正確に速く書きとれる。 ・変化記号の多い音程を読みとり、正確に歌うことができる。 ・テキスト曲を正確に表情豊かに弾き歌いができる。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
ソルフェージュに該当する総ての訓練を実技中心にクラス全体および個別に行う。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
聴音、弾き歌い、新曲視唱の実技試験有り。(100%)原則としてクラス毎に行う。								
教科書	美しい新曲課題集	著者等	井上淳司、荻久保和明、片柳英男、加茂下裕、小島佳男、松岡俊克 共著	出版社	音楽之友社			
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	聴音によるクラス分け試験							
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・聴音(単旋律・二声・四声体・記憶聴音) ・視唱(音程練習) ・テキスト弾き歌い(No.1～5) 			予習: 割りあてられたテキスト曲の弾き歌いを練習する。 復習: 授業で学習した課題を歌う、ピアノで弾く、もう一度書き直す。				
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・聴音(単旋律・二声・四声体・記憶聴音) ・視唱(音程練習) ・テキスト弾き歌い(No.6～11) 			同上				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	・聴音(単旋律・二声・四声体・記憶聴音) ・新曲視唱 ・テキスト弾き歌い(No.12～17)	同上
第5回	・聴音(単旋律・二声・四声体・記憶聴音) ・新曲視唱 ・テキスト弾き歌い(No.18～23)	同上
第6回	・聴音(単旋律・二声・四声体・記憶聴音) ・新曲視唱 ・テキスト弾き歌い(No.24～29)	同上
第7回	・聴音(単旋律・二声・四声体・記憶聴音) ・新曲視唱 ・テキスト弾き歌い(No.30～35)	同上
第8回	・聴音(単旋律・二声・四声体・記憶聴音) ・新曲視唱 ・テキスト弾き歌い(No.36～41)	同上
第9回	・聴音(単旋律・二声・四声体・記憶聴音) ・新曲視唱 ・テキスト弾き歌い(No.42～47)	同上
第10回	・聴音(単旋律・二声・四声体・記憶聴音) ・新曲視唱 ・テキスト弾き歌い(No.48～50)	同上
第11回	・聴音(単旋律・二声・四声体・記憶聴音) ・新曲視唱 ・テキスト選択曲弾き歌い	予習:テキスト選択曲の弾き歌いを練習する。 復習:授業で学習した課題を歌う、ピアノで弾く、もう一度書き直す。
第12回	同上	同上
第13回	本科目の総括	同上
第14回	同上	同上
第15回	同上	同上

科目名(クラス)	ソルフェージュ3ーb		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	井上 淳司	履修対象・条件						
【授業の概要】								
<p>“音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。 新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、複旋律、3～4声和音および和声、音や表現の違い等)、伴奏付旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等その他。”</p>								
【授業の到達目標】								
<p>基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、主要三和音中心の書き取り、読み取り、視唱。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】								
<p>ソルフェージュに該当する総ての訓練を実技中心にクラス全体および個別に行う。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<p>積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<p>聴音、弾き歌い、新曲視唱の実技試験有り。(100%)原則としてクラス毎に行う。</p>								
教科書	美しい新曲課題集	著者等	井上淳司 荻久保和明 片柳英男 加茂下裕 小島佳男 松岡俊克 共著	出版社	音楽之友社			
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	聴音によるクラス分け試験							
第2回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技			学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。				
第3回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技			学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(抜粋)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第5回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(抜粋)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第6回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(抜粋)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第7回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(抜粋)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第8回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(抜粋)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第9回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(抜粋)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第10回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(抜粋)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第11回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(抜粋)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第12回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(抜粋)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第13回	まとめ	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第14回	まとめ	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第15回	まとめ	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。

科目名(クラス)	ソルフェージュ4-a		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	横山 裕美子	履修対象・条件						
【授業の概要】								
音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確にできるようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。 新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、複旋律、3～4和音および和声体、音や表現の違い等)、伴奏付旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等その他。								
【授業の到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> ・調号2つ以上のリズム・音程が複雑な聴音課題を書きとれる。 ・複雑なリズムを正確に速く打つことができる。 ・テキスト曲を正確に表情豊かに弾き歌いができる。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
ソルフェージュに該当する総ての訓練を実技中心にクラス全体および個別に行う。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
聴音、弾き歌い、新曲リズム打ちの実技試験有り。(100%)原則としてクラス毎に行う。								
教科書	美しい新曲課題集	著者等	井上淳司、荻久保和明、片柳英男、加茂下裕、小島佳男、松岡俊克 共著	出版社	音楽之友社			
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	後期のクラスは、前期の成績をもとに再構成。 ・聴音(単旋律・二声・四声体・記憶聴音) ・新曲リズム ・テキスト弾き歌い(No.51～54)			予習:テキスト曲に目を通しておく。 復習:学習した課題を歌う、ピアノで弾く、もう一度書き直す。リズム打ちをゆっくり復習する。				
第2回	・聴音(単旋律・二声・四声体・記憶聴音) ・新曲リズム ・テキスト弾き歌い(No.55～59)			予習:割りあてられたテキスト曲の弾き歌いを練習する。 復習:学習した課題を歌う、ピアノで弾く、もう一度書き直す。リズム打ちをゆっくり復習する。				
第3回	・聴音(単旋律・二声・四声体・記憶聴音) ・新曲リズム ・テキスト弾き歌い(No.60～63)			同上				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	・聴音(単旋律・二声・四声体・記憶聴音) ・新曲リズム ・テキスト弾き歌い(No.64～67)	同上
第5回	・聴音(単旋律・二声・四声体・記憶聴音) ・新曲リズム ・テキスト弾き歌い(No.68～71)	同上
第6回	・聴音(単旋律・二声・四声体・記憶聴音) ・新曲リズム ・テキスト弾き歌い(No.72～75)	同上
第7回	・聴音(単旋律・二声・四声体・記憶聴音) ・新曲リズム ・テキスト弾き歌い(No.76～79)	同上
第8回	・聴音(単旋律・二声・四声体・記憶聴音) ・新曲リズム ・テキスト弾き歌い(No.80～83)	同上
第9回	・聴音(単旋律・二声・四声体・記憶聴音) ・新曲リズム ・テキスト弾き歌い(No.84～87)	同上
第10回	・聴音(単旋律・二声・四声体・記憶聴音) ・新曲リズム ・テキスト弾き歌い(No.88～90)	同上
第11回	・聴音(単旋律・二声・四声体・記憶聴音) ・新曲リズム ・テキスト選択曲弾き歌い	予習:テキスト選択曲の弾き歌いを練習する。 復習:学習した課題を歌う、ピアノで弾く、もう一度書き直す。リズム打ちをゆっくり復習する。
第12回	同上	同上
第13回	本科目の総括	同上
第14回	同上	同上
第15回	同上	同上

科目名(クラス)	ソルフェージュ4ーb		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	井上 淳司	履修対象・条件						
【授業の概要】								
<p>“音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。 新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、複旋律、3～4声高音および和声、音や表現の違い等)、伴奏付旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等その他。”</p>								
【授業の到達目標】								
<p>基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、主要三和音中心の書き取り、読み取り、視唱。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】								
<p>ソルフェージュに該当する総ての訓練を実技中心にクラス全体および個別に行う。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<p>積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<p>聴音、弾き歌い、新曲視唱の実技試験有り。(100%)原則としてクラス毎に行う。</p>								
教科書	美しい新曲課題集	著者等	井上淳司 荻久保和明 片柳英男 加茂下裕 小島佳男 松岡俊克 共著	出版社	音楽之友社			
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(抜粋)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技			学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。				
第2回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(抜粋)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技			学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。				
第3回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(抜粋)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技			学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。				

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(抜粋)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第5回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(抜粋)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第6回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(抜粋)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第7回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(抜粋)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第8回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(抜粋)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第9回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(抜粋)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第10回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(抜粋)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第11回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(抜粋)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第12回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(抜粋)、 コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第13回	まとめ	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第14回	まとめ	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第15回	まとめ	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。

科目名(クラス)	リトミック I A		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	藤原 優里 福原 亜希	履修対象・条件	全専攻・リトミックインストラクター資格取得希望者は必修					
【授業の概要】								
<p>リトミックは子どもの初期音楽教育として有名ですが、楽器のレッスンや、音楽療法の場面にも有用です。授業では受講生自身のリズム・ソルフェージュを向上(トレーニング)すると共に、指導法及びカリキュラム作成(メソッド)、リトミックの動きに合わせた即興習得や伴奏付け(キーボード)の3本立てで毎回の授業を進めます。リトミックの中心となる項目について、実践の中から学んでいきます。履修生の進度に合わせ、授業の順番を入れ替えることがあります。</p>								
【授業の到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> ・リトミックの基本の考え方、動き方を学ぶ。音楽を身体で表現することに慣れていきましょう。 ・半年で身体の使い方が変わってきます。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・講義が中心ですが、学生間のディスカッションやグループワークも随時取り入れます。 								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークやディスカッション等において自分の考えやアイデアをどんどん出していきましょう。 ・リズム練習、即興などでも積極的な参加を求めます。 ・教科書はありませんが、更に深く学びたい方は参考文献を参照してください。(購入必須ではありません) 								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業への取り組み:50% 服装や、課題の提出・発表など、授業に取り組む姿勢を評価しています。 グループワークでの発言やまとめる力、リーダーシップ、積極性や自主性を評価します。 発表が苦手でも、思い切ってやってみようという姿勢を評価します。 毎回参加しているけれど授業中おしゃべりばかり、という方は評価が下がると思ってください。 また、月曜日の朝一の授業で出席も大変だとは思いますが、頑張ってきている方を評価します。 ・期末の課題(グループ発表):50% 14回目に課題作成、15回目に発表を行います。 発表の結果だけでなく、グループメンバー間での協力、話し合い、指導案の内容、発表方法を含め総合的に評価します。 								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献	ダルクローズのリトミック	著者等	石丸由理訳	出版社	ドレミ楽譜出版社			
参考文献	リトミックってなあに リズムの良い子に育てよう	著者等	岩崎光弘	出版社	ドレミ楽譜出版社			
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	リトミック概論 リトミック体験			復習:リトミックの基本の要素を覚える				
第2回	2拍子の基礎リズム リトミックで何を伝えるか 指導の準備			復習:2拍子の基礎リズムを覚える				
第3回	2拍子の基礎リズム 音の大きさ・ニュアンス・テンポ ピアノ伴奏における基本の要素・音の使い方			復習:基本の弾き方を練習				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	2拍子の基礎リズム 歩く・走るの基本的弾き方 即時反応とは	復習:違いを意識して弾けるようにする
第5回	リズムステップ 拍とビートの課題(1) ピアノ伴奏と動きの前後関係	復習:リズムステップを復習
第6回	リズムステップ まとめ(1) グループワーク	予習:ここまでの内容を整理してグループワークに備える
第7回	リズムステップ 即興へチャレンジしよう(1)	復習:リズムステップを復習
第8回	3拍子のリズムとカノン(1) 拍子と数の課題(1)	復習:3拍子のリズムを覚える
第9回	3拍子のリズムとカノン(1) リズム課題(1)	復習:3拍子のカノンができるようにする
第10回	3拍子のリズムとカノン(1) ソルフェージュ課題(1)	復習:違いを意識して弾けるようになる
第11回	複リズム(1) 身体の使い方	復習:複リズムの練習
第12回	複リズム(1) リズム課題(2)	復習:複リズムの練習
第13回	複リズム(1) 表現課題(1) グループワーク	予習:ここまでの内容を整理してグループワークに備える
第14回	リトミックの要素の復習 課題制作	復習:発表の準備
第15回	課題発表	予習:発表の準備

科目名(クラス)	リトミックⅠB		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	藤原 優里 福原 亜希	履修対象・条件	全専攻・リトミックインストラクター資格取得希望者は必修					
【授業の概要】								
<p>リトミックは子どもの初期音楽教育として有名ですが、楽器のレッスンや、音楽療法の場面にも有用です。授業では受講生自身のリズム・ソルフェージュを向上(トレーニング)すると共に、指導法及びカリキュラム作成(メソッド)、リトミックの動きに合わせた即興習得や伴奏付け(キーボード)の3本立てで毎回の授業を進めます。発達心理学も含め、子供の発達段階に合わせたアプローチ方法を学びます。進度に合わせ、授業の順番を入れ替えることがあります。リトミックⅠAと合わせての受講を推奨します。(期末の試験はⅠAの内容も含んでいます)</p>								
【授業の到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> ・自在にリズムステップができるようになる。 ・リトミックの指導者としての基礎となる、自分自身のリズム力を高める。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
実践を中心に行います。個人でのリズム練習、グループワークなどが中心です。授業内での発表も積極的に行います。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<p>実際にリトミックを体験して覚えていく授業です。歌ったり、身体を動かすことが中心になります。指導者育成のための授業ですので、先生役もやっていただきます。どんどん参加し、積極的に発言してください。余計な私語は慎みましょう。動きやすい靴で参加してください。ヒールの靴は不可。参考文献は購入必須ではありません。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業への取り組み:50% 服装や、課題の提出・発表など、授業に取り組む姿勢を評価しています。グループワークでの発言やまとめる力、リーダーシップ、積極性や自主性を評価します。発表が苦手でも、思い切ってやってみようという姿勢を評価します。毎回参加しているけれど授業中おしゃべりばかり、という方は評価が下がると思ってください。また、月曜日の朝一の授業で出席も大変だとは思いますが、頑張ってきている方を評価します。 ・期末の課題:50% 15回目にテストを行います。1年間(ⅠA・ⅠB)のまとめとなるリズム課題です。1年間しっかり授業に出席し、授業に参加していればクリアできる課題です。 ・9/17(土)のコンサートへ参加及びレポート提出をした場合は成績に加算いたします。詳細は授業の中でお知らせします。 								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献	ダルクローズのリトミック	著者等	石丸由理訳	出版社	ドレミ楽譜出版社			
参考文献	リトミックってなあに リズムの良い子に育てよう	著者等	岩崎光弘	出版社	ドレミ楽譜出版社			
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	カノン(2) 季節のイベントとリトミック			予習:季節のイベントについて調べておく				
第2回	カノン(2) 発達心理学 童謡のアレンジ(1) 歌詞			復習:幼児の発達段階についてまとめておく				
第3回	カノン(2) 即興にチャレンジしよう(2)			復習:いろんな弾き方にチャレンジする				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	復リズム(2) 拍とビートの課題(2) グループワーク	復習: 復リズムの復習 グループワークのまとめ
第5回	復リズム(2) 指導に合わせた曲選び 童謡のアレンジ(2) メロディ・リズム	復習: 復リズムの復習 他の曲にもオリジナルの歌詞をつけてみる
第6回	復リズム(2) 拍子と数の課題(2) グループワーク	復習: グループワークのまとめ
第7回	創作リズム あそび歌をつくってみよう	復習: 授業内で出来なかった人は翌週までに作っておく
第8回	カノン(3) リズム課題(3) グループワーク 試験課題練習	復習: グループワークのまとめ
第9回	カノン(3) 絵本の活用とリトミックへの応用 グループワーク 試験課題練習	予習: お気に入りの絵本を探す 復習: グループワークのまとめ
第10回	カノン(3) 表現課題(2) グループワーク 試験課題練習	復習: グループワークのまとめ
第11回	6/8の基礎リズム(1) 音階とソルフェージュ(1) 試験課題練習	復習: 6/8リズムの練習 自身のソルフェージュ力の向上
第12回	6/8の基礎リズム(1) 音階とソルフェージュ(1) 試験課題練習	復習: 6/8リズムの練習 自身のソルフェージュ力の向上
第13回	6/8の基礎リズム(1) ソルフェージュ課題(2) グループワーク 試験課題練習	復習: グループワークのまとめ
第14回	即興にチャレンジしよう(3) 試験課題練習	復習: 復リズムの練習・即興練習
第15回	期末試験	予習: テスト課題の練習

科目名(クラス)	リトミックⅡA		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	藤原 優里 福原 亜希	履修対象・条件	全専攻・リトミックインストラクター資格取得希望者は必修					
【授業の概要】								
<p>リトミックⅠに続き、さらにリトミックの知識と技術を高めます。実際に指導する事を目的に、授業内で実践を行っていきます。基本となるトレーニング、メソッド、キーボードの3本柱は継続して行います。自身のリズム・ソルフェージュ・即興の力を向上させながら、相手に伝えるための技術を学んでいきます。</p> <p>既成曲のアレンジや即興にも取り組み音について深く考える姿勢を築きます。</p> <p>リトミックⅠ・Ⅱを優秀な成績にて修了した者は、本学認定のリトミックインストラクターとして認定されます。(ⅡB試験合格必須)</p>								
【授業の到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> ・年齢に合わせた指導、目標の設定を自分でできるようになる。 ・即興やアレンジをできるようにする。 ・音やリズムを身体で表現できるようにする。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
実践を中心に行います。個人でのリズム練習、グループワークを中心に行います。授業内での発表も積極的に行います。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<p>実際にリトミックを体験して覚えていく授業です。歌ったり、身体を動かすことが中心になります。指導者育成のための授業ですので、先生役もやっていただきます。どんどん参加し、積極的に発言してください。余計な私語は慎みましょう。</p> <p>動きやすい靴で参加してください。ヒールの靴は不可。参考文献は購入必須ではありません。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<p>・毎回の授業への取り組み:50%</p> <p>服装や、課題の提出・発表など、授業に取り組む姿勢を評価しています。</p> <p>グループワークでの発言やまとめる力、リーダーシップ、積極性や自主性を評価します。</p> <p>発表が苦手でも、思い切ってやってみようという姿勢を評価します。</p> <p>毎回参加しているけれど授業中おしゃべりばかり、という方は評価が下がると思ってください。</p> <p>・期末の課題(グループ):50%</p> <p>15回目に課題発表として行います。13・14回は発表のための話し合い・準備・練習となります。</p> <p>グループ発表になりますので、他のメンバーに迷惑がかからないよう、欠席をしないようにしてください。</p>								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献	ダルクローズのリトミック	著者等	石丸由理訳	出版社	ドレミ楽譜出版社			
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	指導者に必要な心構え 6/8拍子の基礎リズム(2)			復習:6/8拍子のリズムの復習				
第2回	6/8拍子の基礎リズム(2) 伴奏に使えるリズムパターンいろいろ			復習:ピアノの練習				
第3回	6/8拍子の基礎リズム(2) 即興にチャレンジしよう(4)			復習:固定観念に囚われず、自由にピアノを弾いてみる				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	リズムとリズムのハンドサイン いろいろなリズムの表現方法	復習:リズムのハンドサインを覚える
第5回	補足リズム(1) rit.やcresc.などのニュアンス ニュアンスを意識した伴奏	復習:ピアノの練習
第6回	補足リズム(1) 子どもの発達に合わせた課題作り(1)	復習:グループワークが終わっていないグループは翌週までに終わらせておく
第7回	リトミックの指揮(1) リズムを意識した伴奏	復習:指揮法の復習 ピアノの練習
第8回	リトミックの指揮(1) 即興にチャレンジしよう(5)	予習:指揮法の練習 復習:楽譜がなくてもピアノが弾けるようにする
第9回	リトミックの指揮(1) 教材の活用と工夫	復習:指揮法の復習
第10回	音階とソルフェージュ(2) 数・色・リズム	復習:自分でも新しい表現方法を考えてみる
第11回	補足リズム(2) 子どもの発達に合わせた課題作り(2)	復習:自由にピアノを弾いてみる
第12回	補足リズム(2) プラスチックアニメ 概要	復習:補足リズムの練習
第13回	グループワーク プラスチックアニメ 曲分析	復習:課題が遅れているグループは次週までに進めておく
第14回	グループワーク プラスチックアニメ 課題作成	復習:課題が遅れているグループは次週までにまとめておく
第15回	グループワーク プラスチックアニメ 発表 (試験課題)	予習:自分の役割や動きを確認しておく

科目名(クラス)	リトミックⅡB		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	藤原 優里 福原 亜希	履修対象・条件	全専攻・リトミックインストラクター資格取得希望者は必修					
【授業の概要】								
<p>リトミックⅡAに続き、実際に指導する事を目的に、授業内で実践演習を行っていきます。指導者を体験しながら、指導方法や指導内容について話し合います。 できるだけたくさんの方の発表を行い、実践力を高めてください。</p> <p>リトミックⅠ・Ⅱを優秀な成績にて修了した者は、本学認定のリトミックインストラクターとして認定されます。(ⅡB試験合格必須)</p>								
【授業の到達目標】								
<p>インストラクター認定を目指し、自分で指導目標を立て、それに合わせて指導できる力をつける。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】								
<p>実践を中心に行います。個人での課題発表が中心です。</p>								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・課題づくりと発表を交互に行っていきます。実際に先生役をやっていただき、内容について話し合います。 どんどん参加し、積極的に発言してください。 ・動きやすい靴で参加してください。ヒールの靴は不可。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業への取り組み:30% 服装や、課題の提出・発表など、話し合いへの参加など授業に取り組む姿勢を評価しています。 毎回参加しているけれど授業中おしゃべりばかり、という方は評価が下がると思ってください。 9/17(土) コンサートへの参加又はレポート提出。 通常授業の振替という形に行います。詳細は授業の中でお知らせします。 ・授業中の課題発表:40% 課題の作成、発表を評価します。 ・期末の課題:30% 課題発表として行います。自分で指導案を考えて発表します。 								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献	ダルクローズのリトミック	著者等	石丸由理訳	出版社	ドレミ楽譜出版社			
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	リトミックの指揮(2) 指揮とカノン 指導を効果的にする伴奏・即興 カリキュラム体験			復習:カリキュラムの内容を覚える				
第2回	9/17(土)開催のコンサートへ参加			予習:当日の内容と役割を理解しておく				
第3回	コンサート反省会 リトミックの指揮(2) 指揮とカノン			復習:リトミック式の指揮法を覚える				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	リトミックの指揮(2) 指揮とカノン 試験方法と認定について	復習: 指揮を出来るようにしておく 発表課題のテーマを決めておく
第5回	リトミックの指揮(2) 指揮とカノン 課題づくりのポイント	復習: 発表で使用する課題作り
第6回	拍子課題のカリキュラム発表	予習: 発表に使う曲や教材の準備、指導の 流れを見直しておく
第7回	ソルフェージュ課題のカリキュラム発表	予習: 発表に使う曲や教材の準備、指導の 流れを見直しておく
第8回	リズム課題のカリキュラム発表	予習: 発表に使う曲や教材の準備、指導の 流れを見直しておく
第9回	リズム課題のカリキュラム発表	予習: 発表に使う曲や教材の準備、指導の 流れを見直しておく
第10回	表現課題のカリキュラム発表	予習: 発表に使う曲や教材の準備、指導の 流れを見直しておく
第11回	表現課題のカリキュラム発表	予習: 発表に使う曲や教材の準備、指導の 流れを見直しておく
第12回	ピアノレッスンでのカリキュラム発表	予習: 発表に使う曲や教材の準備、指導の 流れを見直しておく
第13回	幼稚園・児童館でのカリキュラム発表	予習: 発表に使う曲や教材の準備、指導の 流れを見直しておく
第14回	最終課題カリキュラム発表	予習: 発表に使う曲や教材の準備、指導の 流れを見直しておく
第15回	最終課題カリキュラム発表	予習: 発表に使う曲や教材の準備、指導の 流れを見直しておく

科目名	専攻実技1・2【声楽】
【授業計画の概要】	
<p>声楽は音楽全般の中でも特異性を持っています。自分自身が楽器であるという事、言葉を伴い旋律と歌詞の融合により成り立っているという事です。まずは自分の身体を楽器として認識、無理のない呼吸法、発声法を身に付けて行きましょう。二年間で充実した学習が出来る様に綿密な計画を立てましょう。</p>	
【授業の到達目標】	
<p>一年目はイタリア歌曲を教材とします。イタリア語の発音が綺麗に出来る様にしましょう。呼吸法、発声法に留意してメロディを作ります。コンコーネ等を学習してソルフェージュ力を高めます。</p>	
【成績評価の方法】	
<p>実技試験による成績評価</p>	
【授業計画の内容】	
月	内 容
4	<p>主要課題:母音の作り方が初期の学習に適しているイタリア歌曲を学び呼吸法、発声法、発語法を身に付けると共に練習曲を併用してソルフェージュ力を高める</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・声楽を学ぶ要点を伝え学習法、レッスンの進め方等を説明 ・二年間の綿密な学習計画を立てる ・声楽には欠かせない言葉の大切さを伝え、イタリア語、ドイツ語等の履修を促す
6	<ul style="list-style-type: none"> ・一年次は特にイタリア語発音の徹底・授業で与えられた曲目の単語の意味を調べてレッスンに臨む ・自分が声を出す練習に終始せず、他の演奏にも触れて行く。特に生演奏を聴く事の大切さを伝える
7	<p>主要課題:前期試験の準備と仕上げ</p> <p>☆試験は5分以内でイタリア歌曲を一曲歌う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能力に応じた曲を選び学習、その中から5分以内で 前期試験曲を選ぶ ・伴奏者と合わせる事で共演と言う演奏の基本的なテクニックを学んで行く
8	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの学習計画を立てる <p>☆4月から学習して来た事を再度見直し前回出来なかった個所を復習し、他の曲にも応用出来る様にする</p>
9	<p>【前期試験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験の反省を踏まえ、後期試験に向けて自分の足りない部分を向上させて行く
10	<p>主要課題:前期で学んだ呼吸法、発声法、発語法を充実。レパートリーの拡充に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期に引き続き呼吸法、発声法、発語法の学習を進める 主に基礎となるイタリア歌曲を学習するが、個々の能力に応じてイタリア語以外にレパートリーを広げて行く
11	<ul style="list-style-type: none"> ・詩の意味を良く理解し、詩的、劇的表現を歌に表して行く ・後期試験の曲決め
12	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の能力に合った曲を選び、伴奏者との共同作業を追求、高い音楽性を求め曲を仕上げて行く
1	<p>主要課題:後期試験の準備と仕上げ</p> <p>☆試験は5分以内自由曲一曲を用意する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸法、発声法、発語法を身に付けてレガート唱法に繋げて行く
2	<p>【後期試験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験の反省と一年の総括 ・春休み中の学習計画を立てる
3	<p>☆春休み中にはこの一年間学習して行きた曲目を再度見直し、前回出来なかった個所を復習する</p>

科目名 専攻実技3・4【声楽】	
【授業計画の概要】	
一年次で学んで来た事を継続、さらに呼吸法、発声法、発語法を追求。多くの曲に活かして行きます。二年次では前期試験でドイツ歌曲を、卒業試験では日本歌曲一曲と外国歌曲あるいはオペラ、オラトリオのアリアのいずれかより一曲、計二曲を選んで演奏します。さらにそれらの曲に関する作品ノートを提出します。	
【授業の到達目標】	
二年間にイタリア歌曲、ドイツリート、日本歌曲、オペラアリアと勉強を重ねて発表します。どのジャンルも正しく綺麗に発語する事を心掛け、発声を意識して安定した歌唱が出来る様に心掛けます。	
【成績評価の方法】	
実技試験による成績評価	
【授業計画の内容】	
月	内 容
4	<p>主要課題:ドイツ歌曲、日本歌曲への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一年次で学んだ事を振り返り、今後の一年で取り組んで行くべき方向を担当教官と相談し学習計画を立てる ・日本歌曲の学習に向け、母音の作り方、子音の発音、鼻濁音等の認識を深める ・ドイツ語の発音練習、殊に子音の発音と日本語には無いumlaut(ウムラウト)の発音を念入りにレッスンに組み入れ、自分に合ったドイツ歌曲を選ぶ
5	
6	
7	<p>主要課題:前期試験の準備と仕上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ歌曲における伴奏の重要性を認識し、ドイツ歌曲の中から自分に適した一曲を選ぶ。 ☆持ち時間は5分 夏休みの学習計画を立てる ☆夏休みには4月から学習して来た事を再度見直し、前回出来なかった箇所を復習し、他の曲にも応用出来る様にする <p>【前期試験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験から得られた課題に取り組んで行く
8	
9	
10	<p>主要課題:卒業試験の準備と仕上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能力に応じてオペラ、オラトリオのアリアに取り組み、卒業試験曲を決めて行く。 ・日本歌曲一曲と外国歌曲または、オペラ、オラトリオのアリアから一曲の計二曲を8分に纏めて卒業試験曲を選ぶ。 ・選んだ試験曲について曲の内容、解説、構成、分析、創作の経緯、作曲家及び作詞家、歴史的文化的背景等について調べ作品ノートを作成させる
11	
12	
1	<p>主要課題:卒業試験の仕上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二年間、学んで来た内容を確認し、卒業試験にむけて問題点を改善して行く <p>【卒業試験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二年間の学習内容の総括、卒業後の課題と展望
2	
3	

科目名	専攻実技1・2【器楽専攻ピアノコース】	
【授業計画の概要】		
演奏する際の姿勢及び肩・腕・手首・指など体の使い方を確認し、無理のない自然な奏法を目指す。 ピアノ1では古典期、ピアノ2ではロマン期の作品を中心に学ぶ。		
【授業の到達目標】		
ピアノ1では、古典期の作品の形式、和声などの楽曲分析をすることにより、適切な表現をすることができる。 ピアノ2では、多様な音色、息の長いフレーズ、テンポルバートなど、ロマン期の作品の特徴を理解して演奏することができる。		
【成績評価の方法】		
実技試験による		
【授業計画の内容】		
月	内 容	
4		
5	楽器の特性及び身体運動と音色の関係を理解し、演奏技術の向上を図る。 ピアノ1の課題である古典期の作品を学ぶ。 楽曲表現を豊かにするために、理論的な内容にも目を向ける。	
6		
7		
8	古典期の作品の形式や和声進行への理解を深める。 作曲家や楽曲の背景について理解を深め、演奏に反映させる。	
9	ピアノ1の実技試験	
10		
11	ピアノ2の課題であるロマン期の作品を学ぶ。 ロマン期の和声・表現法・奏法への理解を深める。 ピアノの構造と特性を理解し、楽器の変遷と楽曲の関わりについて考察する。	
12		
1	ピアノ2の実技試験	
2	ピアノ3・4に向けて計画を立て、学習を進める。	
3		

科目名	専攻実技3・4【器楽専攻ピアノコース】	
【授業計画の概要】		
	音色に対する感覚を敏感にし、奏法との関係を考える。レパートリーを広げ、多様な和声やリズム、表現法を学ぶ。ピアノ2では実技試験と共に作品ノートが課せられるため、年間を通じた計画に基づいて多角的な学習をする。	
【授業の到達目標】		
	ピアノ3では、レパートリーを広げ、それぞれの時代様式に基づいた演奏ができる。 ピアノ4では、音楽史や楽曲分析を通して作品を深く理解している。	
【成績評価の方法】		
	実技試験による	
【授業計画の内容】		
月	内 容	
4	技術の向上、レパートリーの拡大と共に、時代様式に基づいた演奏法を修得する。 作品ノートの準備に入る。	
5		
6		
7	ピアノ3の試験曲をさまざまな角度から考察し、理解を深めると共に演奏に反映する。 ピアノ3の実技試験	
8		
9		
10	ピアノ4の試験曲及び作品ノート作成に取り組む。 作品ノートの内容をピアノ4の試験曲の演奏に反映させる。	
11		
12		
1	ピアノ4の実技試験	
2		
3		

科目名	専攻実技1・2【器楽専攻ピアノ指導者コース】	
【授業計画の概要】		
	ピアノの演奏能力を高めるとともに、ピアノ音楽に対する知識を深め、ピアノ指導者になるための素地を養う。作品の分析を通して作曲者の意図を探り、作品に対する適切な音楽的イメージを持つとともに、演奏に際して必要な身体的機能、運動的要素について学ぶ。	
【授業の到達目標】		
	音楽の三要素、および楽式の知識をもとに作品の分析を行い、作品に対する適切な音楽的イメージを持つことができる。また、それを実際の演奏に結びつけるための身体的機能、運動的要素について理解できる。	
【成績評価の方法】		
	各セメスター末に行うピアノ実技試験により評価する。 各セメスターとも自由曲、演奏時間は12分以内とする。	
【授業計画の内容】		
月	内 容	
4	担当教員との打ち合わせにより曲目を決定する。自らのピアノ表現技術や音楽性を高めることや、指導力を高めることを視野に入れてレパートリーを選択する。 ピアノという楽器の機能・特性について知識を深め、それに基づきタッチや運指、身体の連動性、ペダリング等の基本的動作について研究する。また、適切な練習方法について検討する。	
5		
6		
7	前期試験演奏曲を中心に進めて行く。 楽曲の時代様式に基づく音楽表現と、それを具現するための表現技術について理解を深めながら進めていく。 専攻実技1(ピアノ指導者コース)の実技試験を行う。	
8		
9		
10	前期の振り返りを行った後、担当教員との打ち合わせにより曲目を決定する。自らのピアノ表現技術や音楽性を高めることや、指導力を高めることを視野に入れてレパートリーを選択する。 前期に引き続き、楽曲の時代様式に基づく音楽表現と、それを具現するための表現技術について理解を深める。	
11		
12		
1	後期試験演奏曲を中心に進めていく。 楽曲の時代様式に基づく音楽表現と、それを具現するための表現技術について体系的に理解し、自分自身の演奏に反映することを目指す。 専攻実技2(ピアノ指導者コース)の実技試験を行う。	
2		
3		

科目名	専攻実技3・4【器楽専攻ピアノ指導者コース】
【授業計画の概要】	
専攻実技1・2【器楽専攻ピアノ指導者コース】を通じて培った能力をさらに発展させ、ピアノ指導者になるための実践的な力を身につける。作品の分析を通して作曲者の意図を探り、適切な音楽的イメージを持つとともに、演奏に際して必要な身体的機能、運動的要素を理解し、それらの連携による演奏能力を修得する。	
【授業の到達目標】	
作品の分析を通して、作品に対する適切な音楽的イメージを持ち、それを表現技術を用いて演奏内容に反映させることができる。また、その過程をピアノ指導者として人に伝えることのできる体系的知識を確立する。	
【成績評価の方法】	
各 Semester 末に行うピアノ実技試験により評価する。 各 Semester とも自由曲。演奏時間は専攻実技3は12分以内、専攻実技4は15分以内とする。	
【授業計画の内容】	
月	内 容
4	前年度の振り返りを行った後、担当教員との打ち合わせにより曲目を決定する。自らのピアノ表現技術や音楽性を高めることや、指導力を高めることを視野に入れてレパートリーを選択する。 ピアノという楽器の機能・特性について知識を確立し、それに基づきタッチや運指、身体の連動性、ペダリング等の表現技術を修得する。また、自分自身で適切な練習方法を組み立てることのできる能力を養う。
5	
6	
7	前期試験演奏曲を中心に進めて行く。 楽曲の時代様式に基づく音楽表現と、それを具現するための表現技術について理解を深めながら進めていく。 専攻実技3(ピアノ指導者コース)の実技試験を行う。
8	
9	
10	前期の振り返りを行った後、担当教員との打ち合わせにより曲目を決定する。自らのピアノ表現技術や音楽性を高めることや、指導力を高めることを視野に入れてレパートリーを選択する。 楽曲の時代様式に基づく音楽表現と、それを具現するための表現技術について理解を深め、さらに発展させる。
11	
12	
1	後期試験演奏曲を中心に進めていく。 楽曲に対する音楽イメージを持ち、それを適切な表現技術に基づき聴き手に伝えることのできる能力を確立する。また、それらの過程をピアノ指導者として人に伝えることのできる体系的知識を確立する。 専攻実技4(ピアノ指導者コース)の実技試験を行う。
2	
3	

科目名	専攻実技1・2【器楽専攻 管弦打楽器コース】(弦楽器)	
【授業計画の概要】		
<p>専門的な弦楽器の演奏を目指す上で必要な、基本的奏法を確立する。 スケール・エチュードの課題を、毎日欠かさず練習する習慣を身につける。 楽譜に書かれていることを忠実に音に表す技術を習得する。 オーケストラの授業を履修することが望ましい。</p>		
【授業の到達目標】		
<p>正しい奏法を身に付けることによって、美しい音色になり、テクニックも向上する。 毎日の基礎練習が身に付く。</p>		
【成績評価の方法】		
実技試験による		
【授業計画の内容】		
月	内 容	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の奏法を見直し楽器の構え方や、姿勢、弓の持ち方、ボーイングなどで問題点があれば改善する。 ・スケール、エチュードを中心にした練習、また練習方法を学ぶ。 	
5		
6		
7	<ul style="list-style-type: none"> ・前期試験の課題である、古典期作品の選曲。 ・古典期のアーティキュレーション、フレーズの特徴を理解し、演奏法を学ぶ。 ・ピアノ(伴奏)と合せる時の心得。 ・前期実技試験。 	
8		
9		
10	<ul style="list-style-type: none"> ・デダッシュやスピッカート、全弓を使う運弓など、右手の基本的奏法の見直し。 ・ポジション移動、ヴィブラートなど、左手の基本的奏法の見直し。 ・後期試験の選曲。改善点の達成を目標として取り組む。 	
11		
12		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・後期実技試験。 ・試験での演奏の反省。 ・一年間の練習方法(時間の使い方を含む)の反省。 ・来年度の目標や計画。 	
2		
3		

科目名	専攻実技3・4【器楽専攻 管弦打楽器コース】(弦楽器)	
【授業計画の概要】		
	1年次で身に付けてきた奏法で、まだ足りない部分を習得する。 より高度なスケールやエチュードに取り組む。 演奏技術、表現力が向上するよう努力する。 楽譜に書かれている、細かい指示や表示を読み取る。 アンサンブルをする機会があれば、積極的に参加し、自分の音だけでなく、周囲の音も聴きながら演奏することを心掛ける。	
【授業の到達目標】		
	スケールやエチュードの練習が、楽曲を演奏する上で、どのように役に立つかを理解できるようになる。 楽譜に書かれている指示から、どのような表現をすればよいか、自分で考えて演奏できるようになる。	
【成績評価の方法】		
	実技試験による	
【授業計画の内容】		
月	内 容	
4		
5	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な奏法でまだ問題点があれば、引き続き改善していく。 ・スケールやエチュードを用いて、より高い技術を身に付ける。 ・表現の幅を広げる。表現方法の習得。 	
6		
7	<ul style="list-style-type: none"> ・前期試験の選曲(ヴァイオリンは、エチュードと小品) ・曲を演奏する際に、習得した技術、表現方法をよりよく実践する。 	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・弦楽器特有の音色、表現力を意識して仕上げる。 ・室内楽、弦楽合奏に積極的に参加する。 ・卒業後の進路について考え、行動する。 	
9	<ul style="list-style-type: none"> ・前期実技試験。 	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・後期試験(卒業試験)の選曲。協奏曲やソナタなど、より大きな曲に挑戦していく。 	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜の読み取り方を学ぶ。作曲家の指示を注意深く読み、音にする。 ・ヨーロッパの歴史や文化に興味を持ち、曲の時代背景や作曲家の特徴を学んだ上で、楽曲を理解する姿勢を身に付ける。 	
12	<ul style="list-style-type: none"> ・作品ノート作成。作曲家、時代背景、楽曲分析について詳しく調べる。 	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・後期実技試験。 	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・試験での演奏の講評と反省。 ・卒業後の演奏活動、指導活動について。 ・演奏技術を維持する方法。 	
3		

科目名	専攻実技1・2【器楽専攻 管弦打楽器コース】(木管楽器)	
【授業計画の概要】		
<p>専攻実技1・2(器楽専攻管弦打楽器コース)(1年)においては、木管楽器の専門的演奏を目指す上での基本的奏法の訓練を中心にしたレッスンをを行います。 様々なパターンのスケール練習とエチュードを柱にした練習方法を確立します。 演奏の土台となる基本的技術を身に付け基本的感覚を養うことが目的です。</p>		
【授業の到達目標】		
<p>専攻実技1・2(器楽専攻管弦打楽器コース)(1年)では、演奏するための基本的「技術」「感覚」を身に付け、養うことができるようにします。</p>		
【成績評価の方法】		
<p>実技試験によります</p>		
【授業計画の内容】		
月	内 容	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション(今後2年間の概要説明、レッスン内容の説明、レッスン心得、練習方法) ・教材、参考資料の説明(スケール教本、エチュード、楽曲等の案内) 	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻実技1・2管弦打楽器コース(1年)における実技試験についての説明と奏者についての説明 ・基本的奏法の説明 	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎知識(楽器の種類、構造、歴史、リードの選び方、調整法) 	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・メンテナンス 	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻実技1の実技試験課題楽曲研究と伴奏合わせ ・夏期休業中実技試験の準備と仕上げ(伴奏合わせを含む) ・専攻実技1の実技試験の講評、今後の課題検討 	
9	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻実技2授業開始 基本奏法の整理 	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・「スケール練習」の発展 例. メトロノームを使いスラーと、タンギングで3度音程、アルペジオ練習等 	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器によって「ビブラート」の研究、同属楽器奏法の研究 ・専攻実技2の実技試験課題楽曲研究と伴奏合わせ 	
12		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻実技2実技試験の講評、反省会、グループ討論 	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の点検と評価 ・今後の課題を検討し、来年度に向け計画を立てる 	
3		

科目名	専攻実技3・4【器楽専攻 管弦打楽器コース】(木管楽器)	
【授業計画の概要】		
<p>専攻実技3・4(器楽専攻管弦打楽器コース)(2年)においては、1年次で勉強した基本的奏法の訓練と応用技術を更に発展させたレッスンをを行います。 卒業試験に向け演奏能力を高め「作品ノート」を作成し、芸術的な幅を広げた演奏を目指します。</p>		
【授業の到達目標】		
<p>楽曲、エチュードは中級、上級とレベルアップしたものを取り入れ、それらの曲を演奏できる能力を身に付けることとします。</p>		
【成績評価の方法】		
<p>実技試験によります</p>		
【授業計画の内容】		
月	内 容	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション(今後1年間の概要説明、レッスン内容の説明、レッスン心得) ・アンブッシュアをはじめとする演奏技術の総点検 ・日々の練習方法の確立 ・表現方法の研究、エチュード、楽曲の研究 ・各演奏家の演奏研究 	
5		
6		
7	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻実技3実技試験課題楽曲の研究と伴奏合わせ ・卒業試験楽曲選び、「作品ノート」の準備 ・夏期休業中専攻実技3試験課題楽曲の仕上げ ・専攻実技3実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・専攻実技4授業開始 	
8		
9		
10	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻実技4卒業試験課題楽曲伴奏合わせ ・「作品ノート」作成チェック ・指導法研究 ・専攻実技4卒業試験課題楽曲仕上げ、伴奏合わせ 	
11		
12		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻実技4卒業試験の講評、反省会、グループ討論 ・これまで2年間の点検と評価 ・卒業後の演奏活動、指導活動に対する考え方と心構え 	
2		
3		

科目名	専攻実技1・2【器楽専攻・管弦打楽器コース】(金管楽器)	
【授業計画の概要】		
1年次においては、基礎奏法、及び応用技術の修得を中心にレッスンをを行います。 「姿勢」「呼吸法」「リラクゼーション」「アンブシュア」「フィンガリング」「スロート・コントロール」「リップ・フレキシビリティ」「レンジ」「エンデュアランス」「アーティキレーション」など、演奏の土台となる基本テクニックを確実に身につけることが最大の目的です		
【授業の到達目標】		
授業内容を深く理解し、演奏能力を更に向上させる。		
【成績評価の方法】		
実技試験による		
【授業計画の内容】		
月	内 容	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス (概要説明、レッスン内容説明、レッスン心得、教材・参考資料の説明・案内等) ・基礎奏法 (姿勢、呼吸法、楽器の構え方、ロングトーン、リップ・スラー、タンギング等) ・基礎知識(楽曲、教本、楽器、楽器の歴史等) 	
5		
6		
7	<ul style="list-style-type: none"> ・前期実技試験のための楽曲研究 ・ " の講評、反省会、グループ討論 ・名演奏家の演奏研究(Ⅰ期) ・前期実技試験 	
8		
9		
10	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎奏法(アンブシュア、フィンガリング、フレキシビリティ、インターヴァル、グルペット、リラクゼーション、スロート・コントロール、エンデュアランス等) ・基礎知識(楽曲研究、楽器のメンテナンス等) ・学年末実技試験のための楽曲研究 	
11		
12		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・後期実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・1年間の点検と評価 ・今後の課題検討、及び来年度の計画作成 	
2		
3		

科目名	専攻実技3・4【器楽専攻・管弦打楽器コース】(金管楽器)	
【授業計画の概要】		
	2年次においては、1年次に引き続き、基礎奏法に修得を中心にレッスンをを行います。 そして、それを更に発展させた「応用技術」の修得にも目を向けていきます。 「インターバル」「レンジ」「エンデュランス」「アーティキレーション」などのレベル・アップを目指します。3年次生になったとき、コンチェルトなどの演奏が可能になっていることが、目標の目安です。	
【授業の到達目標】		
	授業内容を深く理解し、演奏能力を更に向上させる。	
【成績評価の方法】		
	実技試験による	
【授業計画の内容】		
月	内 容	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・響き、音色、音質等の研究 ・名演奏家の演奏研究(Ⅱ期) ・表現様式の研究 ・アンサンブル。スタディー(Ⅰ期) ・スケール・アルペジオの総点検 ・トランスポジションの修得(Ⅰ期) 	
5		
6		
7	<ul style="list-style-type: none"> ・前期実技試験のための楽曲研究 ・ " " の講評、反省会、グループ討論 ・メソッド、エチュード研究(Ⅰ期) ・前期実技試験 	
8		
9		
10	<ul style="list-style-type: none"> ・オーケストラ・スタディ(Ⅰ期) ・古楽器の知識と奏法研究(Ⅰ期) ・吹奏楽スタディー(Ⅰ期) ・特殊奏法の研究(Ⅰ期) ・デイリー・トレーニングの確立 ・学年末実技試験のための楽曲研究 	
11		
12		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・後期実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・2年間の点検と評価 ・今後の課題検討、及び来年度の計画作成 	
2		
3		

科目名	専攻実技1・2【器楽専攻管弦打楽器コース】(打楽器)
【授業計画の概要】	
	「音楽を自らの言葉で語る(語れるようになる)」ことを目標とし、その目標達成の第一歩として、基本奏法や演奏技術を身に付ける。
【授業の到達目標】	
	「音楽を自らの言葉で語る(語れるようになる)」ことを目標とし、その目標達成の第一歩として、基本奏法や演奏技術を確実に身につける。
【成績評価の方法】	
	実技定期試験による
【授業計画の内容】	
月	内 容
4	
5	ガイダンス／ 脱力と身体の使い方の習得／ 小太鼓・鍵盤楽器の基本奏法の習得(初級エチュードを使って正しいフォームを学ぶ)
6	
7	
8	基本奏法の確立と楽曲への応用① (初級エチュードに加え、楽曲演奏の中での基本奏法の応用を学ぶ)／ 前期試験曲の決定、指導
9	
10	
11	前期試験の講評及び課題提示。基本奏法の確立と楽曲への応用② (各自の課題をふまえた選曲を行ない、その楽曲への取り組みの中で基本奏法の確立、 応用についてさらに追求し、音楽表現を深める)／ 後期試験曲の決定、指導
12	
1	
2	後期試験の講評と課題提示／ 次年度への目標提示／ 1年間の総括
3	

科目名	専攻実技3・4【器楽専攻管弦打楽器コース】(打楽器)
【授業計画の概要】	
	「いかに音楽的に奏するか」をテーマに、個々の楽器の奏法を取得、同時にオーケストラ・スタディを教材に用いて、楽曲の一部分である打楽器パートが、いかにして楽曲全体を音楽的に拡大し彩ることができるのか、打楽器の本質的な可能性について学ぶ。
【授業の到達目標】	
	様々な打楽器についての基本奏法を習得し、かつそれらが音楽的な演奏となるような技術を身につける。楽曲全体の中での打楽器の役割について、音楽やその楽曲の場面ごとに求められるものを楽譜から読み取り、音楽から感じ取れるようになる。
【成績評価の方法】	
	実技定期試験、卒業試験による
【授業計画の内容】	
月	内 容
4	ガイダンス／ 小太鼓・鍵盤楽器の基本奏法の充実 (各自の実力に応じたエチュード・楽曲を使用)／ ティンパニを含む打楽器全般に関する知識と奏法の習得(初級エチュードを使用)
5	
6	
7	小太鼓・鍵盤楽器について、より自由な音楽表現を目指す＝基本奏法・技術習得の追求／ ティンパニを含む打楽器全般の音楽表現について学ぶ＝オーケストラ・スタディを使用して 奏法・技術を取得する／ 前期試験曲の「決定、指導
8	
9	
10	前期試験の講評及び後期の方針検討／ 前述の楽器レッスンに加え、 マルチパーカッション楽曲について学ぶ／ 後期試験曲の決定、指導
11	
12	
1	卒業試験／ 卒業後の進路全般に対するアドバイス／ 2年間の総括
2	
3	

科目名	専攻実技1・2【器楽専攻 電子オルガンコース】	
【授業計画の概要】		
演奏力の向上と即興、アレンジ力をつける。		
【授業の到達目標】		
レパートリーを増やす。1段譜の課題を3コーラスで即興演奏できる。		
【成績評価の方法】		
学期末定期試験の実技試験で総合的に評価します。		
【授業計画の内容】		
月	内 容	
4	色々なスタイルの楽曲を演奏することでテクニックの向上を目指す。ベース奏法、楽器の操作、アレンジの基礎を学ぶ。即興課題の実習。	
5		
6		
7	同上	
8		
9		
10	同上	
11		
12		
1	同上	
2		
3		

科目名	専攻実技3・4【器楽専攻 電子オルガンコース】	
【授業計画の概要】		
演奏力の向上と即興、アレンジ力をつける。		
【授業の到達目標】		
演奏力の向上と自己アレンジレパートリーの完成。1段譜の課題を3コーラスで即興演奏できる。		
【成績評価の方法】		
学期末定期試験の実技試験で総合的に評価します。		
【授業計画の内容】		
月	内 容	
4	自己アレンジ曲を選曲し、3段譜にアレンジしていく。ベース奏法と色々なスタイルの楽曲の演奏。即興課題の実習。	
5		
6		
7	同上	
8		
9		
10	同上	
11		
12		
1	同上	
2		
3		

科目名 専攻実技1・2【コンポーシングアーティスト】	
【授業計画の概要】	
自身の作曲あるいは作詞作品を自ら表現(演奏、歌唱等)することを目的とし、そのために必要な技術や感性、パフォーマンスを、その学生が目指す目標に沿って、アドバイス、指導、共に研究をする。学生が音楽理論的なことをどこまで理解しているのかによって臨機応変に指導を展開。なお1年生でレコーディング実習を行う。	
【授業の到達目標】	
それぞれの学生は音楽産業に於ける自身の目標が非常に多岐に渡るため、その学生の目的と理解度に見合った指導をする。	
【成績評価の方法】	
前期は創作基礎～作品に於ける企画、創作過程(70%)、レッスンの出席、受講態度。 後期はレコーディング実習に於ける企画と創作過程～と発表、パフォーマンス(70%)、レッスンの出席、受講態度。	
【授業計画の内容】	
月	内 容
4	作曲意図について～イメージを音符に翻訳するという事、メロディとコードの関係Ⅰ、メロディとコードの関係Ⅱ
5	
6	
7	歌ものの作曲～インストゥルメンタルの作曲～メロディとコードの関係Ⅲ、自身で作曲してくる期間(お題を出して作詞作曲)
8	
9	
10	「レコーディング実践に向けて」作品及びパフォーマンスアドバイス、作曲と編曲の違い～自身の曲で実践
11	
12	
1	復習～イメージを音にする、言葉にする、自身の音楽で何を伝えたいのかの研究。
2	
3	

科目名 専攻実技3・4【コンポーシングアーティスト】	
【授業計画の概要】	
自身の作曲あるいは作詞作品を自ら表現(演奏、歌唱等)することを目的とし、そのために必要な技術や感性を、その学生が目指す目標に沿って、アドバイス、指導、ともに研究をする。学生が音楽理論的なことをどこまで理解しているのかによって臨機応変に指導を展開。なお2年生ではライブ実践を行なう。また、卒業後の進路、または自身の希望する道などを随時学生に確認しながら、その内容に沿った『ポップス音楽』の現状、音楽業界の現状を取り入れ指導してゆく。	
【授業の到達目標】	
それぞれの学生は音楽産業に於ける自身の目標が非常に多岐に渡るため、その学生の目的と理解度に見合った指導をする。	
【成績評価の方法】	
前期は学園祭含む作品に於ける企画、創作過程(70%)、レッスンの出席、受講態度。 後期はライブ実習に於ける企画、創作過程～発表とパフォーマンス(70%)、レッスンの出席、受講態度。	
【授業計画の内容】	
月	内 容
4	作曲意図について～イメージを音符に翻訳するという事(復習)、映像と音楽、背景音楽とは。 芝居と音楽
5	
6	
7	「ライブ実践」用の作曲～アドバイス、自身で創作して来る期間
8	
9	
10	「ライブ実践」作品アドバイス、パフォーマンス・ステージング研究、ライブ実践を終えての復習
11	
12	
1	アーティストとしての心構え、業界のマナー再考とともに、二年間の復習、オーディションに向けて
2	
3	

科目名 専攻実技1・2【音楽教養】	
【授業計画の概要】	
<p>個々のレベル、目標に沿ったレッスンを行う。基礎力を磨き、豊かな表現力を身につける。</p> <p>【声楽を学ぶ者】 声楽は、自分自身が楽器であり、言葉を伴い、旋律と歌詞の融合により成り立っていることを学ぶ 自分の体を楽器として認識し、無理のない呼吸法、発声法等を身につけていきます。</p> <p>【ピアノを学ぶ者】 ピアノ演奏の基礎力を高める。様式に基づいた演奏法の習得。 演奏技術の向上を目指した学習をする。</p> <p>【木管楽器を学ぶ者】 木管楽器の専門的演奏を目指す上での基本的奏法の訓練を習得。 ロングトーンを含めた様々なパターンのスケールとエチュードを柱にした練習方法の習得。 「音質、音色、音程」を整えながら「姿勢と呼吸」「フィンガリングと指の形」「アンブッシュュア」「タンギング」「スラー」「ビブラート」等、演奏の土台となる基本的技術を身につけ基本的な感覚を養う。</p> <p>【金管楽器を学ぶ者】 基本的奏法及び応用技術の習得。「姿勢」「呼吸法」「リラクセーション」「アンブッシュュア」「フィンガリング」「スロート・コントロール」「リップ・フレキシビリティ」「エンデュランス」「アーティキュレーション」など、演奏の土台となる基本テクニックを習得。</p> <p>【弦楽器を学ぶ者】 専門的な弦楽器の演奏を目指す上で必要な、基本的奏法を習得。 スケール・エチュードの課題を、毎日欠かさず練習する習慣を身につける。 楽譜に書かれていることを忠実に音に表す技術を習得する。 オーケストラの授業を履修することが望ましい。</p>	
【授業の到達目標】	
専攻実技の基礎を学び、教えられた技術を習得する。	
【成績評価の方法】	
学期ごとの実技試験により評価する。	
【授業計画の内容】	
月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎練習方法を学ぶ ・練習、楽曲の知識の修得
5	
6	
7	
8	
9	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎練習方法を学ぶ ・練習、楽曲の知識の修得
10	
11	
12	
1	
2	
3	

科目名 専攻実技3・4【音楽教養】	
【授業計画の概要】	
<p>専攻実技1・2で培った演奏技術のレベルアップを図る。個々のレベル、目標に沿ったレッスンをを行う。基礎力を磨き、豊かな表現力を身につける。レパートリーを増やす。</p> <p>【声楽を学ぶ者】 1年次で学んできた事を継続。さらに呼吸法、発声法、発語法を追求、多くの曲に活かしていく。</p> <p>【ピアノを学ぶ者】 1年で学んだ内容を基に、更なる表現力の拡大とそのための演奏技術向上を目指した学習をする。</p> <p>【木管楽器を学ぶ者】 1年で学んだ基本的奏法の訓練と応用技術の研究を更に発展させる。卒業に向け演奏するための総合力を高め、芸術的な幅を広げることを目指します。</p> <p>【金管楽器を学ぶ者】 1年に引き続き、基礎奏法を中心に勉強を行います。更に応用技術の修得にも目を向けていきます。</p> <p>【弦楽器を学ぶ者】 1年で身に付けてきた奏法で、まだ足りない部分を習得。より高度なスケールやエチュードに取り組む。演奏技術、表現力が向上するよう努力する。楽譜に書かれている、細かい指示や表示を読み取る。アンサンブルをする機会があれば、積極的に参加し、自分の音だけでなく、周囲の音も聞きながら演奏することを心がける。</p>	
【授業の到達目標】	
1年で習得した内容および技術を基に、更なる表現力を高める。	
【成績評価の方法】	
学期ごとの実技試験により評価する。	
【授業計画の内容】	
月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎練習方法を学ぶ ・応用練習方法を学ぶ ・演奏表現方法を学ぶ ・練習、楽曲の知識の修得
5	
6	
7	
8	
9	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎練習方法を学ぶ ・応用練習方法を学ぶ ・演奏表現方法を学ぶ ・練習、楽曲の知識の修得
10	
11	
12	
1	
2	
3	

科目名	副科実技 I A/B(ピアノ)	
【授業計画の概要】		
<p>ピアノは広い音域と豊かな響きを持ち、オーケストラもイメージ可能な楽器であるため、副科ピアノは各自の専攻分野に於いて総合的に音楽を構築するために学習するものである。1年次は基礎的な奏法を中心に学習する。試験に備え、日頃より暗譜で演奏することを心がける。</p>		
【授業の到達目標】		
<p>I Aでは、ピアノを弾く正しい姿勢と体、手の使い方を確認し、実践できるようにする。 I Bでは、ピアノの構造を理解した上で、基礎的な奏法が身についている。</p>		
【成績評価の方法】		
実技試験による		
【授業計画の内容】		
月	内 容	
4		
5	ピアノを演奏するための基礎を身につける。 正確な譜読みと適切な運指を学習する。	
6		
7		
8	姿勢、指、手首、腕の使い方を確認する。 副科ピアノ I Aの実技試験	
9		
10		
11	I Aで学んだことをふり返る。 ピアノの構造を理解し、ペダルの使い方を学ぶ。	
12		
1		
2	副科ピアノ I Bの実技試験 副科ピアノ II に向けてレパートリーを広げる。	
3		

科目名	副科実技ⅡA/B(ピアノ)	
【授業計画の概要】		
副科ピアノⅠをふり返る。 ピアノ演奏の技術と音楽的な表現の基本を学習する。 試験に備え、日頃より暗譜で演奏することを心がける。		
【授業の到達目標】		
ⅡAでは時代様式を踏まえた演奏ができる。 ⅡBではさまざまな時代の表現法を理解している。		
【成績評価の方法】		
実技試験による		
【授業計画の内容】		
月	内 容	
4		
5	正確な譜読みと適切な運指を学習する。 技術的問題点を抽出し克服する。	
6		
7		
8	作品の分析及び音楽史の観点も含めて演奏法を学ぶ。 副科ピアノⅡAの実技試験	
9		
10		
11	正確な譜読みと適切な運指を確認する。 作曲家の特徴や時代背景などを理解し、演奏に反映する。	
12		
1	副科ピアノⅡBの実技試験 ピアノの演奏で学んだことを、自身の専攻実技やアンサンブルに生かす。	
2		
3		

科目名	副科実技 I A/B(声楽)
【授業計画の概要】	
<p>自分自身が楽器である認識を持ち、基本的な身体の使い方、呼吸法、また発声に伴う口の使い方の習学を目指します。練習曲としてコンコーネを用いて勉強する事が望ましい。言葉を伴う声楽の特異性を知り、詩の意味を深め歌唱に活かせる様に取り組みます。</p>	
【授業の到達目標】	
<p>一年間を通じてイタリア歌曲、コンコーネを教材として学んでいきます。まずは歌うのに適した立ち方を身につける。また子音と母音を綺麗に発語出来る様にする。イタリア語の読み方を身に付ける。</p>	
【成績評価の方法】	
<p>平常授業に向ける受講姿勢40% 出席30% 授業に向けての家庭学習30%</p>	
【授業計画の内容】	
月	内 容
4	
5	<p>主要課題:発声練習で姿勢、腹式呼吸、口の使い方を認識 ・練習曲を中心に身体の使い方、声の出し方を認識しながら歌う</p>
6	
7	
8	<p>主要課題:イタリア歌曲を歌う ・イタリア歌曲を学び、詩への理解とイタリア語の発音の取り組む ・夏休みの学習計画を立てる ☆夏休みにはこれまで学んで来た発声、練習曲、イタリア歌曲を見直しておく</p>
9	
10	
11	<p>主要課題:前期で学んだ呼吸法、発声法をさらに深める ・旋律と詩を融合させてレガートに歌う事を学ぶ</p>
12	
1	
2	<p>主要課題:一年間の纏め ・これまで学んで来たイタリア歌曲を復習し表現力の幅を広げる ・春休みの学習計画を立てる</p>
3	

科目名	副科実技Ⅱ A/B(声楽)
【授業計画の概要】	
	副科実技Ⅰで学んだ事を2年次にも継続。呼吸法、発声法の学習を進め表現力を習得。イタリア語だけでなく、ドイツ語、日本語等個人のレベルに合わせて取り組んで行く事も望ましい。引き続きコンコーネ等の練習曲も積極的に学習に取り入れて行く。
【授業の到達目標】	
	一年間学んで来た事を更に継続して安定した歌唱法を身に付ける。歌う事に慣れて来たらレガート唱法を意識して表現する。また、言葉の持つ意味合いを意識して歌える様にして行く。
【成績評価の方法】	
	平常授業に向ける受講姿勢40% 出席30% 授業に向けての家庭学習30%
【授業計画の内容】	
月	内 容
4	
5	主題課題:レガート唱法を身に付ける 練習曲で学んだ母音唱法をイタリア語に活かし、レガート唱法を学習する
6	
7	
8	主要課題:イタリア語以外の外国語にも取り組んで行く ・個人の力に応じてイタリア歌曲以外の外国歌曲や日本歌曲の学習により多くの曲を知る ・夏休みの学習計画を立てる ☆夏休みにはこれまで学んで来た発声、練習曲、歌曲を見直しておく
9	
10	
11	主要課題:詩の意味を汲み取り、歌唱力を深めて行く ・声楽に不可欠な詩の意味を租借して歌唱に表して行く
12	
1	
2	主要課題:二年間の纏めをする ・二年間学んで来た作品の復習 ・この二年の学習で終わらせるのではなく、平生から歌う事を続けて行く
3	

科目名		副科実技 I A/B(管弦打)(弦楽器)
【授業計画の概要】		
<p>弦楽器の音色は大変美しく、多くの人に愛されている。 美しい音色を鳴らすためには、正しい奏法を身に付けなければならない。 基本的奏法を学び、きれいな音、正しい音程を作れるようにする。 「音を作る、音程を作る」という行為は、音を注意深く聴く習慣ができ、専門楽器の演奏の向上にもつながる。</p>		
【授業の到達目標】		
正しい楽器の構え方、正しい弓の持ち方を身に付ける。		
【成績評価の方法】		
実技試験による。		
【授業計画の内容】		
月	内 容	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・初心者 基本的な奏法の習得 ・経験者 基本的奏法の見直し ・各 自 それぞれの能力にあった楽曲を学習する。 	
5		
6		
7	<ul style="list-style-type: none"> ・教則本に沿って、練習を進める。 ・楽器の特性を理解する。 ・前期実技試験。 	
8		
9		
10	<ul style="list-style-type: none"> ・教則本に沿って、新しい技術を身に付ける。 ・学習したことを基に、試験曲を決め、練習する。 	
11		
12		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ伴奏と合わせ、基本的なアンサンブルを経験する。 ・後期実技試験。 ・試験の結果を踏まえ、改善点を確認する。 	
2		
3		

科目名		副科実技Ⅱ A/B(管弦打)(弦楽器)
【授業計画の概要】		
副科Ⅰに引き続き、更に基本的奏法の習得に重点を置く。 弦楽器は、室内楽・弦楽合奏・オーケストラなどの合奏を楽しむことができる。 簡単なアンサンブルが出来るような技術を身に付けることを、目標にする。		
【授業の到達目標】		
美しい音程感覚が身に付いている。		
【成績評価の方法】		
実技試験による		
【授業計画の内容】		
月	内 容	
4		
5	<ul style="list-style-type: none"> ・悪い癖が付いていないか点検し、正しい姿勢、フォームを身に付ける。 ・それぞれの能力にあった楽曲を学習する。 	
6		
7		
8	<ul style="list-style-type: none"> ・弦楽器特有の音程のとり方、作り方を学ぶ。 ・前期実技試験。 	
9		
10		
11	<ul style="list-style-type: none"> ・教則本に従い、更に技術を高める。 ・自分の専門楽器と、弦楽器の表現方法の違いを認識する。 ・学習したことを基に、試験曲を決め、練習する。 	
12		
1		
2	<ul style="list-style-type: none"> ・後期実技試験。 ・2年間で身に付けた楽器の演奏技術を、卒業後も生かすことが出来る環境を作る。 	
3		

科目名	副科実技 I A/B(管弦打)(木管楽器)	
【授業計画の概要】		
副科実技(管弦打・木管) I A/B 副科とはいえ日々の練習を重ねることが重要です。レッスンでは、基本奏法・基礎知識の習得が中心となります。		
【授業の到達目標】		
副科実技木管 I Aでは、任意の楽曲(演奏時間5分程度)を演奏できる能力を身に付けることとします。		
【成績評価の方法】		
実技試験によります		
【授業計画の内容】		
月	内 容	
4	副科実技木管 I Aの授業開始 ・基本奏法の習得 ・基礎知識の習得 ・各学生の演奏レベルに応じたエチュード、楽曲の研究	
5		
6		
7	・実技試験課題楽曲選び ・実技試験に向けてのレッスン ・実技試験 副科実技木管 I Bの授業開始	
8		
9		
10	・スケール練習開始 ・基本奏法の習得 ・基礎知識の習得 ・実技試験課題楽曲選びと研究	
11		
12		
1	・実技試験に向けてのレッスン ・実技試験 ・1年間の点検と評価 ・来年度の計画を立てる	
2		
3		

科目名		副科実技ⅡA/B(管弦打)(木管楽器)
【授業計画の概要】		
		副科実技(管弦打・木管)ⅡA/Bでは、副科実技ⅠA/Bでの学習を基に基本奏法・基礎知識の習得を更に発展させたレッスンになります。
【授業の到達目標】		
		副科実技木管ⅡAでは、スケール練習では#・b2つ以上の長音階、短音階が吹けるようにすることと簡単なオリジナル曲を吹けるようになることとします。
【成績評価の方法】		
		実技試験によります
【授業計画の内容】		
月	内 容	
4	副科実技木管ⅡA授業開始 ・基本奏法の習得 ・基礎知識の習得 ・各学生の演奏能力レベルに応じた練習曲、楽曲の研究	
5		
6		
7	・実技試験課題楽曲選び ・実技試験に向けてのレッスン ・実技試験 副科実技木管ⅡBの授業開始	
8		
9		
10	・基本奏法の習得 ・基礎知識の習得 ・実技試験課題楽曲選びと研究	
11		
12		
1	・実技試験に向けてのレッスン ・実技試験 ・1年間の点検と評価 ・卒業後の計画を立てる	
2		
3		

科目名	副科実技 I・II A/B(管弦打)(金管楽器)	
【授業計画の概要】		
<p>管弦打の各楽器は、ソロ楽器としては言うまでもなく、オーケストラ・吹奏楽・室内楽など、様々な合奏グループの一貫として活躍している。 副科とはいえ、上達のためには第2の専攻というぐらいの意識を持ち、日々の練習を重ねることが、重要且つ不可欠である。 レッスンでは基本奏法・基礎知識の修得が中心となる。</p>		
【授業の到達目標】		
<p>授業内容を深く理解し、演奏能力を更に向上させる。</p>		
【成績評価の方法】		
<p>実技試験による</p>		
【授業計画の内容】		
月	内 容	
4	<p>(前期) ・基本奏法の修得 ・基礎知識の修得 ・実技試験のための楽曲、又は練習曲の研究</p>	
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
1	<p>(後期) ・基本奏法の修得 ・基礎知識の修得 ・実技試験のための楽曲、又は練習曲の研究 ・1年間の点検と評価 ・今後の課題検討、及び来年度の計画作成</p>	
2		
3		

科目名	ウィーンアカデミー
【授業計画の概要】	
音楽の都ウィーンの空気と雰囲気に触れることによって、参加者自身の音楽観を深めること。	
【授業の到達目標】	
音楽の都と言われるウィーンを自然、風土、環境を理解し、音楽文化の育ってきた情景を理解する。	
【成績評価の方法】	
研修期間中にレポート提出	
【授業計画の内容】	
月	内 容
4	
5	1. A. 専攻実技レッスン ウィーン特有の感性に触れると同時に伝統的表現方法を学ぶ。
6	B. 音楽療法 a.音楽療法における人類学:様々な文化と時代による音楽的療法 b.身体医学入門:身体医学の仮説と行動計画 c.グループによる音楽療法:精神療法的音楽療法理論と実践、即興演奏、楽器での表現、コミュニケーション d.楽器としての身体:主観的構造と生理学、理論と実践、声と響き、身体表現 e.現場ビデオによる現場紹介、又は施設訪問
7	
8	
9	2. オーストリア事情 歴史的背景をもとに、ハプスブルグ家を中心としたヨーロッパ文化の中心としてのウィーン音楽の意義
10	3. ピアノ教育法(ピアノ専攻) (Ⅰ)絵入り楽譜でピアノ教育法を実践的に学ぶ(子供・初心者への教育) (Ⅱ)各時代による表現方法の違い等(大人・すでに弾ける人への教育)
11	4. 朗読法(声楽専攻):テキストはその都度決められる 5. 楽曲分析(声楽専攻):ソロ・コロペティツィオン:専門家による歌唱指導 6. 楽曲解釈(全員):時代別スタイルと表現法 7. 音楽史跡研究:主として大作曲家の史跡等を訪れる
12	8. 文化史体験:美術館を訪れ、音楽と美術等、他の文化との関係を探る 9. 音楽鑑賞(2回):国立歌劇場、フォルクスオパー、ムジークフェライン(楽友協会)、コンツェルトハウス等の公演鑑賞
1	10. 自由研修 11. 修了演奏会(基本的に全員参加) 12. レポート:その都度出されたテーマについて作成し提出する。
2	その他、ザルツブルグ研修も行われる
3	

科目名	ヒューマンコミュニケーション1・2
【授業計画の概要】	
<p>本学の学生は、建学の精神である「音楽芸術の研鑽の一貫教育を通じ、情操豊かな人格の形成を目途とする」を学び、更に幅広く、深い教養を身につけることにより現代社会の中で、音楽に関わる者として知的創造性を高め、人間への深い理解を持ってコミュニケーションを図ることが重要である。それによって形成される広い視野の中で、音楽表現の実践や音楽教育は生きたものになると考える。 このような理念の実践の場として下記の通り必修科目〔各学年1単位〕を設定する。</p>	
【授業の到達目標】	
音楽を学ぶ者として広い視野を修得し、自分の音楽活動を更に高めることが出来る。	
【成績評価の方法】	
授業内容を総合的に評価する。	
【授業計画の内容】	
月	内 容
4	<p>【目標】 1) 行事に参加する中から責任を持って成し遂げたよこびを体験する ・行事の意義を十分に理解し、積極的に参加し、協力し、本学学生として参加したことに喜びを見出す。</p> <p>・計画段階、事前準備段階、実施段階、事後処理段階までそれぞれにおいて創意工夫し、責任を持って遂行することの大切さを自覚し、友人とのコミュニケーションをはかる中において、社会人としての自覚を養う。</p> <p>2) 音楽活動等の体験を通じたボランティア活動を実施することによって、社会に貢献し、人間形成の育成をはかる。・本学で学んだ音楽的感性、豊かな情操を学園の内外において一人一人の学生が自ら参加し、ボランティア活動等の奉仕にかかわる体験活動を通して社会性を身につける。</p> <p>【単位】 ポイント制により年間15ポイント以上取得することで1単位認定する。〔尚、余剰ポイントは次年度には、繰り越さない〕単位履修のためのポイント項目東邦祭・定期研究発表演奏会・公開講座・大学短大の認めた演奏会・大学短大の認めたコンクール・大学短大の認めたボランティア活動、及び大学短大の認めた上記項目に類するもの。 〔各項目のポイント数は、別途定め告示する。〕</p>
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
1	
2	
3	

科目名(クラス)	インターンシップ		開講学期		単位数	2	配当年次	1・2
担当教員	キャリア支援センター	履修対象・条件	選択					
【授業の概要】								
<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休暇期間を利用して、行政機関や一般企業において実際に就業実務を体験してみることで、現実に働くとはどういうことなのかを知り、卒業後の自分を考える機会としてほしい。 ・2週間の就業体験を通して社会を知り、己を知ることによって就職活動への心構えを養うことができる。 								
授業の到達目標								
<ul style="list-style-type: none"> ・学生が就業体験を通して、企業や社会の実情を知ること、仕事に対する興味や関心を高め、自らの適性や適職を考え、職業選択につなげることを目的とする。 ・実際の体験を自ら多くの人前で発表することで、プレゼンテーション能力育成にもつながる。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
・事前の研修・セミナー出席と現場での実習、事後のレポート提出と学内発表会での成果発表を要件とする。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・参加希望者はキャリア支援センターに参加申込書を提出すること。 ・インターンシップの受入先が限られており、希望者が多い場合は、選考のうえ受入先が決定した時点で登録となります。 ・独自に希望する研修先の場合も学校指定同様の形式・基準に従い、事前申請するものとする。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップを実際に体験することが大前提となります。且つ以下の条件を満たした者に単位を認定する。 ※指定の事前研修に出席すること。 ※2週間(実質10日間以上)の実習をおこなうこと。 ※体験レポートを提出すること。 ※インターンシップ体験先の外部評価が著しく低い事。 ※学内発表会で成果を発表すること。 								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	ガイダンスにて、インターンシップ実施の目的、意義、手続き、スケジュールなどの説明。			予習: インターンシップに対しての自分の目的を明確にする。 復習: 配布資料を読み返し、内容を理解し、スケジュールを確認する。				
第2回	募集開始: 希望学生は参加申込書を提出。 「自分の目的と研修先の整合性を考える。」			予習: 参加した先輩などから行先の情報を入手する。 復習: 研修先について自分なりに企業について調べてみる。				
第3回	事前研修①インターンシップ参加の心構え、就業活動全般について 「就職活動の中でのインターンシップの位置づけを理解する。」			予習: 就活スタートを意識する。 復習: 自分なりのスケジュールを作成する。				

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	事前研修②マナー講座受講 「社会人としてのルール・マナーを身につける。」	習:参加にあたっての心構えを考えておく。 復習:配布された資料・マニュアルを 読み返す。
第5回	事前研修③:具体的活動にむけた準備。 「実習先のことを知る。注意事項伝達など」	予習:研修の目的を考えておく。 復習:配布された資料・マニュアルを 読み返す。
第6回	インターンシップ実習(2週間) 「1日を振り返り、日報を作成する」	予習:実習先からの案内・指示を再確認し、 日葡作成と翌日の準備をする。 復習:実習をふり返り、レポート作成にむけ 準備をする。
第7回	体験レポート提出 「実習を振り返り、自分の活動をまとめる。」	予習:日報を読み返す。 復習:発表にむけた準備をする。
第8回	学内成果発表会での発表 「プレゼンテーション能力を強化を図る。」	予習:発表内容を確認し、資料の準備と 台本を作成しリハーサルをする。 復習:発表について自己評価し、他人から の意見をもらう。
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

科目名	地域創造A・B	
【授業計画の概要】		
地域の学校・演奏団体等の現場において、指導・行事・学校等における部活動等の補助活動を行い地域児童・生徒等とのふれあい体験を行う。		
【授業の到達目標】		
地域及び学校を理解し、音楽指導者としての資質を高める。		
【成績評価の方法】		
学校等教育現場においては現場教師等の評価と成果の発表等を総合的に判断して評価する。 演奏団体等の現場においては学期ごとに、指導に対する取組む姿勢及び指導実績により評価する。		
【授業計画の内容】		
月	内 容	
4		
5	学校等教育現場においては	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・現場に対応した事前指導 ・教育等現場の事前知識の取得 ・現場教員(指導者)とのコミュニケーションの確立 ・児童、生徒とのコミュニケーション力の修得 ・成果の発表 	
7	演奏団体等の現場においては	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎練習方法を学ぶ ・楽器の知識の修得 ・楽曲の知識の修得 ・アンサンブルの指導法、知識の修得 	
9		
10		
11	学校等教育現場においては	
12	<ul style="list-style-type: none"> ・現場に対応した事前指導 ・教育等現場の事前知識の取得 ・現場教員(指導者)とのコミュニケーションの確立 ・児童、生徒とのコミュニケーション力の修得 ・成果の発表 	
1	演奏団体等の現場においては	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎練習方法を学ぶ ・楽器の知識の修得 ・楽曲の知識の修得 ・アンサンブルの指導法、知識の修得 	
3		

科目名(クラス)	P.M.E I A		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	峰村 知子	履修対象・条件						
【授業の概要】								
電子オルガン(ステージA01C,02C)を使い、音楽の基礎知識であるスケールカデンツの効果的な練習法やコードの仕組み、アレンジやモチーフからの発展などを総合的に学びます。 また、ヤマハのエレクトーングレード6～5級程度のレベルの曲をレパートリーとしエレクトーン機能や仕組みも学びます。								
【授業の到達目標】								
エレクトーン講師やヤマハシステム講師などを目指すレベルの即興力や楽典を身につけます。								
【授業の「方法」と「形式」】								
実習								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
三段鍵盤を使うことに慣れていない場合は練習が必要となります。即興的に音を出す場合が多くありますが、基礎であるスケールカデンツ、コードの仕組みを理解すれば必ずできるようになるので積極的に参加する意欲をもってきてください。復習が大事です。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
授業参加への意欲と準備。学期末定期試験(実習:レパートリー曲と一段譜へのコードづけ、簡単なバリエーション)。								
教科書	エレクトーン即興演奏法(基礎編)	著者等		出版社				
教科書	エレクトーンスケールカデンツブック	著者等		出版社				
参考文献	エレクトーンコードトレーニングブック	著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	電子オルガンの使い方や奏法			音出しができ、データの読み込みや保存法を予習・復習。楽器の使用方法などをメモを取り復習する。				
第2回	スケールカデンツでトレーニングしてから一段譜の既知曲にコードをつける			Cメロ既知曲を簡単なワンコーラスにまとめるように予習。				
第3回	第二回で実習した曲のアレンジ			ベースラインの作り方を学び、予復習				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	メロ移調とコードの知識。アレンジ実習。レパートリー取り組み開始	調性と音程の仕組み、和音の長短の性格の違いを予習しておく。アレンジの弾き込みを復習。
第5回	スケールカデンツとコードの転回、連結の理解。トレーニング実習。アレンジ実習。	三段鍵盤でのコード連結を予習。ベースとハーモニーのたてを揃えて素早く弾けるように復習。
第6回	ダイアトニックコードの理解とトレーニング。アレンジ実習。	長調と短調のコードの理解を予習。ダイアトニックの転回を習得できるよう弾き込み。
第7回	主要三和音とそれ以外の和音の機能を学ぶ。アレンジ実習。	与えられた既知曲でない一段譜を譜読みする。主要三和音を使い、適宜転回系や二度などの和音を入れられるように復習する
第8回	T-SD-Dの置き換え。アレンジ実習。	ベースラインと内声の連結を考える。弾き込み。
第9回	メロのフェイク。アレンジ実習。	もとのメロディーから変奏を加える。弾き込み。
第10回	メロのフェイク。アレンジ実習。	非和声音を使い変奏ができるようにする。弾き込み。
第11回	伴奏スタイルのバリエーションを加え、2コーラスでまとめる。	伴奏に変化を加え、2コーラス通して作り弾く。弾き込み。
第12回	伴奏スタイルを8beat、2beat、ボサノバなどに変えリズムと合わせる。リズム出し等必要な楽器の操作法を学ぶ。	バックギングパターンを知る。弾き込み。
第13回	様々な課題で実習。復習と定着。	予復習。弾き込み。
第14回	同上	予復習。弾き込み。
第15回	レパートリー発表と一段譜を2コーラス程度にアレンジして学期末定期試験とする。	総括、データのまとめ

科目名(クラス)	P.M.E I B		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	峰村 知子	履修対象・条件						
【授業の概要】								
電子オルガン(ステージA01C,02C)を使い、音楽の基礎知識であるスケールカデンツの効果的な練習法やコードの仕組み、アレンジやモチーフからの発展などを総合的に学びます。 また、ヤマハのエレクトーングレード6～5級程度のレベルの曲をレパートリーとしエレクトーンの機能や仕組みも学びます。								
【授業の到達目標】								
エレクトーン講師やヤマハシステム講師などを目指すレベルの即興力や楽典を身につけます。								
【授業の「方法」と「形式」】								
実習								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
三段鍵盤を使うことに慣れていない場合は練習が必要となります。即興的に音を出す場合が多くありますが、基礎であるスケールカデンツ、コードの仕組みを理解すれば必ずできるようになるので積極的に参加する意欲をもってきてください。復習が大事です。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
授業参加への意欲と準備。学期末定期試験(実習:レパートリー曲と一段譜へのコードづけ、簡単なバリエーション)。								
教科書	前期と同様	著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	前期内容の復習			前期の未達部分をピックアップしておく				
第2回	セブンスコードの理解。副属七の理解とコード付けに幅をつけていく方法を学ぶ。レパートリーの決定。			#b一つまでの調で使うドッペルドミナントがつけられる。弾き込み。				
第3回	既知曲で副属七をコードネームをみて判断し、コードをつかめるようにする。			弾き込み				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	様々なセブンスコードを学ぶ。	M7、m7m7b5などの理解。カデンツの復習
第5回	セブンスコードの分解。ツーファイブを学ぶ。アレンジ実習。	#b一つまでの調で使うツーファイブがつけられる。カデンツの応用と拡大。
第6回	モチーフ(2小節程度)の続きを8~16小節作る。	弾き込み。モチーフの特徴をつかむ。
第7回	モチーフ即興へ向けてスケールカデンツの応用。トレーニングと調の拡大。	弾き込み。#b一つまでの調でハーモニー進行が作れメロが続けられる。
第8回	既知曲のアナリゼとモチーフ即興の実習。	弾き込み。一定のテンポで弾けるようにする。
第9回	モチーフ即興の伴奏のバリエーションと音色選びや奏法を学び、ブラッシュアップ。	弾き込み。より音楽的に仕上げる。
第10回	拍子とスタイルの様々な対応できるモチーフ即興展開を学ぶ。	弾き込み。モチーフの特徴をつかみ更に展開を複数イメージできる。
第11回	モチーフ即興の組み立ての色々を学ぶ。コード進行や調の拡大(副属七やツーファイブの置き換えと転調)1	弾き込み。
第12回	モチーフ即興の組み立ての色々を学ぶ。コード進行や調の拡大(副属七やツーファイブの置き換えと転調)2	弾き込み。
第13回	モチーフ即興の組み立ての色々を学ぶ。コード進行や調の拡大(副属七やツーファイブの置き換えと転調)3	弾き込み。
第14回	これまでの後期まとめと復習	弾き込み。
第15回	学期末試験(レポートリーとモチーフ即興課題の実施)	弾き込み。

科目名(クラス)	P.M.EⅡA		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	峰村 知子	履修対象・条件						
【授業の概要】								
電子オルガン(ステージA01C,02C)を使い、音楽の基礎知識であるスケールカデンツの効果的な練習法やコードの仕組み、アレンジやモチーフからの発展などを総合的に学びます。 また、ヤマハのエレクトーングレード6～5級程度のレベルの曲をレパートリーとしエレクトーンの機能や仕組みも学びます。								
【授業の到達目標】								
エレクトーン講師やヤマハシステム講師などを目指すレベルの即興力や楽典を身につけます。								
【授業の「方法」と「形式」】								
実習								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
三段鍵盤を使うことに慣れていない場合は練習が必要となります。即興的に音を出す場合が多くありますが、基礎であるスケールカデンツ、コードの仕組みを理解すれば必ずできるようになるので積極的に参加する意欲をもってきてください。復習が大事です。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
授業参加への意欲と準備。学期末定期試験(実習:一段譜アレンジ3コーラス程度とモチーフ即興。楽典筆記テスト)。								
教科書	エレクトーン即興演奏法(基礎編)	著者等		出版社				
教科書	エレクトーンスケールカデンツブック	著者等		出版社				
参考文献	エレクトーンコードトレーニングブック	著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	一段譜アレンジ実習にて復習。スコアリーディング、楽典、聴音書き取りなども行う。			調号2つまででTDSが押さえられる。実習の復習。				
第2回	セブンスコードの連結(M7、m7、m7b5など)。四音をつくる。ブロック奏法。			調号3つまでの調でTDSのコードネームが書け、読める。				
第3回	ツーファイブとドミナントモーション。アレンジ実習。			プリントで復習。置き換えや分解の理解ができる。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	サブドミナント機能を知る。アレンジ実習。レパートリー決め。	実践で使えるよう弾き込み。
第5回	コードプログレッションのまとめ	弾き込み。
第6回	代理コード。アナリーゼとアレンジ実習。	置き換えや分解の理解ができる。
第7回	代理コード。アナリーゼとアレンジ実習。	実践で使える。
第8回	代理コード。アナリーゼとアレンジ実習。	弾き込み。
第9回	テンションコードとノンコードトーンを使ったフレーズを作る。アレンジ実習。	和音の置き換えができる。フェイク、アドリブフレーズをつくる。
第10回	経過和音dim, augを使ってアレンジ実習。	コードの種類を広げて使える。
第11回	アレンジ実習。 一段譜の既知曲と未既知曲に対し、コードを適切につけ、伴奏スタイルを選び2-3コーラス程度にまとめる。	和音の置き換えができ、尚かつ、フェイク、ブロック奏法ができる。
第12回	アレンジ実習。 スタイルにあったバックিং、ベース、カウンターラインをつくり、一段譜をアレンジとして仕上げていく。	スタイルの判別ができ、伴奏をつくる。
第13回	アレンジ実習。 コードプログレッションで学んだことからオリジナルの進行を作り、メロディーを作ることができる。	オリジナル曲を即興的につくる。
第14回	アレンジ実習。 モチーフをいかした曲作り。	16~32程度の調号2つまでの曲作りができる。
第15回	一段譜のアレンジ3コーラス程度とモチーフ即興(オリジナル)の発表。 楽典の確認。	弾き込み。

科目名(クラス)	P.M.EⅡB		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	峰村 知子	履修対象・条件						
【授業の概要】								
前期の学んだことを実践的に使いこなす。アレンジ実習を繰り返す。								
【授業の到達目標】								
ヤマハグレード5q受験を目指す。								
【授業の「方法」と「形式」】								
実習								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
前期までの知識の理解を定着させる。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
授業参加への意欲と準備。 学期末定期試験(実習:一段譜アレンジ3コーラス程度とモチーフ即興。楽典筆記テスト。レパートリー1曲)。								
教科書	授業内で指示	著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	一段譜アレンジ実習にて復習。スコアリーディング、楽典、聴音書き取りなども行う。			ヤマハ指導グレード5qレベルの楽典、ハーモニー付けができる。プリント復習。				
第2回	既知曲のアナリゼとモチーフ即興の実習。長調#b4つまでの移調			調号4つまでの移調。ノート提出。				
第3回	第二回で書いた物をブラッシュアップし演奏。			調号5つまでの移調。ノート提出。演奏復習。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	既知曲のアナリーゼとモチーフ即興の実習。短調#b4つまでの移調。	調号4つまでに移調。ノート提出。
第5回	第四回で書いた物をブラッシュアップし演奏。	調号5つまでに移調。ノート提出。演奏の復習。
第6回	拍子とスタイルの様々な対応できるモチーフ即興展開を学ぶ。	伴奏の変化を加える。演奏の復習。
第7回	モチーフ即興の組み立ての色々を学ぶ。コード進行や調の拡大(副属七やツーファイブの置き換えと転調)1	複数の構成を理解する。
第8回	モチーフ即興の組み立ての色々を学ぶ。コード進行や調の拡大(副属七やツーファイブの置き換えと転調)5	複数の構成を理解する。
第9回	モチーフ即興の組み立ての色々を学ぶ。コード進行や調の拡大(副属七やツーファイブの置き換えと転調)6	複数の構成を理解する。ノート提出。
第10回	一段譜既知曲のリハーモナイズ	コードプログレッションの知識を活用する。
第11回	①第十回で作ったもののブラッシュアップ。伴奏スタイルや音色を決め、アレンジしていく。	コードプログレッションの知識を活用する。ノート提出。
第12回	②第十回で作ったもののブラッシュアップ。伴奏スタイルや音色を決め、アレンジしていく。	弾き込み。
第13回	①モチーフ即興とアレンジ曲の仕上げ。	弾き込み。
第14回	②モチーフ即興とアレンジ曲の仕上げ。	弾き込み。
第15回	仕上げと発表で本科目の総括。	弾き込み。

科目名(クラス)	日本事情 I A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	一林 久美子	履修対象・条件	留学生のみ履修可					
【授業の概要】								
<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法が保障している基本的人権について学ぶ。 ・選挙や三権分立の考え方を通して民主政治を理解する。 ・現代社会が抱えている少子高齢化、グローバル化・情報化に伴う問題を考える。 								
【授業の到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> ・日本社会について理解が進む。 ・自国との社会構造の違いについて話すことができる。 ・日本の社会構造について知ることによって留学生活がしやすくなる。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
・課題についての講義を聴き、自国の事情を比較し、理解を深める。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に参加することを望む。 ・必要があれば自国の事情を調査しておくこと。 ・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度 40% ・筆記試験(小テストと期末テスト)60% 								
教科書	中学公民をひとつひとつわかりやすく。	著者等	寺南純一他	出版社	学研教育出版			
教科書	日本まるごと事典	著者等	インターナショナル・インターンシップ・プログラムズ	出版社	講談社インターナショナル			
参考文献	国境を越えて	著者等	山本富美子	出版社	新曜社			
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	オリエンテーション			予習: シラバスを読み視点を押さえておく。 復習: 教科書全体の視点を読み取る。				
第2回	課題1 少子高齢化			予習: 教科書にある語彙を調べる。 復習: 授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。				
第3回	課題2 グローバル化			予習: 教科書にある語彙を調べる。 復習: 授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	課題3 日本国憲法と人権思想	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第5回	課題4 基本的人権	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第6回	課題5 自由権、社会権	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第7回	課題6 環境権・知る権利・プライバシーの権利	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第8回	課題7 選挙・政党	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第9回	課題8 国会のしくみ	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第10回	課題9 衆議院・参議院	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第11回	課題10 内閣	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第12回	課題11 民事裁判・刑事裁判	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第13回	課題12 三権分立	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第14回	課題13 地方自治	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第15回	まとめ	予習:各回のテーマを振り返る。 復習:これまで十分な理解ができなかったところを学び理解を進める。

科目名(クラス)	日本事情 I B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	一林 久美子	履修対象・条件	留学生のみ履修可					
【授業の概要】								
<ul style="list-style-type: none"> 日本の文化・慣習を学ぶ。 目に見える日本の全体の形を絵や言葉や数値で知る。 目に見えない日本文化の背景について理解する。 自国との比較をし、自国の事情をわかりやすく説明する。 								
【授業の到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> 日本の文化について理解が進む。 自国の文化の違いについて話することができる。 日本の文化について知ることによって留学生活がしやすくなる。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
<ul style="list-style-type: none"> 課題についての講義を聴き、自国の事情を比較し、理解を深める。 								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> 積極的に授業に参加することを望む。 必要があれば自国の事情を調査しておくこと。 授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<ul style="list-style-type: none"> 授業への参加度 40% 筆記試験(小テストと期末テスト)60% 								
教科書	日本まるごと事典	著者等	インターナショナル・インターンシップ・プログラムズ	出版社	講談社インターナショナル			
教科書	中学公民をひとつひとつわかりやすく。	著者等	寺南純一他	出版社	学研教育出版			
参考文献	国境を越えて	著者等	山本富美子	出版社	新曜社			
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	オリエンテーション			予習: シラバスを読み視点を押さえておく。 復習: 教科書全体の視点を読み取る。				
第2回	課題1 日本の地形・自然			予習: 教科書にある語彙を調べる。 復習: 授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。				
第3回	課題2 日本の年中行事			予習: 教科書にある語彙を調べる。 復習: 授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	課題3 日本の衣料:着物	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第5回	課題4 日本人の食生活	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第6回	課題5 日本の住居	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第7回	課題6 日本の儀式:結婚式・葬儀	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第8回	課題7 公共施設:交通・警察・病院	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第9回	課題8 日本の文化1:茶道・生花・盆栽・書道	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第10回	課題9 日本の文化2:俳句・短歌・文学	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第11回	課題10 日本の文化3:能・狂言・文楽	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第12回	課題11 日本の建造物:神社・寺院・城	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第13回	課題12 日本の武道:相撲・柔道・剣道・弓道・合気道	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第14回	課題13 日本の歌	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第15回	まとめ	予習:各回のテーマを振り返る。 復習:これまで十分な理解ができなかったところを学び理解を進める。

科目名(クラス)	日本事情ⅡA		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	一林 久美子	履修対象・条件	留学生のみ履修可					
【授業の概要】								
【授業の到達目標】								
【授業の「方法」と「形式」】								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回								
第2回								
第3回								

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

科目名(クラス)	日本事情ⅡB		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	一林 久美子	履修対象・条件	留学生のみ履修可					
【授業の概要】								
【授業の到達目標】								
【授業の「方法」と「形式」】								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回								
第2回								
第3回								

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

科目名(クラス)	日本語1		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	一林 久美子	履修対象・条件	留学生のみ履修可					
【授業の概要】								
<ul style="list-style-type: none"> ・この授業では、日常生活で使われている日本語のことばや言い方を学習していく。 ・コミュニケーションに必要なことばや自分のことを話すための表現を学習し、問題を解きながら定着を図る。 								
【授業の到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で使われている日本語が理解でき、更に使えるようになる。 ・日本人との日常的なコミュニケーションに自信が持てる。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・各單元ごとに、問題を解くことや文を作ることで定着を計る。 								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に参加することを望む。 ・予習・復習をして理解すること。問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。 ・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度 20% ・筆記試験(小テストと期末テスト)80% 								
教科書	日本語能力試験対策にほんごチャレンジ3級	著者等	吉田聖子他	出版社	アスク			
教科書	留学生のための漢字の教科書 700	著者等	佐藤尚子	出版社	国書刊行会			
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	オリエンテーション			予習:シラバスを読み視点を押さえておく。 復習:教科書全体の視点を読み取る。				
第2回	世界と日本／日本の一年／時間と数			予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:数や数詞の言い方を理解する。小テストに備える。				
第3回	小テスト 一日／一週間			予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:一日の行動を伝えられるようにする。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	形・色の表現／人の体の表現／食べ物・飲み物	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:好きな色、食べ物などについて話せるようにする。小テストに備える。
第5回	小テスト 家庭／夢を語る	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:家族や自分の夢について話せるようにする。これまでのまとめとしての中間テストに備える。
第6回	中間まとめ	予習:まとめの中間テストに備える。 復習:テストでできなかったところを学びなおす。
第7回	買い物／部屋にあるもの	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:学んで語彙を使って買い物をしてみる。
第8回	小テスト 料理と食事／町	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:前に食べた物について話す。料理の説明をする。
第9回	交通／趣味／学校	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:大学までの道筋を語る。趣味や学歴について話す。小テストに備える。
第10回	小テスト 公共物の利用／感情・体調	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:公共施設を利用してみる。自分の感情を表現してみる。
第11回	行動表現／人物表現／パーティ	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:一日やったことを書く。小テストに備える
第12回	小テスト 役所の書類／自己紹介	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:自分の家族について話せるようにする。
第13回	会社の語彙／挨拶	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:会社に関する語彙の理解を深める。自己紹介をする。
第14回	まとめ1	予習:これまでの表現を使って自己紹介や自分のしたことを話せるようにする。 復習:うまく表現できなかったことを復習する。来週の期末テストに備える
第15回	まとめ2	予習:各回のテーマを振り返る。 復習:これまで十分な理解ができなかったところを学び理解を進める。

科目名(クラス)	日本語2		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	一林 久美子	履修対象・条件	留学生のみ履修可					
【授業の概要】								
<ul style="list-style-type: none"> ・この授業では、実社会で使われている日本語の語彙や表現を学習していく。 ・背景知識として日本の文化や商慣習なども考えながら、必要な語彙や表現を学習していく。 								
【授業の到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で使われている日本語が理解でき、更に使えるようになる。 ・日本人との日常的なコミュニケーションに自信が持てる。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・各単元ごとにCDを聴き、問題を解くことや文を作ることで表現の定着を計る。 								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に参加することを望む。 ・それには予習をし、問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。 ・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度 20% ・筆記試験(小テストと期末テスト)80% 								
教科書	中級からはじめるニュースの日本語 聴解40	著者等	瀬川由美他	出版社	スリーエーネットワーク			
教科書		著者等		出版社				
参考文献	外来語言い換え手引き	著者等	国研「外来語」委員会	出版社	ぎょうせい			
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	オリエンテーション			予習:シラバスを読み視点を押さえておく。 復習:教科書全体の視点を読み取る。				
第2回	ニュース1:「ペンギン逃げ出す」			予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。				
第3回	ニュース2:「心を持つ掃除機」			予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	ニュース3:「避難訓練」	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第5回	ニュース4:「眠い日本人」	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第6回	ニュース5:「ネットにいじめの動画」	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第7回	ニュース6:「優先席2倍に増設」	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第8回	ニュース7:「意外と少ないジーンブライト」	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第9回	ニュース8:「一足先に夏」	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第10回	ニュース9:「大手ビールメーカー」	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第11回	ニュース10:「日本は安全な国」	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第12回	ニュース11:「北海道で激しい雷雨」	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第13回	ニュース12:「駅のホームでの事故」	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第14回	ニュース13:「お盆の帰省ラッシュ」	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第15回	まとめ	予習:各回のテーマを振り返る。 復習:これまで十分な理解ができなかったところを学び理解を進める。

科目名(クラス)	日本語3		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	一林 久美子	履修対象・条件	留学生のみ履修可					
【授業の概要】								
<ul style="list-style-type: none"> この授業では、実社会で使われている日本語の語彙や表現を学習していく。 背景知識として日本の文化や商慣習なども考えながら、必要な語彙や表現を学習していく。 								
【授業の到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> 日常生活で使われている日本語が理解でき、更に使えるようになる。 日本人との日常的なコミュニケーションに自信が持てる。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
各单元ごとに、問題を解くことや文を作ることで定着を計る。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> 積極的に授業に参加することを望む。 それには予習をし、問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。 授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<ul style="list-style-type: none"> 授業への参加度 20% 筆記試験(小テストと期末テスト)80% 								
教科書	絵でわかる日本語使い分け辞典1000		著者等	萩原稚佳子	出版社	アルク		
教科書			著者等		出版社			
参考文献	外来語言い換え手引き		著者等	外来語言い換え手引き	出版社	ぎょうせい		
参考文献			著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	オリエンテーション				予習:シラバスを読み視点を押さえておく。 復習:教科書全体の視点を読み取る。			
第2回	4月の語彙				予習:教科書にある4月の語彙を調べる。 復習:授業で学んだ電車に関する語彙の理解を深める。			
第3回	4月の擬声語・擬態語				予習:教科書にある擬声語・擬態語を押さえる。 復習:授業で学んだ飲食に関する語彙の理解を深める。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	5月の語彙	予習:教科書にある5月の語彙を調べる。 復習:授業で学んだ黄金週間に関する語彙の理解を深める。
第5回	5月の擬声語・擬態語	予習:教科書にある擬声語・擬態語を押さえる。 復習:授業で学んだ気持ちに関する語彙の理解を深める。
第6回	4・5月の語彙の復習	予習:4・5月の語彙を再び調べる。 復習:テストでできなかったところを学びなおす。
第7回	6月の語彙	予習:教科書にある6月の語彙を調べる。 復習:授業で学んだ天気に関する語彙の理解を深める。
第8回	6月の擬声語・擬態語	予習:教科書にある擬声語・擬態語を押さえる。 復習:授業で学んだ壊れることに関する語彙の理解を深める。
第9回	7月の語彙	予習:教科書にある7月の語彙を調べる。 復習:授業で学んだ海水浴に関する語彙の理解を深める。
第10回	7月の擬声語・擬態語	予習:教科書にある擬声語・擬態語を押さえる。 復習:授業で学んだ視線に関する語彙の理解を深める。
第11回	6・7月の復習	予習:6・7月の語彙を再び調べる。 復習:テストでできなかったところを学びなおす。
第12回	8月の語彙	予習:教科書にある8月の語彙を調べる。 復習:授業で学んだ夏休みに関する語彙の理解を深める。
第13回	8月の擬声語・擬態語	予習:教科書にある擬声語・擬態語を押さえる。 復習:授業で学んだ祭りに関する語彙の理解を深める。
第14回	9月の語彙	予習:教科書にある9月の語彙を調べる。 復習:授業で学んだ眠りに関する語彙の理解を深める。
第15回	まとめ	予習:各回のテーマを振り返る。 復習:これまで十分な理解ができなかったところを学び理解を進める。

科目名(クラス)	日本語4		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	一林 久美子	履修対象・条件	留学生のみ履修可					
【授業の概要】								
<ul style="list-style-type: none"> ・背景知識として日本の文化や商慣習なども考えながら、必要な語彙や表現を学習していく。 ・日本の社会で使われている日本語が理解でき、更に使えるようになることが、この授業の目的である。 								
【授業の到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で使われている日本語が理解でき、更に使えるようになる。 ・日本人との日常的なコミュニケーションに自信が持てる。 								
【授業の「方法」と「形式」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・各単元ごとに、問題を解くことや文を作ることで定着を計る。 								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に参加することを望む。 ・それには予習をし、問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。 ・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。 								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度 20% ・筆記試験(小テストと期末テスト)80% 								
教科書	絵でわかる日本語使い分け辞典1000	著者等	萩原稚佳子	出版社	アルク			
教科書		著者等		出版社				
参考文献	外来語言い換え手引き	著者等	国研「外来語」委員会	出版社	ぎょうせい			
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	オリエンテーション			予習:シラバスを読み視点を押さえておく。 復習:教科書全体の視点を読み取る。				
第2回	9月の擬声語・擬態語			予習:教科書にある擬声語・擬態語を調べる。 復習:授業で学んだ体型に関する語彙の理解を深める。				
第3回	10月の語彙			予習:教科書にある語彙を押さえる。 復習:授業で学んだ泣き方に関する語彙の理解を深める。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	10月の擬声語・擬態語	予習:教科書にある擬声語・擬態語を押さえる。 復習:授業で学んだ泣き声に関する語彙の理解を深める。
第5回	9・10月の語彙の復習	予習:9・10月の語彙を再び調べる。 復習:テストでできなかったところを学びなおす。
第6回	11月の語彙	予習:教科書にある11月の語彙を調べる。 復習:授業で学んだ剥がし方に関する語彙の理解を深める。
第7回	11月の擬声語・擬態語	予習:教科書にある擬声語・擬態語を押さえる。 復習:授業で学んだ働き方に関する語彙の理解を深める。
第8回	12月の語彙	予習:教科書にある12月の語彙を調べる。 復習:授業で学んだ「つく」「立てる」に関する語彙の理解を深める。
第9回	12月の擬声語・擬態語	予習:教科書にある擬声語・擬態語を押さえる。 復習:授業で学んだ動きに関する語彙の理解を深める。
第10回	11・12月の復習	予習:11・12月の語彙を再び調べる。 復習:テストでできなかったところを学びなおす。
第11回	1月の語彙	予習:教科書にある1月の語彙を調べる。 復習:授業で学んだ正月に関する語彙の理解を深める。
第12回	1月の擬声語・擬態語	予習:教科書にある擬声語・擬態語を押さえる。 復習:授業で学んだ立ち方に関する語彙の理解を深める。
第13回	2月の語彙	予習:教科書にある2月の語彙を調べる。 復習:授業で学んだ覆うことに関する語彙の理解を深める。
第14回	2月の擬声語・擬態語	予習:教科書にある擬声語・擬態語を押さえる。 復習:授業で学んだ感触に関する語彙の理解を深める。
第15回	まとめ	予習:各回のテーマを振り返る。 復習:これまで十分な理解ができなかったところを学び理解を進める。